

Oracle® Enterprise Performance Management System

Installation and Configuration Troubleshooting Guide

リリース 11.1.2.4

著作権情報

Oracle® Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Troubleshooting Guide,

Copyright © 2007, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
第1章. はじめに	11
EPM System製品のトラブルシューティングについて	11
必要な知識	11
第2章. トラブルシューティングの基本	13
システムの要件の適合	13
インストールの前提条件の確認	13
リリースの互換性の確認	14
ポートの競合の回避	14
Readmeの確認	14
インストール・ガイドの使用方法	14
ログ分析ユーティリティの使用	14
インストールと構成の検証	15
EPM System診断の使用方法	15
デプロイメント・レポート	16
Enterprise Managerを使用したJava Webアプリケーションのモニター	16
My Oracle Supportの使用方法	16
Ziplogsユーティリティの使用	17
テクニカル・サポート・リソースへのアクセス	17
第3章. EPM Systemログの使用方法	19
ログ分析ユーティリティを使用した問題の識別	19
ログ分析ユーティリティの概要	19
前提条件	20
ログ分析ユーティリティ・レポートの場所	21
ログ分析ユーティリティのオプション	21
ログ分析ユーティリティの実行	24
ユーザー・アクティビティのECIDの検索	25
EPM System製品のロギング・マトリックス	26
ロギング・フォーマット	34
ODL構成	34
ODLロギング・レベル	35
ODL構成ファイル: 単一の管理対象サーバーのデプロイメント	35
ODL構成ファイル: 標準デプロイメント	35
ODL構成ファイルの変更	36
リモート・ロギングおよびローカル・ロギング	40
リモート・ロギングのバックアップ・ファイル	40
ログ・ローテーション: ODL	41
インストール、構成および診断ログ	41
アプリケーション・サーバー、WebサーバーおよびEPM Systemプロセス・ログ	45
アップグレード・ログ	46

Foundation Servicesログ	47
ライフサイクル管理のログ	50
Essbaseログ	50
Reporting and Analysisログ	54
Reporting and Analysis Frameworkログ	54
Financial Reportingログ	57
Web Analysisログ	58
Interactive Reportingログ	58
Financial Performance Managementアプリケーションのログ	60
Planningログ	60
Financial Managementログ	60
Performance Scorecardログ	62
Profitability and Cost Managementログ	62
Disclosure Managementログ	62
Financial Close Managementログ	63
SOA Suiteサーバー・ログ	63
Strategic Financeログ	64
データ管理ログ	64
FDMログ	64
FDMEEログ	65
Data Relationship Managementログ	65
Central Inventoryログ	66

第4章. 一般的なヒントと解決策 67

インストールのヒントとトラブルシューティング	67
EPM Systemインストーラのシャットダウン	68
クライアント・マシン上のEPM Systemインストーラ・ファイル	68
Oracle HTTP Server	68
プロキシ・サーバー	69
「製品の選択」パネル	69
SolarisでのEPM Systemインストーラの抽出	69
EPM Systemインストーラの起動	70
EPM Systemインストーラのフリーズ	70
「ようこそ」パネルの問題	70
再インストール	71
Oracle Databaseのインストール中のインストール・エラー	71
アップグレードの問題	72
EPM Systemコンフィグレータがアップグレード後に起動しない	72
アップグレード後にEssbase Studioカタログが破損する	72
メンテナンス・インストールの問題	73
単一の管理対象サーバーとメンテナンス・インストール	73
構成のヒントと解決策	74
分散環境	74
Javaヒープ・サイズ	74
製品データベース	74
EPM Systemコンフィグレータの起動	75
Oracle HTTP Serverの構成	75
複数のJava Webアプリケーション・デプロイメントでのメモリー不足エラー	75

Shared Servicesデータベースの初回構成	75
クラスタ化されたSQL Serverデプロイメントへの接続	76
JARファイルがない	76
構成エラー・メッセージ	76
「構成」タスク・パネル: 表示されない製品	77
非表示タスクの構成エラー	77
「データベース構成」の使用できないオプション	78
リモート・デプロイメント・タイムアウト	78
構成エラーなしのアプリケーション・サーバーのデプロイの失敗	78
単一ドメインへのJava Webアプリケーションの移動	79
Windows統合認証のサポート	79
同時ユーザーのメモリー不足エラー	80
接続の失敗の解決およびサービスの再開	80
デモ用証明書のメッセージ	80
WebLogic管理コンソールのポートの変更	80
WebSphereの問題	81
統合ソリューション・コンソール実行中のJava Webアプリケーションのデプロイ	81
デプロイメント中の管理者ユーザーの指定	81
統合ソリューション・コンソールのポート番号の確認	81
統合ソリューション・コンソールの起動	81
サーバーの起動、停止および再起動	81
アプリケーションを再起動	82
EARファイルの更新	82
EARファイルの再デプロイ	82
プロファイルの削除	82
WebSphereインストールのビット・タイプの確認	83
UNIX固有の問題	83
TC2000 SolarisでのJava Webアプリケーション起動に時間がかかる	83
AIXでのWebサーバー構成の失敗	83
JARファイルが見付からない	84
異なるUNIXシステムへのインストール	85
JVMを準備しているというエラー・メッセージ	85
Oracle共通ファイルのインストール	85

第5章. Foundation Services 87

Foundation Servicesアップグレード	87
Foundation Servicesの起動	88
EPM Workspace	89
ログオンに時間がかかる	89
EPM Workspaceに表示されない製品または製品メニュー	90
切り捨てられたメニュー	90
Oracle Business Intelligence Enterprise Editionの起動	90
Internet Explorerでのアイコンの点滅	91
Internet Explorerで無効のアイコンが白い背景で表示される	91
Mozilla Firefoxでの空の画面	91
404エラー・メッセージ	92
パフォーマンスの低下	92
Shared Services	93

リモート診断エージェントの実行	93
Shared Servicesへのログオン	93
Active Directoryの高可用性	94
製品の登録	94
ログオンの失敗後のセキュリティ・ロックアウト	94
ユーザー名内のアスタリスク	95
EPM System管理者のユーザー名	95
AuditHandlerメッセージ	95
監査データの削除およびOracleデータベースのテーブルスペース	95
シングル・サインオン	96
Shared Servicesレジストリの内容と更新	96
ユーザー・ディレクトリとプロビジョニング	97
起動およびアクセスに関する問題	99
製品固有の問題	101
ライフサイクル管理	102
移行のヒント: 名前付け	103
コンパクト・デプロイメントのメモリー不足エラー	103
環境の比較	103
SSLアプリケーションのフリーズまたは名前の不一致のエラー	103
Shared Servicesの起動	103
エクスポートの失敗	104
アーティファクト・インポートのライフサイクル管理タイムアウト	104
ライフサイクル管理診断	105
ライフサイクル管理とReporting and Analysis	105
ライフサイクル管理とFinancial Management	106
Performance Management Architect	109
ジョブ添付ファイルが開かない	110
ディメンション・サーバー・サービスが起動しない	110
McAfee HIPSを使用するユーザーのDataSyncページにソースと宛先のリンクが表示されない	110
Financial Managementアプリケーションをデプロイ中のORAエラー	111
Planningアプリケーションのデプロイ中の接続要求のタイムアウト・エラー	111
インストールの失敗	111
アップグレード後の検証エラー	111
EPM Workspaceとの統合	112
Performance Management Architectへのログオン	112
ログオン時のセキュリティ権限の問題	113
Oracle Hyperion EPMAサーバー・サービス起動	113
Performance Management Architectタスクの表示	113
ファイル・ジェネレータ	114
Performance Management Architectのディメンション・ライブラリまたはアプリケーション・ラ イブラリへのアクセス	114
アプリケーションの問題	116
Smart View	116
インストール方法	116
Smart View共有接続	116
第6章. Essbase	119
Essbaseメンテナンス・リリース	119

EssbaseおよびProvider Servicesのアップグレード	120
Essbaseステージング・ツール	120
役割の更新	120
Essbase Studioデータベースの構成タスク	120
MaxLからのログイン	121
アップグレード前のセキュリティ・ファイルのバックアップ	121
Essbaseクラスタへの接続	122
Essbaseサーバーの起動	122
LinuxのEssbaseの起動	123
Essbaseのフェイルオーバーの問題	124
クライアント-サーバーの接続	124
OPMNの再起動	124
起動: ポートの競合	124
Integration Services: OLAPメタデータ・カタログまたは外部データ・ソースへの接続	125
Essbase Studioの起動	125
Essbase Studioログの削除	125
第7章. Reporting and Analysis	127
Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションの起動	127
Financial Reporting	127
Interactive Reporting Studio	128
Essbaseのロード・エラー	128
Oracle Net接続の失敗	128
Oracle Procedureの処理の失敗	128
フォントが正しく表示されない	128
Reporting Studio	129
Web Analysis	129
Web Analysisの起動	129
SAP BWへの接続エラー	129
BEx問合せが表示されない	129
第8章. Financial Performance Managementアプリケーション	131
Financial Performance Managementアプリケーション・アップグレード	131
Financial Managementアプリケーション・アップグレード	131
Planning	132
EPM WorkspaceにPlanningアプリケーションが表示されない	132
PlanningおよびAdministration Services	132
パフォーマンスの問題	132
非英語環境でのPlanningの使用	133
Business Rules	133
Financial Management	135
Financial Managementへのアクセス	136
接続の問題	137
インストールに必要な権限	138
大きなデータまたはファイルのロード	139
固定サーバーがユーザーのリダイレクトを試みる	139
EnableServerLockingオプション	139

JRF WebServices Asynchronousサービス	139
Financial Close ManagementおよびTax Governance	140
Financial Close Managementの一般的なトラブルシューティングのヒント	140
OWSMロギングの有効化	141
管理対象サーバーのメモリ不足エラー	141
SOAサーバー・ログ内のHumanWorkflowエンジンのエラー	141
Financial Close Managementのインストールおよび構成の問題	142
使用できないBeanの警告が繰り返される	147
Financial Close Managementスケジュールの実行の問題	147
WebLogicおよびLogging Last Resource (LLR)データソース	154
Account Reconciliation Management	155
ディメンションまたはプロファイルの表示	155
ソースの初期化	155
StuckThreadMaxエラー	156
ODIシナリオ	156
Profitability and Cost Management	156
Profitability and Cost Management接続タイプを使用した問題の解決	156
Disclosure Management	157
第9章. データ管理	159
FDM	159
FDMアップグレード	159
Shared Servicesへの登録	159
Financial Managementの構成	160
Oracleクライアント/プロバイダ・データベースの接続	160
データベース・ユーザーIDまたはパスワード	160
ユーザー認証	161
一括挿入	161
Active-Xコンポーネントのエラー	161
アプリケーション作成時のアクセス・エラー	161
64ビットWindowsでの新規FDMアプリケーションの作成の失敗	162
FDME	162
データ・ロード・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なガイドライン	162
データ・ルールにアクセスできない	162
FDMEがEPM Workspaceで使用できない	163
Data Relationship Management	163
Webクライアントへのアクセス	163
初期化の失敗	164
JVM作成エラー	164
無効なクラスパス・ルート	165
Data Relationship Managementサーバーの起動	165
アップグレード時のエラー・メッセージ	165

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

1

はじめに

この項の内容:

EPM System製品のトラブルシューティングについて	11
必要な知識	11

Oracle(R) Technology NetworkでOracle Documentation Library (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)を確認し、このガイドの更新版がないかどうか確認してください。

EPM System製品のトラブルシューティングについて

このガイドでは、Oracle Enterprise Performance Management System製品のインストールおよび構成のトラブルシューティングのヒントについて説明します。このガイドには、トラブルシューティングの方法、参照すべき重要なドキュメント、およびログの使用法に関する概要が含まれます。また、Oracle Hyperion Shared Servicesを使用して、EPM System製品アプリケーション間でユーザーをプロビジョニングおよび共有する際に遭遇する問題への解決策、およびOracle Hyperion Enterprise Performance Management WorkspaceおよびOracle Hyperion Reporting and Analysisを使用する際に遭遇する問題への解決策についても説明します。

必要な知識

このガイドは、EPM System製品をインストール、構成および管理する管理者を対象にしています。前提条件となる知識は次のとおりです:

- セキュリティおよびサーバーの管理スキル
- WindowsまたはUNIXの管理者のスキル
- Java Webアプリケーション・サーバー管理スキル
- Oracle Internet Directory、LDAP、Microsoft Active Directoryなどの認証プロバイダを含む組織のセキュリティ・インフラストラクチャおよびSSLの使用に関する十分な理解
- 組織のデータベース環境とサーバー環境に関する十分な理解
- 所属組織のネットワーク環境やポート使用に関する深い理解

2

トラブルシューティングの基本

この項の内容:

システムの要件の適合	13
インストールの前提条件の確認	13
Readmeの確認	14
インストール・ガイドの使用方法	14
ログ分析ユーティリティの使用	14
インストールと構成の検証	15
EPM System診断の使用方法	15
デプロイメント・レポート	16
Enterprise Managerを使用したJava Webアプリケーションのモニター	16
My Oracle Supportの使用方法	16
Ziplogsユーティリティの使用	17
テクニカル・サポート・リソースへのアクセス	17



注:

テクニカル・サポートに連絡する前に、この章に記載されているタスクを実行してください。

システムの要件の適合

EPM System製品をインストールする前に、ご使用の環境が、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>)で指定されている要件を満たしていることを確認します。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Installerは、インストールするEPM Systemコンポーネントの前提条件を環境が満たしているか確認します。EPM Systemインストーラの「ようこそ」画面には、このような確認の結果の一部が表示されます。

インストールの前提条件の確認

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成トラブルシューティング・ガイド』には、正常なインストールの計画に必要な前提条件、デフォルト・ポートおよびその他の情報が含まれます。

リリースの互換性の確認

前のリリースからアップグレードする場合は、現在の環境におけるEPM System製品のソフトウェア・バージョンとの互換性があるかどうかを確認します。*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>)を参照してください。

ポートの競合の回避

EPM System製品の構成時に、Java Webアプリケーションのデフォルトのポート番号が自動的に移入されます。このデフォルト値は、構成時に変更できますが、各ポート番号は一意にする必要があります。ポート使用中やバインド・エラーのようなエラー・メッセージが表示されないようにするには、『*Oracle Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイド』のデフォルトの製品ポート番号のリストを確認してください。

Readmeの確認

『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成Readme』には、すべてのEPM System製品の既知のインストールおよび構成の問題が含まれます。このReadmeを確認し、各自のデプロイメントに影響する可能性がある最新情報があるかどうかを確認することは非常に重要です。

さらに、EPM System製品には、各リリースに対するReadmeドキュメントが含まれます。このReadmeには、製品のその他の既知の問題および最新情報が含まれます。

インストール・ガイドの使用方法

『*Oracle Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイド』には、すべての製品のインストールと構成の手順が含まれます。インストールや構成の問題の解決策は、多くの場合、インストール・ガイドで必要な手順をすべて正しく完了したかどうかを確認すると見つかります。

分散環境でのインストールと構成の問題の詳細は、『*Oracle Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイド』の新規デプロイメントでのEPM System製品のインストール、および新規デプロイメントでのEPM System製品の構成における、分散環境でのEPM System製品のインストールに関する項を参照してください。

ログ分析ユーティリティの使用

ログ分析ユーティリティは、該当するログ・ファイルを分析してEPM Systemの問題の原因を特定するのに役立つコマンドライン・ツールです。このツールではログ・ファイル分析が自動化されるため、システムの問題を特定するためにEPM Systemログ・ファイルを検索およびスキャンする必要はありません。問題のトラブルシューティングやOracleサポートへの報告に必要な情報が、このツールを実行すると簡単に入手できます。詳細は、[19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」](#)を参照してください。

インストールと構成の検証

製品をインストールして構成した後に、次のタスクを実行してデプロイメントを検証します。

- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System診断を使用して、インストールされ、構成されているEPM Systemコンポーネントのステータスをテストし、問題を診断し、問題解決を支援します。デプロイメントされている各マシンでEPM System診断を実行します。テストの結果は、HTMLフォーマットで保存されます。詳細は、[15ページのEPM System診断の使用方法](#)を参照してください。
- インストール・ログの例外とエラーを確認し、必要なすべてのコンポーネントが正常にインストールされていることを確認します。
- すべての構成タスクが、次のように正常に完了していることを確認します:
 - Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemコンフィグレータの要約パネルに失敗や警告が表示されていません。

エラー・メッセージが表示される場合、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config/configtool_summary.logを確認します。
 - EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config/configtool.logに例外が表示されていない。

詳細は、[41ページのインストール、構成および診断ログ](#)を参照してください。

EPM System診断の使用方法

EPM System診断では、次のテストが実行されます:

- CFG: 構成 - すべての構成タスクが完了したかどうか
- DB: データベース - データベースhost:port;databaseNameへの接続
- EXT: 外部認証 - ネイティブ・ディレクトリ外部認証プロバイダ構成
- HTTP: http - Webサーバー用に構成された全コンポーネントのHTTPコンテキストの可用性
- SSO:
 - Shared Servicesセキュリティ(ネイティブ・ディレクトリおよび外部ディレクトリ)のステータス
 - Shared Services、タスクフロー、監査、Shared Services Java WebアプリケーションおよびOracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理へのログインの可否
- WEB: Webアプリケーション - host:portでのJava Webアプリケーションの可用性
- 追加製品固有のテスト

EPM System診断を実行するたびに作成されるレポートには、次の情報が含まれています:

- テストの日付と時刻
- テスト・ステータス: 各テストの成功または失敗
- サービス: 各テストのテスト・タイプ
- テストの説明: 各テストの詳しい説明
- 時間: 各テストの所要時間
- テストの開始時刻

- テストの終了時刻
- 合計テスト時間

EPM System診断では、すべてのEPM Systemログのzipファイル(EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logsのzip圧縮と同等)も生成されます。

▶ EPM System診断を使用するには:

1. 次のいずれかの方法でEPM System診断を起動します:

• (Windows)

○EPM_ORACLE_INSTANCE/binで、`validate.bat`をダブルクリックします。

○「スタート」メニューから、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Foundation Services」、「instance Name」、「EPM System診断」の順に選択します。

• (UNIX)コンソールから、EPM_ORACLE_INSTANCE/binに移動して、`validate.sh`と入力します。

2. 結果を表示するには、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reportsに移動して、`validation_report_date_time.html`を開きます。
3. 不合格だったテストの結果を確認し、問題を診断および解決します。
4. EPM System診断をもう一度実行し、新しいレポートを表示して問題が解決されたことを確認します。

EPM System診断の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

デプロイメント・レポート

EPM System製品で使用される構成されたJava Webアプリケーション、Webサーバー、データベースおよびすべてのデータ・ディレクトリの情報を提供するデプロイメント・レポートを生成できます。この情報はトラブルシューティングを行う上で有効です。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のデプロイメント・レポートの生成に関する項を参照してください。

Enterprise Managerを使用したJava Webアプリケーションのモニター

Oracle Enterprise Manager Fusion Middleware Controlは、EPM Systemとともに自動的にデプロイされます。これを使用して、EPM SystemのすべてのJava Webアプリケーションをすぐに管理できます。Grid Controlを使用するフル・バージョンのEnterprise Managerでは、Fusion Middleware Controlに機能(メトリックの履歴情報を含む)を追加します。Enterprise Manager Fusion Middleware Controlの詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemデプロイメント・オプション・ガイド』を参照してください。

My Oracle Supportの使用方法

最新のサポート契約とカスタマ・サポートIDをお持ちの場合は、インストールおよび構成に関する問題の解決にMy Oracle Supportのナレッジ・ベースの情報を検索できます。また、My Oracle Supportを使用して、サービス要求を

入力したり、ソフトウェア・リリースやパッチをダウンロードしたり、その他のオンライン・サポート・タスクを行うことができます。



注:

インストールや構成の問題についてサービス・リクエスト(SR)を作成する前に、ziplogsユーティリティを実行します。17ページのZiplogsユーティリティの使用を参照してください。

EPM SystemインストールでEPM Oracleホーム・ディレクトリに含まれているOracle Configuration Managerでは、Oracleソフトウェアのインストールと構成の情報が収集され、My Oracle Supportにアップロードされます。Oracle Configuration Managerで収集された情報によって問題を解決する時間が短縮され、My Oracle Supportの内容が構成に合ったものになります。

必要に応じてナレッジ・ベース検索のデフォルト・ソースを調整して、Hyperion製品のドキュメントを含めることをお勧めします。

詳細は、「My Oracle Support」ホーム・ページの「スタート・ガイド」をクリックしてください。

Ziplogsユーティリティの使用

インストールまたは構成に関する問題のサービス・リクエスト(SR)を作成する前に、EPM_ORACLE_INSTANCE/binにあるユーティリティziplogs.bat (Windows)またはziplogs.sh (UNIX)を実行します。SRを作成する際、スクリプトの出力を添付してください。出力はEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/ziplogsに保存されます。この出力は、ログ、構成ファイル、およびサポートがインストールや構成の問題を解決するのに役立つその他の情報をzip形式でまとめたものです。

テクニカル・サポート・リソースへのアクセス

EPM Systemパフォーマンス管理ソリューションを効果的に運用、管理および実行するため、必要なときに技術的な専門知識を得るには、<http://www.oracle.com/support/index.html>でOracleサポート・サービスに問い合せてください。

オラクル社は、Oracleサポート・サービスに対して米国内で1日24時間、週7日、専用のテキスト電話(TTY)アクセスを提供しています。TTYサポートの詳細は、800.446.2398までお電話でお問い合わせください。

3

EPM Systemログの使用方法

この項の内容:

ログ分析ユーティリティを使用した問題の識別	19
EPM System製品のロギング・マトリックス	26
ロギング・フォーマット	34
ODL構成	34
リモート・ロギングおよびローカル・ロギング	40
リモート・ロギングのバックアップ・ファイル	40
ログ・ローテーション: ODL	41
インストール、構成および診断ログ	41
アプリケーション・サーバー、WebサーバーおよびEPM Systemプロセス・ログ	45
アップグレード・ログ	46
Foundation Servicesログ	47
ライフサイクル管理のログ	50
Essbaseログ	50
Reporting and Analysisログ	54
Financial Performance Managementアプリケーションのログ	60
データ管理ログ	64
Central Inventoryログ	66

ログ分析ユーティリティを使用した問題の識別

サブトピック

- ログ分析ユーティリティの概要
- 前提条件
- ログ分析ユーティリティ・レポートの場所
- ログ分析ユーティリティのオプション
- ログ分析ユーティリティの実行
- ユーザー・アクティビティのECIDの検索

ログ分析ユーティリティの概要

ログ分析ユーティリティは、該当するログ・ファイルを分析してEPM Systemコンポーネントで報告された問題の原因を特定するのに役立つコマンドライン・ユーティリティです。このユーティリティではログ・ファイル分析が自動化されるため、問題を特定するためにEPM Systemログ・ファイルを手動で検索およびスキャンする必要はありません。

問題のトラブルシューティングやOracleサポートへの報告に必要な情報が、このユーティリティを実行すると簡単に入手できます。Oracle Hyperion Foundation Servicesがインストールされているサーバー上で実行され、このユーティリティはEPM SystemインスタンスのOracle Hyperion Shared Services Registryで識別される、すべてのサーバー上のログ・ファイルにアクセスして分析します。

ログ分析ユーティリティを使用すると、次を行えます:

- 期間内に発生したEPM Systemエラーをリストします。システムの問題は、サービス、コンポーネント間の通信エラー、およびユーザー・ディレクトリの通信エラーに関連しています。
- 期間内に発生した機能的な問題をリストします。機能的な問題はEPM Systemコンポーネント機能に関連しています。たとえば、Oracle Essbaseの計算実行中のエラーや、Oracle Hyperion PlanningまたはOracle Hyperion Financial Managementでのフォームのロード・プロセスです。
- EPM Systemコンポーネント間のユーザー・セッションをトレースするログ・ファイルを介して、実行コンテキストID (ECID)をトレースします。ECIDは、同じリクエスト実行フローの一部であるイベントに関連付けるために使用される、一意の識別子です。ECIDはOracle標準の一意のIDです。

前提条件

EPM_ORACLE_INSTANCE/bin (例: WindowsサーバーではC:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1/bin)にアクセスできるユーザーはすべて、ログ分析ユーティリティを実行できます。

- ログ分析ユーティリティを実行中のユーザーには、次のファイルに対する実行権限が必要です:

Windows: EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.bat

Linux/UNIX: EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.sh

- ログ分析ユーティリティを実行中のユーザーには、EPM Systemコンポーネントをホストしているすべてのサーバー・マシン上の、MIDDLEWARE_HOME/user_projects内のファイルおよびディレクトリに対する読取り権限が必要です。ユーザーには、ユーティリティによってレポートが作成されるディレクトリに対する書込み権限も必要です。

ログ・ファイルがMIDDLEWARE_HOME/user_projects内の場所に格納されていない場合、ユーティリティを実行中のユーザーにはカスタムの場所にあるログ・ファイルの読取り権限が必要です。

- Linux/UNIXのみ: EPM Systemコンポーネントをホストしているすべてのサーバー・マシンに対するシンボリック・リンク(ソフト・リンク)が、ユーティリティが実行される元のマシンのMIDDLEWARE_HOME/user_projectsディレクトリに存在する必要があります。

シンボリック・リンクを作成するには、次のlnコマンドを使用します:

```
ln -s  
target  
  
symbolic_name_of_target
```

例: ln -s /net/epm_server2/Oracle/Middleware/user_projects epm_server2

ログ分析ユーティリティ・レポートの場所

ログ分析ユーティリティは、指定したコマンド・オプションに基づいてHTMLレポートを作成し、それをEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reports (例: WindowsサーバーではC:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1/diagnostics/reports)内に保存します。

一般的に、ログ分析ユーティリティは次のレポート・ネーミング規則を使用します:

```
LogAnalysis_Report_  
YYYY_MM_DD_HR_MIN_SEC  
.html
```

ログ分析ユーティリティは、一意のレポート名を指定できるコマンド・オプションを備えています。



注:

ログ分析ユーティリティ・レポートの内容が文字化けしている場合、`-Dfile.encoding=UTF-8`ディレクティブをログ分析ユーティリティ実行可能ファイル(EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.batまたはEPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.sh)から削除して、レポートを再生成します。

ログ分析ユーティリティのオプション

ログ分析ユーティリティを使用するためのオプション:

```
loganalysis [-all | -system | -functional | -m [ERROR | INCIDENT_ERROR  
WARNING | NOTIFICATION | TRACE]] [-t [<TIME FROM> <TIME TO>] -tday <days> -thour  
<hours> -tmin <minutes>] -ecid <ecid> -s <SEARCH STRING> -d <Offline log files  
directory> -f <file with message ids to filter from the report> -maxsize <max report  
size in MB>
```

表1 ログ分析ユーティリティのパラメータ

パラメータ	説明
-h	ヘルプ・ページが表示されます。 例: loganalysis -h
-system	ERRORおよびINCIDENT_ERRORログ・メッセージ・タイプが含まれるレポートを生成します。通常はEPM System IT管理者によって使用されます。 例: loganalysis -system
-functional	タイプWARNING、NOTIFICATIONおよびTRACEのメッセージが含まれる詳細レポートを生成します。通常はEPM System機能管理者によって使用されます。 例: loganalysis -functional

パラメータ	説明
-ecid <ECID>	<p>EPM Systemのコンポーネント全体で実行されたアクティビティをトレースするレポートを生成します。ECIDを引数として取得します。このレポートはEPM Systemのコンポーネント全体でエラーをトレースするために使用されます。通常は、-all、-systemまたは-functionalのオプションを使用してレポートを実行することでエラーを識別した後、エラーの原因となったアクティビティをトレースする場合にこのオプションが使用されます。25ページのユーザー・アクティビティのECIDの検索を参照してください。</p> <p>注:</p> <p>カレット記号(^)が含まれるECIDは引用符で囲む必要があります。</p> <p>例: <code>loganalysis -ecid "0000Jet8kA6ESOG_Ix5Eif1G^RAF000005"</code></p>
-m <ERROR TYPE>	<p>指定したタイプのメッセージが含まれるレポートを生成します。次のエラー・メッセージ・タイプのいずれかを引数として取得します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ERROR • INCIDENT_ERROR • WARNING • NOTIFICATION • TRACE <p>例: <code>loganalysis -m ERROR</code></p>
-o <TITLE>	<p>カスタム・レポート・タイトルが含まれるレポートを生成します。レポート・タイトルを、二重引用符で囲んで、引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -m ERROR -o "myError Report"</code>では、myError Report.htmlというタイトルのレポートが作成され、これにはすべてのログ・ファイルに含まれるERRORタイプのログ・メッセージが含まれます。必ず、引用符を使用してレポート名を囲んでください。</p>
-s <STRING>	<p>指定された文字列を含むログ・メッセージに関するレポートを生成します。エラー文字列を、二重引用符で囲んで、引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -system -s "Failed to connect to DB" -o "DB Connection Errors"</code>では、DB Connection Errors.htmlというタイトルのレポートが作成され、これには文字列Failed to connect to DBが</p>

パラメータ	説明
	含まれるERRORおよびINCIDENT_ERRORタイプのすべてのメッセージがリストされます。
-t <FROM DATE>T<FROM TIME><TO DATE>T<TO TIME>	<p>指定した期間内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。スペースで区切られた"from"時間と"to"時間を、引数として取得します。</p> <p>"from"時間と"to"時間は、24時間制を使用してYYYY-MM-DDTHOUR:MIN:SEC形式で指定する必要があります。</p> <p>例: loganalysis -all -t 2012-08-10T12:00:00 2012-08-10T23:59:59 -o "All Messages on August_10_2012"ではAll Messages on August_10_2012.htmlが作成され、これには2012年8月10日の午前0時から午後11:59:59の間に生成されたすべてのログ・メッセージが含まれます。</p>
-tday <DAYS>	<p>指定した日数以内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。数値を引数として取得します。</p> <p>例: loganalysis -ERROR -tday 3 -o "Error Messages for the last three days"ではError Messages for the last three days.htmlが作成され、これには過去3日以内に生成されたERRORタイプのメッセージが含まれます。</p>
-thour <HOURS>	<p>指定した時間数内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。数値を引数として取得します。</p> <p>例: loganalysis -ERROR -thour 6 -o "Error Messages for the last six hours"ではError Messages for the last six hours.htmlが作成され、これには過去6時間以内に生成されたERRORタイプのメッセージが含まれます。</p>
-tmin <MINUTES>	<p>指定した分数内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。数値を引数として取得します。</p> <p>例: loganalysis -ERROR -tmin 45 -o "Error Messages for the last 45 minutes"ではError Messages for the last 45 minutes.htmlが作成され、これには過去45分以内に生成されたERRORタイプのメッセージが含まれます。</p>
-d <DIRECTORY PATHS>	指定したディレクトリ・パスに格納されたログ・ファイルに関するレポートを生成します。EPM Systemコンポーネントのデフォルトのログ・ファイルの場所に格納されていないログ・ファイルを分析するには、このオプションを使用します。カンマ区切りの場所のリストを使用して、複数のログの場

パラメータ	説明
	<p>所を指定できます。ディレクトリ・パスは二重引用符で囲む必要があります。</p> <p>例: <code>loganalysis -m INCIDENT_ERROR -d "c:/logfiles","z:/OracleLogs","y:/EPMLogs" "/net/epm_server2/Oracle/Middleware/user_projects" -o "myCustom Analysis Report"</code>では、指定したディレクトリで使用可能なログ・ファイルに含まれるタイプ <code>INCIDENT_ERROR</code> のメッセージをリストする、<code>myCustom Analysis Report</code> というタイトルのレポートが作成されます。</p>
<code>-f <arg></code>	このリリースでは使用されません(将来の使用のために予約されています)。
<code>-maxsize <arg></code>	<p>レポート・サイズを増やします。デフォルトのレポート・サイズは5MBです。</p> <p>例: <code>loganalysis -all -o "Custom Analysis Report" -maxsize 15</code>は、サイズの上限が15MBのレポートを生成します。レポートは <code>Custom Analysis Report</code> というタイトルが付けられ、すべてのログ・ファイル内のすべてのメッセージが含まれます。</p>
<code>-all</code>	<p>すべてのログ・ファイル内のメッセージをリストするレポートを生成します。このレポートの生成には時間がかかり、サイズの大きいレポート・ファイルが生成される可能性があります。レポート・スコープを制限する他のパラメータを指定せずにこのコマンド・オプションを使用することはお勧めしません。</p> <p>例: <code>loganalysis -all</code></p>

ログ分析ユーティリティの実行

ログ分析ユーティリティはコマンド・ライン・ユーティリティです。

▶ ログ分析ユーティリティを実行するには:

1. Foundation Servicesをホストしているサーバー・マシンでコマンド・プロンプトを起動します。



注:

Foundation ServicesがLinux/UNIXサーバーにデプロイされている場合、EPM Systemコンポーネントをホストしているすべてのサーバー・マシンに対するシンボリック・リンクが `MIDDLEWARE_HOME/user_projects` ディレクトリに存在していることを確認します。

2. `EPM_ORACLE_INSTANCE/bin` (通常、Windowsサーバーでは `C:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1/bin`) に移動します。

3. コマンドを実行します。レポートを生成する適切なコマンド・オプションを指定します。[21ページの表 1](#)を参照してください。

- loganalysis.bat OPTIONS (Windows)
- loganalysis.sh OPTIONS (UNIX/Linux)

たとえば、"Database Issues_1-21-2013_11AM"というタイトルのレポートを作成するにはWindowsサーバーで次のようなコマンドを使用します。このレポートには、2012年11月21日午前11時前後にEPM Systemコンポーネントがデータベース接続を失う原因となったエラーに関連するメッセージが含まれています:

```
loganalysis -system -t 2013-01-21T11:15:00 2013-01-21T11:20:00 -s "Failed to connect to DB" -o "Database Issues_1-21-2013_11 AM".
```

ユーザー・アクティビティのECIDの検索

ECIDは、複数のEPM Systemコンポーネント間でユーザーのアクティビティを相互に関連付ける一意のシステム生成識別子です。

ユーザーのアクティビティのECIDを検索するには、最初にログ分析ユーティリティ・レポートを生成する必要があります。ログ・メッセージの詳細に含まれるECIDは、次のようになります:

```
0000Jet8kA6ES0G_Ix5Eif1G^RAF000005
```

- ▶ ユーザー・アクティビティのECIDを特定するには:
 1. ログ分析ユーティリティを実行し、システム・エラーまたは機能エラーをリストするレポートを生成します。[24ページのログ分析ユーティリティの実行](#)を参照してください。
 2. EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reports (例: WindowsサーバーではC:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1/diagnostics/reports)から、生成したレポートを開きます。

Log Analysis Report			
- Generated Date: 2013-02-28 11:03:49 - Log Files Scanned: 182 in 267 Sec - Total Incidents: 5 - Excluded Messages: 1 - Message Type: INCIDENT_ERROR			
Log Messages			
Date	Component	Message Type	Message Details
2013-02-25 14:03:02	EPMServer0	INCIDENT_ERROR	Server 'EPMServer0' in cluster 'EPMServer' is being brought up in administration state due to failed deployments. Message Level: 4 Message ID: BEA-149259 Module ID: Deployer User ID: <WLS Kernel> Thread ID: [ACTIVE] ExecuteThread: '12' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-tuning)' Host ID: slc01asq LOG_FILE: C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\EPMServer0\logs\EPMServer0.log00001 ECID: 0000JoJ9OSDE*MG_xP5if1HAxDd000002
2013-02-25 14:11:21	EPMAAGENT	INCIDENT_ERROR	No agent is configured from HIT registry , please make sure the registry is confi gured properly Message Level: 1 Module ID: oracle.EPMAAGENT.com.oracle.cmc.Agent Thread ID: 10 LOG_FILE: C:\Oracle\Middleware\user_projects\FOUNDATION\diagnostics\logs\ReportingAnalysis\agent.log ECID: 0000JoJCTC2E*MG_xP5if1HAxDd000000 RID: 0
2013-02-25 14:17:23	EPMServer0	INCIDENT_ERROR	Server 'EPMServer0' in cluster 'EPMServer' is being brought up in administration state due to failed deployments.

EPM System製品のロギング・マトリックス

この項の各表では、ロギング・フォーマット、デフォルトのメッセージ・タイプおよびロギング・レベル、ロギング構成ファイルの名前および場所など、ロギングに関する情報をEPM Systemのツール、コンポーネントおよび製品別に示します。

この項では、ロギング構成ファイルの場所の中でデフォルト・ドメインのEPMSystemを使用します。別のドメイン名を使用するよう構成されている環境では、EPMSystemドメインをそのドメイン名に置き換えてください。

この項では、管理サーバーにもデフォルト名を使用しています; たとえば、FoundationServices0はFoundation Services管理対象サーバーのデフォルト名です。別の管理対象サーバー名を使用するよう構成されている環境では、デフォルト名をその管理対象サーバー名に置き換えてください。



注:

コンパクトなデプロイメントのため、ログはすべてMIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/epmsystem0/logsにあります。ロギング構成ファイル (logging.xml)は、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/epmserver0にあります。

EPM System製品のデフォルト・ロギング・レベルは推奨のレベルになっていますが、ほとんどの製品で変更可能です。ODLロギング・レベルのオプションの詳細は、[35ページのODLロギング・レベル](#)を参照してください。

表2 EPM Systemのインストールおよび構成ロギング・フォーマット

ツール/コンポーネント	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
EPM Systemインストーラ 41ページのインストール、構成および診断ログを参照してください。	TRACE	インストーラ・イメージ内のinstallTool.jarと同じ場所にあるinstallTool-logging.xml
EPM Systemコンフィグレータ 41ページのインストール、構成および診断ログを参照してください。	TRACE	EPM_ORACLE_HOME/common/config/11.1.2.0/configTool-logging.xml
EPM System診断と検証ツール	TRACE	EPM_ORACLE_HOME/common/validation/11.1.2.0/validationTool-logging.xml
EPM Systemアンインストーラ	TRACE	EPM_ORACLE_HOME/uninstall/uninstall-logging.xml

表3 Foundation Servicesのロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Shared ServicesとEPM Workspace	NOTIFICATION	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0/logging.xml
Shared Servicesのライフサイクル管理(コマンド・プロンプト)	NOTIFICATION	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/FoundationServices/logging.xml
Essbaseのライフサイクル管理	NOTIFICATION	<ul style="list-style-type: none"> EPM_ORACLE_INSTANCE/config/FoundationServices/logging.xml – コマンド・ライン・ユーティリティから実行される移行用 MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0/logging.xml – Shared Servicesから実行される移行用です。
Oracle Hyperion EPM Architectディメンション・サーバー	NOTIFICATION:32	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/EPMA/DimensionServer/logging.xml
Performance Management Architectデータ・シンクロナイザ	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EpmaDataSync0/logging.xml
Performance Management Architect Webアプリケーション	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EpmaWebReports0/logging.xml

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Oracle Hyperion Calculation Manager	WARNING	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/CalcMgr0/logging.xml
Oracle Smart View for Office	該当せず	Smart Viewはクライアントサイド・アプリケーション。イベントやエラー、その他の情報が記録されるファイルの名前と場所は、オプションとしてSmart Viewで指定します。Smart Viewのロギング・オプションの詳細は、『Oracle Hyperion Smart View for Officeユーザー・ガイド』を参照してください。

表4 Essbaseのロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Essbaseサーバー	TRACE:1	<p>EPM_ORACLE_INSTANCE/Essbase Server/essbaseserver1/bin/logging.xml logging.xmlでは、<loggers>セクションに次の2つのエントリがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EssbaseAgentODLLogger — Essbaseエージェント用。これはEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/essbase/essbase_0のESSBASE_ODL.logに書き込みます(0はインスタンス番号)。 • DefSvrLogger — Essbaseアプリケーション・サーバー(ESSSVR)用。これはEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/essbase/essbase_0/application nameのapplication name.LOGに書き込みます。
Oracle Essbase Administration Services	WARNING	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EssbaseAdminServices0/logging.xml
Oracle Hyperion Provider Services	WARNING:1	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/AnalyticProviderServices0/logging.xml

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Oracle Essbase Studio	INFO, FINE	EPM_ORACLE_INSTANCE/BPMS/bpms1/bin/logging.xml
Oracle Essbase Integration Services	-L2	ロギングを有効にしてロギング・レベルを設定するには、Integration Servicesを起動する場合に-Lスイッチを使用します。詳細は、『Oracle Essbase Integration Servicesシステム管理者ガイド』を参照してください。

表5 Reporting and Analysisのロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework	WARNING:1	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/RaFramework0/logging.xml
Reporting and Analysis Frameworkサービス	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/ReportingAnalysis/logging/logging_ra.xml
Reporting and Analysis Frameworkエージェント	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/ReportingAnalysis/logging/logging_agent.xml
Reporting and Analysis Frameworkジョブ・ユーティリティのカレンダ・マネージャ用のロギング構成	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/ReportingAnalysis/JobUtilities/logging_ju.xml
Reporting and Analysis Framework SDK	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/ReportingAnalysis/SDK/logging.xml
Oracle Hyperion Interactive Reporting	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE/config/ReportingAnalysis/logging/logging_ir.xml
Oracle Hyperion Financial Reporting	ERROR:1	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPM_System/config/fmwconfig/servers/FinancialReporting0/logging.xml
Financial Reporting印刷サーバー	NOTIFICATION:32	EPM_ORACLE_HOME/products/financialreporting/lib/printserverlogging.xml
Financial Reportingクライアント	NOTIFICATION:32	FINANCIAL_REPORTING_STUDIO_INSTALL_DIR/products/

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
		financialreporting/lib/clientlogging.xml
Oracle Hyperion Web Analysis	WARNING:1	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/fmwconfig/servers/WebAnalysis0/logging.xml

表6 Financial Performance Managementアプリケーションのロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Planning	DEBUG	各Planningアプリケーション・サーバーのロギング・レベルは、Planningを使用して設定します。60ページのPlanningログを参照してください。
	NOTIFICATION:32	EPM_ORACLE_HOME/products/Planning/logging/logging.xml
Financial Managementサーバー	ERROR:1	EPM_ORACLE_INSTANCE/products/FinancialManagement/loggingにあるファイル: <ul style="list-style-type: none"> • InteropLogging.xml EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/loggingにあるファイル: <ul style="list-style-type: none"> • hfmDiagLogging.xml
Financial Management Webサービス	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/HFMWeb0/logging.xml ロギング・レベルを変更するには、次のロガーを編集します: <pre> <logger level="NOTIFICATION:32" name="oracle.epm. webservices.fm" useParent Handlers="false"> <handler name="epm-fm- webservices-handler"/> </logger> </pre>

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
		<p>モジュール・レベルのロギングは、このコンポーネントでは使用できません。</p>
Financial Management Webアプリケーション	NOTIFICATION:32	<p>MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/HFMWeb0/logging.xml 特定のモジュールのロギング・レベルを変更するには、次の情報を使用します: ファイルの次のセクションをコピーし貼り付けます:</p> <pre data-bbox="1034 763 1442 1104"> <logger level="NOTIFICATION:32" name="oracle.FMADF" use ParentHandlers="false"> <handler name="fmadf- handler"/> </logger> </pre> <p>"name"の値を次のリストのモジュール名で置き換えてから、ロギング・レベルを必要なレベルに変更します。ロギング・レベルはすべてのモジュールに適用されます。</p> <ul data-bbox="1034 1350 1442 1910" style="list-style-type: none"> • アプリケーション・パラメータ・サービス — oracle.FMADF.APPPARAM • アプリケーション・サービス — oracle.FMADF.APPLICATION • 連結管理 — oracle.FMADF.ADMIN • ドキュメント — oracle.FMADF.DOCMGR • EPU — oracle.FMADF.EPU • ファイル転送サービス — oracle.FMADF.FILETRANSFER • フォーム — oracle.FMADF.WEBFORM

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
		<ul style="list-style-type: none"> • フォーム — oracle.FMADF.WEBFORMDATA • グリッド — oracle.FMADF.WEBGRID • HFM例外サービス — oracle.FMADF.HFMEXCEPTION • ICT — oracle.FMADF.INTERCOMPANYTRANSACTIONS • 仕訳 — oracle.FMADF.JOURNAL • 仕訳 — oracle.FMADF.JOURNALS • ライン・アイテム — oracle.FMADF.LINEITEMS • 抽出のロード — oracle.FMADF.LOAEEXTRACT • メール・サービス — oracle.FMADF.MAILER • データの管理 — oracle.FMADF.MANAGEDATA • 出資比率の管理 — oracle.FMADF.MANAGEOWNERSHIP • メタデータ・サービス — oracle.FMADF.METADATA • プロセス・コントロール — oracle.FMADF.PROCESSCONTROL • レジストリ・サービス — oracle.FMADF.REGISTRY • 関連コンテンツ — oracle.FMADF.RELATEDCONTENT • リソース・バンドル・サービス - oracle.FMADF.RESOURCE • ルート・ロガー — oracle.FMADF • ドキュメントの保存ダイアログ — oracle.FMADF.SAVEDOCUMENT • セキュリティ・サービス - oracle.FMADF.SECURITY • サーブレット・サービス - oracle.FMADF.SERVLET

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
		<ul style="list-style-type: none"> • セッション・サービス — oracle.FMADF.SESSION • タスクリスト — oracle.FMADF.TASKLIST • 税 — oracle.FMADF.TAX • ユーザー・プリファレンス — oracle.FMADF.USERPREFS • ユーティリティ・サービス — oracle.FMADF.UTILS
Oracle Hyperion Performance Scorecard	Warn	<p>EPM_ORACLE_INSTANCE/HPS/hpsfiles/configにある次のファイル:</p> <ul style="list-style-type: none"> • HPSConfig.properties (Webユーザー・インタフェース用) • AlerterConfig.properties (Alerterサーバー用)
Oracle Hyperion Profitability and Cost Management	NOTIFICATION:1	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/Profitability0/logging.xml
Oracle Hyperion Strategic Finance Server	エラー	ロギング・レベルは、各Strategic Financeサーバーに設定されます。管理者アプリケーションを使用して、サーバー構成をロギング用に変更します。
Strategic Finance Webアプリケーション	すべて(デフォルトでオフ)	ロギングは、オンにしたときに記録される情報のすべてのレベルでオンまたはオフになります。この設定はWindowsレジストリに存在します。
Oracle Hyperion Disclosure Management	INFO	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/DisclosureManagement0/logging.xml
Oracle Hyperion Financial Close Management	NOTIFICATION	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FinancialClose0/logging.xml

表7 データ管理製品のロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management	DEBUG 注: FDMのロギング・レベルは変更できません	ロード・バランサを構成して、ログオン・エラーのロギングを有効または無効にすることができます。手順については、 <i>Oracle Hyperion Financial Data Quality Management</i> 構成ガイドを参照してください。
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition	NOTIFICATION	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/ErpIntegrator0/logging.xml
Oracle Data Relationship Management	該当なし	Data Relationship Management インストーラでロギングを有効にします。 <i>Oracle Hyperion Data Relationship Management</i> インストールガイドを参照してください。

ロギング・フォーマット

ほとんどのEPM System製品は、ロギング用にOracle Diagnostic Logging (ODL)フォーマットを使用します。EPM SystemインストーラおよびEPM Systemコンフィグレータによって、すべての製品用のODLファイルが作成されます。ODLを使用しない製品では、ODLファイルは空のままになり、ログは別のフォーマット(通常はlog4j)のファイルに書き込まれます。

ODL構成

サブトピック

- [ODLロギング・レベル](#)
- [ODL構成ファイル: 単一の管理対象サーバーのデプロイメント](#)
- [ODL構成ファイル: 標準デプロイメント](#)
- [ODL構成ファイルの変更](#)

ODLロギング・フォーマットを使用する各EPM System製品には、ロギング構成ファイルlogging.xmlが少なくとも1つ存在します。EPM Systemのコンポーネントには、loggingCOMPONENT_NAME.xmlというフォーマットの説明的な名前が付けられています。

ロギング構成ファイルは、log_handlersおよびloggersの2つのセクションで構成されます。log_handlersセクションがロガーとそのパラメータを定義する一方、loggersセクションはロギング・レベルと使用するlog_handlerを含む詳細を識別します。

指定できるlog_handlerプロパティのリストについては、[36ページの表 10](#)を参照してください。

ODLロギング・レベル

表8 ODLロギング・レベル

レベル	説明
INCIDENT_ERROR:1	不明な理由で発生した、重大な問題に関連するメッセージ。問題を解決するには、ユーザーはOracleサポートに連絡する必要があります。
ERROR:1	システム管理者の即時の対応が必要だが、EPM Systemコンポーネントの不具合が原因ではない重大な問題に関連するメッセージ
WARNING:1	システム管理者の確認を必要とする潜在的な問題に関連するメッセージ
NOTIFICATION:1	主なサブコンポーネントまたは機能のアクティブ化または非アクティブ化などの重要なライフサイクル・イベントに関連するメッセージ
NOTIFICATION:16	EPM Systemコンポーネントの通常のイベントに関連するメッセージ
TRACE:1	EPM Systemコンポーネントのエンド・ユーザーにとって意味のあるイベントのトレースまたはデバッグ・メッセージ
TRACE:16	EPM Systemコンポーネントの問題を診断するためにOracleサポートが使用できる、詳細なトレースまたはデバッグ・メッセージ
TRACE:32	通常はOracle Developerがエラーの発生元のソースを特定することを目的としている、非常に詳細なトレースまたはデバッグ・メッセージ

ODL構成ファイル: 単一の管理対象サーバーのデプロイメント

EPM Systemコンポーネントの単一の管理対象サーバーへのデプロイメントでは、デプロイされたすべてのJava Webアプリケーションに対して統合されたロギング構成ファイルlogging.xmlが生成されます。Windowsサーバーでこのファイルは通常、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EPMServer0にあります。

ODL構成ファイル: 標準デプロイメント

EPM Systemの標準デプロイメントでは、デプロイされた各Java Webアプリケーションに対してロギング構成ファイルlogging.xmlが生成されます。Windowsサーバーで、これらのファイルは通常、次のように配置されます:

表9 標準デプロイメントでのODL構成ファイルの場所

コンポーネント	logging.xmlの場所
管理サーバー(Oracle WebLogic Server管理コンソール、Oracle Web Services Manager、Enterprise Manager)	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/AdminServer/logging.xml
Provider Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/AnalyticProviderServices0/logging.xml
Calculation Manager	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/CalcMgr0/logging.xml
EPMAデータ・シンクロナイザ	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EpmaDataSync0/logging.xml
EPMA Webレポート	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EpmaWebreports0/logging.xml
Administration Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EssbaseAdminServices0/logging.xml
Financial Reporting	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FinancialReporting0/logging.xml
Foundation Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0/logging.xml
Financial Management Web	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/HFMWeb0/logging.xml
Planning	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/Planning0/logging.xml
Reporting and Analysis Framework	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/RaFramework0/logging.xml
Web Analysis	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/WebAnalysis0/logging.xml

ODL構成ファイルの変更

logging.xmlで定義されたログのプロパティを変更して、記録されるメッセージ・レベルを決定します。デフォルトでは、EPM Systemコンポーネントの通常の操作に適切なロギング・レベルはlogging.xmlで設定されます。追加のログ・ハンドラ・パラメータは、ロギング動作を変更するように設定できます。たとえば、ログ・ハンドラにrotation Frequencyパラメータを含めることで、ロギング・ファイルのローテーション頻度を指定できます。全パラメータのリストについては、[36ページの表 10](#)を参照してください。

表10 構成可能なODLログ・プロパティ

ログ・プロパティ	説明
path	ログのパス
format	使用するフォーマット

ログ・プロパティ	説明
	推奨値はODL-Textです。
maxFileSize	各ログ・ファイルの最大サイズ(バイト) メインのログ・ファイルが指定されたサイズに達すると、ログ・ローテーションがトリガーされます。メインのログ・ファイルがアーカイブされて、新しいログ・ファイルが作成されます。
maxLogSize	ログ全体の最大サイズ(バイト) ログの合計サイズを指定の上限以下に保つために、古いアーカイブ・ファイルは削除されます。
rotationFrequency	ログのローテーションの頻度(分) 値は数値(分)、あるいはhourly、daily、weeklyのいずれかです。(この設定は大文字と小文字が区別されません。)
baseRotationTime	時間ベースのログ・ローテーションの基本時間; たとえば、rotationFrequency設定の基準となります デフォルト: 1970年1月1日(UTC) 次のいずれかのフォーマットを使用します: <ul style="list-style-type: none"> • HH:mm • yyyy-MM-dd • yyyy-MM-ddT-HH:mm • yyyy-MM-dd-HH:mm:ss.sTZ。TZはタイムゾーン・インディケータであり、UTCを表すZ、またはグリニッジ標準時からのオフセット(フォーマットはplus_or_minusHH:mmm)を指定します 注: 時間フォーマットがタイムゾーンを指定しない場合は、ローカル・タイムゾーンが使用されます。
retentionPeriod	ログ・ファイルの保存期間 指定した期間よりも古いファイルは削除されます。ファイルはログ・ローテーションがある場合のみ削除され、バックグラウンド・スレッドがログ・ファイルを削除することはありません。このため、保存期間が終了した後もファイルがしばらく削除されない場合があります。値は数値(分)、もしくは日単位、週単位、月単位(30日)または年単位になります(値の大文字と小文字は区別されません)。
encoding	使用する文字エンコードのタイプ XMLファイルは、拡張文字を処理するため、UTF-8エンコードにする必要があります。デフォルトは<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>です。
supplementalAttributes	カンマで区切られた補足属性名のリストで、各ログ・メッセージに追加できます。

ログ・プロパティ	説明
	属性値はExecutionContextクラスで定義する必要があります。
useSourceClassAndMethod	Javaソース・クラスとメソッド名を各ログ・メッセージに追加するかどうか 値はレベル名です。指定したレベル以下のメッセージにソース・クラスおよびメソッド名が含まれます。定数trueおよびfalseもOFFおよびALLの別名として受け取られます。デフォルト値はTRACE:1 (詳細)です。
useDefaultAttributes	データベースの属性値を各ログ・メッセージに追加するかどうか 割当て可能なデフォルト属性はHOST_ID、HOST_NWADDRおよびUSER_IDです。値はtrueまたはfalseになります。デフォルト値はODL-XMLフォーマットではtrue、ODL-テキスト・フォーマットではfalseです。
includeMessageArguments	メッセージの引数を、メッセージIDも持つフォーマットされたログ・メッセージに含めるかどうか 指定可能な値: true (デフォルト)またはfalse。
useThreadName	ハンドラが、java.util.logging.LogRecordによって提供されるthreadIDのかわりに、実際のスレッド名を記録しようとするかどうかを制御する、useThreadNameフラグ。 フラグがtrueの場合、ハンドラは実際のスレッド名を記録しようとします。ハンドラが実際のスレッド名を判定できないこともありますが、その場合はthreadIDを記録します。デフォルト値はtrueです。
useRealThreadId	useRealThreadIdフラグは、java.util.logging.LogRecordに提供されるthreadIDではなく、実際のスレッドIDをハンドラが記録しようとする場合に制御を行います。 フラグがtrueの場合、ハンドラは実際のスレッドIDを記録しようとします。ハンドラが実際のスレッド名を判定できないこともありますが、その場合はthreadIDを記録します。デフォルト値はfalseです。実際のスレッドIDの記録は、useThreadNameプロパティと相互に排他的になります。useThreadNameがtrueの場合、useRealThreadIdプロパティの値は無視されます。
locale	メッセージをローカライズするためのデフォルトのロケールのオーバーライド デフォルト値はデフォルト・ロケールです。これは、EPM Systemコンフィグレータで設定されます。
keepOpen	メインのログ・ファイルが常に開いているか、それともログ操作のたびに開かれて閉じられるか。 指定可能な設定: trueおよびfalse。デフォルト設定はtrueです。この場合、メインのログ・ファイルは常に開いています。 ほとんどのケースでデフォルト値を使用します。

ログ・プロパティ	説明
autoFlushLevel	自動フラッシュのレベル設定 ODLHandlerではログ・レコードをバッファできますが、指定されたautoFlushレベル以上のログ・レコードを取得すると、バッファが自動的にフラッシュされます。デフォルト値はNOTIFICATION:1です。
addJvmNumber	ログ・ファイル名に追加されたJVM番号 JVM番号はシステム・プロパティoracle.process.indexにより定義されます。システム・プロパティが設定されていない場合、このオプションは無視されます。
applicationContextProvider	ApplicationContextインタフェースを実装するクラスの名前 クラスにはデフォルトのコンストラクタが必要です。特殊な値、disabledはアプリケーション名のロギングの無効化に使用できます。デフォルトのアプリケーション・コンテキスト・プロバイダはプラットフォームに固有であり、ほとんどの場合、このプロパティを設定する必要はありません。
userContextProvider	UserContextインタフェースを実装するクラスの名前 クラスにはデフォルトのコンストラクタが必要です。特殊な値、disabledはユーザー名のロギングの無効化に使用できます。デフォルトのユーザー・コンテキスト・プロバイダはプラットフォームに固有であり、ほとんどの場合、このプロパティを設定する必要はありません。

ロガーのプロパティを変更することで、コンポーネントをデバッグするか、EPM Systemコンポーネントに関する問題を特定するためにOracleサポートで求められる情報を生成します。

たとえば、Shared Servicesデバッグ・メッセージを取得するために、各Shared Servicesロガー定義のロギング・レベルをTRACE:32に変更します。



注:

デバッグが完了した後、最適なロギング設定を確実にするため、バックアップ・コピーから元のlogging.xmlをリストアします。

➤ ロギング構成ファイルを変更するには:

1. ロギング動作が変更される対象のEPM Systemコンポーネントの、ロギング構成ファイルのバックアップ・コピーを作成します。26ページのEPM System製品のロギング・マトリックスを参照してください。
2. テキスト・エディタを使用して、logging.xmlを開きます。
3. ロガー定義を特定します。たとえば、Shared Servicesのロギング・レベルを変更するには、次のロガー定義を変更します:

```
<logger name="oracle.EPMCAS" level="NOTIFICATION:1" useParentHandlers="false">
  <handler name="epmcas-handler" />
</logger>
<logger name="oracle.EPMCES" level="NOTIFICATION:1" useParentHandlers="false">
```

```
<handler name="epmces-handler" />
</logger>
<logger name="oracle.EPMCMS" level="NOTIFICATION:1" useParentHandlers="false">
  <handler name="epmcms-handler" />
</logger>
<logger level="NOTIFICATION:1" name="oracle.EPMCSS">
  <handler name="epmcss-handler" />
</logger>
```

4. メッセージ・ロギング・レベルを変更するために必要に応じてlevelプロパティを変更します。たとえば、詳細なデバッグ・メッセージを記録するために各ロガーのlevelプロパティをTRACE:32に設定します。

[35ページのODLロギング・レベル](#)を参照してください。

5. logging.xmlを保存して閉じます。
6. 変更を有効にするにはEPM Systemコンポーネントを再起動します。

リモート・ロギングおよびローカル・ロギング

一部のEPM System製品は、Reporting and Analysis Frameworkロギング・サービスとの通信によりリモート・ロギングを使用します。

分散環境では、リモート・ロギング機能を使用して、別のマシンで実行中のすべてのコンポーネントに対するすべてのログを1箇所に作成できます。

これを実行するには分散環境内の1つのマシンを選択して、ロギング・サービスをこのマシンのみで有効にしてください。その他のマシンではすべてロギング・サービスを無効にする必要があります。『Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework管理者ガイド』を参照してください。

デフォルトでは、Reporting and Analysis FrameworkサービスおよびInteractive Reportingサービスは、リモート・ロギングを使用するように構成されています。

リモート・ロギングについてマシンを構成すると、ログ・ファイルはローカル・ファイルシステムに作成されるのではなく、ロギング・サービスが実行中のマシンで作成されます。このデフォルト構成を変更して、メッセージをローカルで記録するように選択することも可能です。Interactive Reportingログ・サービスは、デフォルトでリモート・ロギングを使用します。

コンポーネントがローカル・ロギングを行うように構成されている場合、ロギング・サービスはそのコンポーネントでは使用されません。

リモート・ロギングのバックアップ・ファイル

ロギング・サービスが失敗した場合、ログ・ファイルと同じ場所にあるバックアップ・ファイルにロギング・サービスのログ・メッセージが書き込まれます。バックアップ・ファイル名の構文は次のとおりです:

```
COMPONENT_NAME
LoggingBackup.log
```

ロギング・サービスが復元されると、バックアップ・ファイルからのデータが、ロギング・サービスが実行中のマシンの対応するログ・ファイルに転送されます。その後、バックアップ・ファイルは除去されます。

ログ・ローテーション: ODL

ODLを使用する製品のログは、製品のロギング構成ファイルでの設定に応じて自動的にローテーションされます。たとえば、ログのファイル・サイズがmaxFileSizeプロパティで指定された上限に達すると、そのログはローテーションされます。ODLログのローテーションは、メインのログ・ファイルをアーカイブしてメインのログ・ファイルを新たに作成することで行われます。たとえば、FoundationServices0.logはFoundation Servicesのメインのログ・ファイルです。FoundationServices0.logは、指定の最大ファイル・サイズに達するとFoundationServicesn.logとしてアーカイブされます。nはアーカイブ番号シーケンスにおける次の番号です。ローテーションとログ・ファイルの保存に影響を与えるODLログ・ファイル・プロパティの設定の詳細は、[36ページの表 10](#)を参照してください。

インストール、構成および診断ログ

EPM Systemインストーラ、EPM SystemコンフィグレータおよびEPM System診断では、ODLロギング・フォーマットが使用されます。[34ページのODL構成](#)を参照してください。

表11 EPM Systemのインストール、構成および診断ログ・ファイル

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM Systemインストーラ	EPM_ORACLE_HOME/ diagnostics/logs/ install	<ul style="list-style-type: none">• common-install.log - 共通コンポーネント・ファイル・アクティビティ(ODBCなど)• common-ocm-install.log - Oracle Configuration Managerアクティビティ• common-ohs-install.log - Oracle HTTP Serverのアクティビティ• common-ohs-oui-out.log - Oracle HTTP Serverのインストールに関するOracle Universal Installer情報(Oracle HTTP Serverがインストールされている場合)• Common-opmn-install.log - Oracle Process Manager and Notification Serverインストール・メッセージ• common-opmn-patchset-oui-out - OPMNインストール・パッチセットのトレース・ログ・メッセージ• common-oracle-common-install - appdev (oracle_common)インストールの一般ログ・メッセージ• common-oracle-common-oui-out - appdev (oracle_common)インストールのOUIログ・メッセージ• common-product-install.log - 製品共通コンポーネント・ファイル・アクティビティ(ADMドライバ、CRSユーティリティなど)• common-staticcontent-install.log - 静的コンテンツ・ファイル(Webサーバー・マシン上の各製品のヘルプなど)• common-wl-install.log - 組込みWebLogicのインストール・アクティビティ

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> • dotNetInstall.log - 32ビット.Netインストールのメッセージ • dotNet35Install.log - .NET 3.5のインストール・メッセージ • dotNetInstall64.log - 64ビット.NETのインストール・メッセージ • dotNetRegister.log - 32ビット.NET登録のメッセージ • dotNetRegister64.log - 64ビット.NET登録のメッセージ • eas-install - Administration Servicesのインストール・メッセージ • EPM_EASConsoleInstallLog - Administration ServicesコンソールのWindowsクライアント・インストーラ・メッセージ • EPM_SVCInstallLog - Smart ViewのWindowsインストーラ・メッセージ • epma-register-profilereaderdll-stderr.log - HFMProfileReader.dllを登録する際のエラー・ログ • epma-register-profilereaderdll-stdout.log - HFMProfileReader.dllを登録する際のトレース・ログ • epma-register-zlibdll-stderr.log - ZLib.dllを登録する際のエラー・ログ • epma-register-zlibdll-stdout.log - ZLib.dllを登録する際のトレース・ログ • hfm-cacls-filetransfer-stderr.log - ファイル転送フォルダにcaclsを設定する際のエラー・ログ • hfm-cacls-filetransfer-stdout.log - ファイル転送フォルダにcaclsを設定する際のトレース・ログ • hfm-cacls-lcm-service-stderr.log - lcmサービス・フォルダにcaclsを設定する際のエラー・ログ • hfm-cacls-lcm-service-stdout.log - lcmサービス・フォルダにcaclsを設定する際のトレース・ログ • hfm-registerclientd11s64 - 各64ビット・クライアントDLL登録のエラー • hfm-registerclientd11s.log - 各32ビット・クライアントDLL登録のエラー • hfm-registercommond11s.log - 各クライアントDLL登録のトレース・ログ • hfm-registerdlladmclient-stderr.log - 各ADMクライアントDLL登録のエラー・ログ

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> • hfm-registerdlladmclient-stdout.log - 各ADMクライアントDLL登録のトレース・ログ • hfm-registerdllclient-stderr.log - 各クライアントDLL登録のエラー・ログ • hfm-registerdllclient-stdout.log - 各クライアントDLL登録のトレース・ログ • hfm-registerdllcommon-stderr.log - 各共通DLL登録のエラー・ログ • hfm-registerdllcommon-stdout.log - 各共通DLL登録のトレース・ログ • hfm-registerserverdlls.log - 各サーバーDLL登録のエラー・ログ • hfm-regWinHttpErr.log - winhttp.dllを登録する際のエラー・ログ • hfm-regWinHttpOut.log - winhttp.dllを登録する際のトレース・ログ • hfmsvcs-regAsyncCallback-stderr.log - AsyncCallback.dllを登録する際のエラー・ログ • hfmsvcs-regAsyncCallback-stdout.log - AsyncCallback.dllを登録する際のトレース・ログ • hfm-updatereg-stderr.log - Financial Management Windowsレジストリ・エントリ作成のエラー・ログ • hfm-updatereg-stdout.log - Financial Management Windowsレジストリ・エントリ作成のトレース・ログ • install-ocm-configCCR-output - Oracle Configuration Manager設定処理メッセージのパート1 • install-ocm-output.log - Oracle Configuration Managerのファイル情報 • install-ocm-configCCR-output - Oracle Configuration Manager設定処理メッセージのパート2 • installTool-install-DDD-MM.DD.YYYY-TIME.log - ユーザー・アクティビティをロギングするためにEPM Systemインストーラによって書き込まれる主要なログ • installTool-install-stderr.log - コンソール出力からフィルタリングされたエラー • installTool-install-stdout.log - コンソール出力 • PRODUCT-install.log - 製品アセンブリのインストールに失敗したかどうかの情報アセンブリごとにログ・ファイルがあります。例: Shared Servicesのhss-install.log。

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> • <code>installTool-summary-DDD-MM-DD.YYYY-TIME.log</code> - EPM Systemインストーラが実行するチェックの結果 • <code>irclient-fontreg-stderr.log</code> - フォント・ファイル登録のエラー・ログ • <code>irclient-fontreg-stdout.log</code> - フォント・ファイル登録のトレース・ログ • <code>ismpEngine-install-stderr</code> - InstallShieldメッセージの内部ログ・ファイル • <code>wl_install_err.log</code> - WebLogicインストール時のログ、エラー • <code>wl_install_out.log</code> - WebLogicインストール時のログ、完全なログ
EPM Systemコンフィグレータ	EPM_ORACLE_INSTANCE/ diagnostics/logs/ config	<ul style="list-style-type: none"> • <code>cmconfig.log</code> - Reporting and Analysisの構成中に呼び出されたReporting and Analysis (CMC) APIから生成されたトレース情報 • <code>configtool.log</code> - 構成タスクの出力および警告メッセージ • <code>configtool-http-ant.log</code> - Webサーバーのセットアップ時に実行されたantコードからのトレース • <code>ConfigTool-stdout.log</code> - コンソール出力 • <code>Configtool-appdeployment.log</code> - 配備の手順のトレース • <code>configtool_summary.log</code> - パス/失敗タスクに関するサマリー・ステータス • <code>configtool-wasdeployment.log</code> - WebSphere構成設定メッセージ • <code>EssbaseExternalizationTask.log</code> - Essbaseのカスタム構成中に実行されたEssbase外部化プロセスのトレース情報 • <code>listener.log</code> - 各Java Webアプリケーションの起動時に生成されるアプリケーション・リスナー・メッセージ(全アプリケーションで1ファイル) • <code>SharedServices_CMSCliant.log</code> - CMSの呼出しが行われるときに構成中に生成されるShared Services CMSクライアント・トレース • <code>ocm-config.log</code> - Oracle Configuration Managerの構成ログ • <code>registry.log</code> - 構成時に作成されるShared Servicesレジストリ・コールのトレース • <code>SharedServices_Security.log</code> - Shared Servicesレジストリ登録ログ

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM System診断 注: EPM System診断では、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reportsに検証ツール・レポートinstance_report_20110305_121855.htmlも作成されます。	EPM_ORACLE_INSTANCE/ diagnostics/logs/ validation	<ul style="list-style-type: none"> validation.log - 成功または失敗を示す実行された各チェックの要約レベル情報 注: ファイル名validation-n.logは、ログがサイズ制限のためにロールオーバーしたことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> validationTool-stdout.log - 実行された各チェックの検証の詳細レベル情報 validationTool-stderr.log - 診断ユーティリティの実行中に生成されるエラー情報 velocity.log - Velocityコンポーネントのコールによって生成される診断ユーティリティのトレース
EPM Systemのスターター	Windows - Web Logic Server: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/services UNIX - WebLogic Server: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/starter	start.bat(Windows)またはstart.sh(UNIX)で起動する各製品コンポーネントのstartercomponent.logファイル UNIXスターター・ログには、完全開始シーケンス・トレースが含まれます。 Windowsスターター・ログは、製品コンポーネントがstdoutに書き込む内容を含みます。

アプリケーション・サーバー、WebサーバーおよびEPM Systemプロセス・ログ

アプリケーション・サーバー、WebサーバーおよびEPM Systemプロセス(開始や停止など)の詳細は、次のログを確認してください。

- アプリケーション・サーバー・ログ(WebLogic Serverのサービス・ログ、エラー・ログおよびコンソール・ログ) - EPM SystemインストーラでインストールされたWebLogic Serverに関する情報

場所: WAS_HOME/profiles/profile name/logs/server name

(EPM Systemインストーラ外でインストールされたWebLogic Serverについては、Oracle WebLogic Serverのドキュメントのログに関する情報を参照してください。)

○場所: product

○ファイル名: 製品によって異なる

例: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/epma/DimensionServer.log

- Webサーバー・ログ - EPM SystemインストーラでインストールされたWebサーバーに関する情報

(EPM Systemインストーラ外でインストールされたWebサーバーについては、ベンダーのドキュメントのログに関する情報を参照してください。)

○場所: EPM_ORACLE_INSTANCE/httpConfig/ohs/diagnostics/logs/ OHS/ohs_component

○ログ・ファイル:

access_logおよびaccess_log.number - WebLogicにより管理対象サーバー用に生成されたログ・ファイル

console~OHS~1.log - Oracle HTTP Serverにより生成されたログ・ファイル、コンソール出力

ohs_component.log - Oracle HTTP Serverにより生成されたログ・ファイル

- WebSphere Application Serverログ:

○場所: WAS_HOME/profiles/ ApplicationServerProfileName/logs/serverName

- 各EPM System製品の開始ログと停止ログ(UNIX)

○場所: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/starter

○ファイル名と説明: 製品によって異なる

- 各管理対象サーバーのサービス起動ログ(Windows):

EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/services

- セキュリティ・ログ - CSSおよびShared Servicesレジストリ製品のアクティビティ(ネイティブ・ディレクトリの初期化とCSSの初期化を含む)

- WebLogicログ - Oracleサポート・サービスへの連絡の際に必要なWebLogicアクティビティ

○場所: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/managed server name/logs

○ファイル名: access.log

たとえば、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/EpmaDataSync0/logs/access.logなどです

アップグレード・ログ

一般に、旧リリースからリリース11.1.2.4にアップグレードすると、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgradesにログが作成されます。アップグレード・ログ・ファイルの名前はproduct-upgrade.logとなります。例えば、planning-upgrade.logまたはepma-upgrade.logなどのようになります。

一般に、アップグレード・ロギング構成情報は、EPM_ORACLE_HOME/upgrades/product/*.xmlに格納されます。たとえば、Reporting and Analysisのアップグレード・ロギング構成情報は、デフォルトでEPM_ORACLE_HOME/upgrades/ReportingAnalysis/logging_raf_upgrade.xmlに格納されます。ファイル名は製品によって異なります。

例外:

- Shared Services - 移行ユーティリティによって作成されるログ・ファイルの場所は、EPM_ORACLE_HOME/upgrades/foundation/conf/hssupgrade.propertiesで設定されます。場所を設定するには、hssupgrade.propertiesをテキスト・エディタで開き、hss.log.folder=パラメータでパスを指定します。デフォルトのログ・ファイル名はhss_upgrade_ps2.logです。

- Provider Services - Provider Servicesアップグレード・ログ・ファイルのパスは、EPM_ORACLE_HOME/upgrades/aps/xmlにあるlogging.xmlファイルで設定できます。デフォルトで、logging.xmlはログ・ファイルを現在のディレクトリに作成します。
- Financial Management - EPM SystemコンフィグレータからFinancial Managementアプリケーション・アップグレード・ユーティリティを実行する際に、Financial Managementアプリケーションのアップグレードのログ・ファイルを作成します。いくつかのロギングおよびエラー処理オプションも選択できます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

Foundation Servicesログ

表12 Foundation Servicesログ

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Foundation Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/FoundationServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • FoundationServices0.log - サーバーおよびセキュリティ・アクティビティ • Framework.log <ul style="list-style-type: none"> ○EPM System共通ユーザー・インタフェース・フレームワークのエラーおよび情報メッセージ ○ロケールの検出など様々なメッセージ ○BPMUI構成ファイルやレジストリ設定に関するメッセージ ○無効な構成ファイル(破損したBpmServer.propertiesやレジストリなど)によるエラー。 ○BPMUIセキュリティ・メッセージ。CSS初期化、Java Webアプリケーションからのログオン/ログアウト、CSS認証エラー・メッセージなどがあります。
Shared Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/FoundationServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • SharedServices_Admin.log - アプリケーション・グループの管理アクティビティ • SharedServices_Audit.log - データベースに対する監査情報の読取り/書込み時、または監査構成時の監査サーバー・エラー • SharedServices_Audit_Client.log - 監査クライアントに関する情報 • SharedServices_CMSClient.log - メタデータ・サービス・クライアントのアクティビティ • SharedServices_Hub.log - Shared Servicesリスナーおよび初期化アクティビティ • SharedServices_ImportExport.log - LCMインポート/エクスポート・アクティビティに関するエラーおよび情報メッセージ • SharedServices_LCM.log - EPM Workspaceから実行した場合のライフサイクル管理アクティビティ

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> • SharedServices_Registry.log - Shared Servicesレジストリ・アクティビティ • SharedServices_Security.log - ユーザー管理、プロビジョニング、認証、シングル・サインオンのアクティビティ • SharedServices_TaskFlow.log - タスクフローに関する情報
EPM Workspace	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/FoundationServices0/logs	Workspace.log - EPM Workspaceエラーおよび情報メッセージ
Performance Management Architect	EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/epma	DimensionServer.log - Performance Management Architectディメンション・サーバーのアクティビティ(サービスの起動、バックグラウンド・ジョブ、警告、エラーなど)
	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/EpmaDataSync0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • access.log - Java Webアプリケーション内でアクセスされたサイト(アクセス・ロギングが有効になっている場合) • datasync.log - Performance Management Architectデータ同期Java Webアプリケーションのデータ同期アクティビティからの情報(コネクタの検証エラーや実行エラーなど) • EpmaDataSync0.log - Performance Management Architect Webサーバーのイベント(起動や停止など) サーバーを再起動すると、新しいEpmaDataSync0.logファイルが作成されます。 • essconn.log - Essbaseデータ同期アクティビティおよびエラー • registry.log - Performance Management Architectデータ・シンクロナイザのレジストリ・アクティビティ • SharedServices_SecurityClient.log - ログオン・アクティビティおよびエラー
	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/EpmaWebReports0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • access.log - Java Webアプリケーション内でアクセスされたサイト(アクセス・ロギングが有効になっている場合) • epma.log - Performance Management Architect Web層のアクティビティ • EpmaWebReports0.log - Performance Management Architect Webサーバーのイベント(起動や停止など) サーバーを再起動すると、新しいEpmaWebReports0.logファイルが作成されます。 • Framework.log

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> ○EPM System共通ユーザー・インタフェース・フレームワークのエラーおよび情報メッセージ ○ロケールの検出など様々なメッセージ ○BPMUI構成ファイルやレジストリ設定に関するメッセージ ○無効な構成ファイル(破損したBpmServer.propertiesやレジストリなど)によるエラー。 ○BPMUIセキュリティ・メッセージ。CSS初期化、Java Webアプリケーションからのログオン/ログアウト、CSS認証エラー・メッセージなどがあります。 • registry.log - Performance Management Architectレジストリ・アクティビティ • SharedServices_SecurityClient.log - ログオン・アクティビティおよびエラー
Calculation Manager	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/CalcMgr0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • access.log - Java Webアプリケーション内でどのサイトがアクセスされたか(アクセス・ロギングが有効になっている場合) • apsserver.log - Calculation ManagerとJava APIの間の通信 • CalcManager.log - Calculation Manager Web層のアクティビティ • CalcMgr0.log - すべてのCalculation Managerアクティビティ • Framework.log <ul style="list-style-type: none"> ○EPM System共通ユーザー・インタフェース・フレームワークのエラーおよび情報メッセージ ○ロケールの検出など様々なメッセージ ○BPMUI構成ファイルやレジストリ設定に関するメッセージ ○無効な構成ファイル(破損したBpmServer.propertiesやレジストリなど)によるエラー。 ○BPMUIセキュリティ・メッセージ。CSS初期化、Java Webアプリケーションからのログオン/ログアウト、CSS認証エラー・メッセージなどがあります。 ○apsserver.log - Calculation ManagerとEssbaseサーバーの間の通信を記録します • registry.log - Calculation Managerレジストリ・アクティビティ • SharedServices_SecurityClient.log - ログオン・アクティビティおよびエラー

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Smart View	Smart Viewはクライアントサイド・アプリケーション。イベントやエラー、その他の情報が記録されるファイルの名前と場所は、オプションとしてSmart Viewで指定します。Smart Viewのロギング・オプションの詳細は、『Oracle Hyperion Smart View for Officeユーザー・ガイド』を参照してください。	

ライフサイクル管理のログ

表13 ライフサイクル管理のログ・ファイル

関連製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Shared Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FoundationServices0/logs	SharedServices_LCM.log - 管理対象サーバーにおけるタイムスタンプ付きの移行アクティビティ
	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/diagnostics/logs/migration	LCM_timestamp.logという名前の移行ログ

Essbaseログ

Integration Servicesではlog4jフォーマットが使用されますが、その他すべてのEssbaseコンポーネントではODLが使用されます。

Integration Servicesアクティビティのログ・ファイルは、EPM_ORACLE_HOME/logs/eis/olapisvr.logです。olapisvr.logはローリング・ログ・ファイルであるため、手動でのアーカイブは不要です。

次の表に、ODLを使用するEssbaseコンポーネントのログに関する情報を示します。

表14 Essbase ODLコンポーネントのログ

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Essbaseサーバー	EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/essbase/essbase_0 (0はインスタンス番号)	<ul style="list-style-type: none"> • ESSBASE.LOG - Essbaseサーバーのアクティビティとエラー • ESSBASE_ODL.log - Essbaseサーバーのアクティビティとエラー • dataload_ODL.err - データ・ロードおよびディメンション構築のエラー

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> • log0000x.xcp - Essbaseサーバーが異常停止した場合に発生するエラー • leasemanager_server_HOSTNAME.log - Essbaseサーバー・リース・マネージャ情報 • leasemanager_essbase_HOSTNAME.log - Essbaseエージェント・リース・マネージャ情報 • log00001.xcp - エージェントが予期せずに停止した場合に発生するエラー <p>注:</p> <p>ESSBASE.LOGおよびESSBASE_ODL.logには、異なるフォーマットの同じ情報が含まれます。</p>
	<p>essbase.cfg設定を介して指定 (Essbase管理コンソールまたはテキスト・エディタで変更可能)。</p>	<p>dbname_ODL.atxおよびdbname_ODL.alg(dbnameはessbase.cfg設定を介して指定) - 正常に完了したスプレッドシート更新トランザクション</p> <p>これらはSSAUDITログ・ファイルです。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』のデータ、アプリケーションおよびデータベースのモニタリングに関する項、および『Oracle Essbaseテクニカル・リファレンス』を参照してください。</p>
	<p>EPM_ORACLE_INSTANCE/ diagnostics/logs/essbase/ essbase_0/application name</p>	<ul style="list-style-type: none"> • application name.LOG - Essbaseアプリケーションのアクティビティとエラー • application name_ODL.log - Essbaseアプリケーションのアクティビティとエラー • log00001.xcp - アプリケーション・サーバーが予期せずに停止した場合に発生するエラー

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Administration Services 注: コンソール・ロギングを有効にするには、MIDDLEWARE_HOME/EPMSys _{tem} 11R1/products/Essbase/eas/console/bin/admincon.batで、Javaオプション・パラメータ-DEAS_CONSOLE_LOGをTrueに設定します。	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSys _{tem} /servers/EssbaseAdminServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • easserver.log - Administration Servicesサーバー・アクティビティ • EssbaseAdminServices0.log - Administration Services Java Webアプリケーション・アクティビティ
Provider Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSys _{tem} /servers/AnalyticProviderServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • AnalyticProviderServices0.log - Provider Services Java Webアプリケーション・アクティビティ • apsserver.log - Provider Servicesアクティビティ
Essbase Studio	EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades	EssbaseStudioServer.log - Essbase Studioアップグレード・アクティビティ
Essbaseステージング・ツール	作業ディレクトリ	<p>essStaging.log - ステージング・ツール(essStage.batまたはessStage.sh)がアップグレード中に構成およびセキュリティ情報、データ、ファイル転送用アプリケーションを準備する際に発生するエラー</p> <p>ステージング・ツールの詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。</p>
Essbase再ホスティング・ツール	EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/essbase	<p>EssbaseRehost.log - アップグレード中にEssbase接続を再ホスティングするときに、Essbase再ホスティング・ツールによって記録されるエラー。</p> <p>Essbaseサーバーの再ホスティングの詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。</p>

Reporting and Analysisログ

サブトピック

- [Reporting and Analysis Frameworkログ](#)
- [Financial Reportingログ](#)
- [Web Analysisログ](#)
- [Interactive Reportingログ](#)

Reporting and Analysis Frameworkログ

表15 Reporting and Analysis Frameworkログ・ファイル

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/ ReportingAnalysis	<ul style="list-style-type: none">• Reporting and Analysis Frameworkサービス・ログイン情報:<ul style="list-style-type: none">○configuration_messages_\${module}.log - Reporting and Analysis Frameworkサービス構成情報○eiengine.log - EIEngineユーティリティ(エクスポート/インポート・ユーティリティ)のメッセージ○logwriter_messages_\${module}.log - 内部ログのReporting and Analysis Frameworkサービス・メッセージを保持するログ・ファイル○server_messages_\${OriginatorType}.log - Reporting and Analysis Frameworkサービス・ログ・ファイルのパターン。これらのファイルには、RAFサービスのログ・メッセージが含まれます。○stdout_console_\${module}.log - Reporting and Analysis Frameworkサービスのstdout (コンソール)ログ・ファイル。このファイルには、開始されたReporting and Analysis Frameworkサービスに関する情報、一部のstdoutコンソール・ログが含まれます。• agent.logおよびstdout_console_agent.log - Reporting and Analysis Frameworkエージェントのログイン情報• JobUtilities.log - カレンダ・マネージャのジョブ・ユーティリティのアクティビティ• migrator.log - 移行アクティビティ• /SDK/sdk.log - ソフトウェア開発キット・ログ
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/ EPMSysstem/servers/RaFramework0/logs	<ul style="list-style-type: none">• RaFramework0.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション・サーバー・ログ• RaFramework_Bpmui.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションに関する各種メッセージ(ロケール検出など)

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	<ul style="list-style-type: none"> • RaFramework_AdministrationServlet.log - 管理サーブレットに関するReporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション情報 • RaFramework_BrowseServlet.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション・ログでサーブレットの表示に関連のあるもの • RaFramework_Changemgmt.log - インパクト・マネージャ・ログ • RaFramework_CommonClient.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションの共通クライアント機能に関する情報 • RaFramework_DataAccessServlet.log - データ・アクセス・サーブレットに関するReporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション情報 • RaFramework_Foundation.log - Reporting and Analysis Frameworkサービスとのインタラクションに関するReporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション情報 • RaFramework_JobManagerServlet.log - ジョブ・マネージャ・サーブレットに関するReporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション情報 • RaFramework_PersonalPagesServlet.log - 個人用ページ・サーブレットに関するReporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション情報 • RaFramework_Portlets.log - ポートレット・インフラストラクチャ・メッセージ • RaFramework_Search.log - 検索関連メッセージ • RaFramework_WebServices.log - Webサービス関連メッセージ • RaFramework_configuration_messages.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション構成メッセージ • RaFramework_iHTMLServlet.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション・ログでihtmlサーブレットに関連のあるもの • RaFramework_logwriter_servlets_messages.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション・ログ・ライター・メッセージ • RaFramework_stdout_console_servlets.log - Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションのlog-stdout (コンソール)ログ・ファイル

サービスのログ・ファイル

各サービスにはログ・ファイルがあります。分散環境では、1つのタイプのすべてのサービスがこれらのメッセージを1つのファイルに記録します。別々のログ・ファイルが、構成または環境情報、およびstdoutメッセージに対して生成されます。

サービスのログ・ファイル名のフォーマット:

`server_messages_OriginatorType.log`

ここで

`OriginatorType`は、以下のサービス・ログ・ファイルのいずれかです。

- `AnalyticBridgeService`
- `AuthenticationService`
- `AuthorizationService`
- `CommonServices`
- `DataAccessService`
- `EventService`
- `GSM`
- `HarvesterService`
- `IntelligenceService`
- `IRJobService`
- `IRServiceHelper`
- `JobService`
- `LoggingService`
- `LSM`
- `PublisherService`
- `RepositoryService`
- `SearchIndexing`
- `SearchKeywordProvider`
- `SearchMonitor`
- `SessionManager`
- `ServiceBroker`
- `TransformerService`
- `UsageService`

特別なログ・ファイルは次のとおりです:

- `COMPONENT_NAMELoggingBackup.log` - ログ・サービスが使用不可の場合にログ・メッセージが含まれます(例: `rafservicesLoggingBackup.log`)
- `configuration_messages.log` - 基本環境および構成情報が含まれます。

- stdout_console_MODULE_NAME.log - stdoutおよびstderrに送信されるメッセージが含まれます

Reporting and Analysis Frameworkサービスのロギング・レベルの動的な変更

- ▶ Reporting and Analysis Frameworkサービスのロギング・レベルを動的に変更するには:
 1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「管理」、「Reporting and Analysis」、「サービス」の順にクリックします。
 2. Reporting and Analysis Frameworkの「プロパティ」ダイアログ・ボックスまたはInteractive Reportingサービスの「ログ」パネルを開きます。
 3. ロガー・レベルを追加(Reporting and Analysis Frameworkの場合)、削除(Reporting and Analysis Frameworkのカスタム・ロガーの場合)または変更します。
 4. 変更を適用するには、コンテキスト・メニューで、「ログ構成のリフレッシュ」をクリックします。変更はすぐに適用されます。
- ▶ Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションのロギング・レベルを動的に変更するには:
 1. EPM_ORACLE_INSTANCE/ReportingAnalysis/RAFrameworkWebapp/WEB-INFを開きます。
 2. logging.propertiesを作成します。
 3. 必要なロガーを特定のレベルで追加します。ロガーの構文:

```
oracle.EPMRAF.[logger name].level=[logger level]
```

Financial Reportingログ

57ページの表 16に、次の場所に保管されるFinancial Reportingのログ・メッセージを示します:

表16 Financial Reportingログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
アプリケーション・ログ: EPM_ORACLE_INSTANCE/ diagnostics/logs/FinancialReporting	<ul style="list-style-type: none"> • Adm.log - Financial Reportingコンポーネントとデータ・ソース間のインタラクションを記録するコンポーネント・ログ • AdmAccess.log - Financial Reportingコンポーネントからデータ・ソースへのセキュリティ・アクセスを記録するコンポーネント・ログ • AdmPerformance.log - Financial Reportingコンポーネントとデータ・ソース間のインタラクションのパフォーマンスをモニターするコンポーネント・ログ • FRAccess.log - Financial Reportingへのセキュリティ・アクセスをモニターします。 • FRPerformance.log - Financial Reportingサーバーおよび関連するコンポーネントのパフォーマンスをモニターします

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	<ul style="list-style-type: none"> • FRClientAccess.log - Financial Reporting Studioクライアントのセキュリティ・アクセスをモニターします • FRClientLogging.log - Financial Reporting Studioクライアントのアクティビティをモニターします • FRClientPerformance.log - Financial Reporting Studioクライアントのパフォーマンスをモニターします
Webアプリケーション・ログ: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/ EPMSysstem/servers/FinancialReporting0/logs	<ul style="list-style-type: none"> • FRLogging.log - Financial Reportingサーバーおよび関連するコンポーネント内のアクティビティをモニターします • FinancialReporting0.log - Web層アクティビティ
Financial Reporting注釈監査ログ: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/ EPMSysstem/servers/FinancialReporting0/logs	AnnotationAudit.log - 注釈の作成、変更および関連付けを記録します

Web Analysisログ

次のWeb Analysisログ・ファイルはMIDDLEWARE_HOME/domains/EPMSysstem/servers/WebAnalysis0/logsにあります。

- Adm.log - ADM APIアクティビティ
- AdmAccess.log - ADM APIアクティビティ
- AdmAps.log - ADM APIアクティビティ
- AdmPerformance.log - ADM APIアクティビティ
- WebAnalysis0.log - Web層アクティビティ。このログはODLに準拠していません。
- WebAnalysis.log - Web Analysisアクティビティ
- WebAnalysisAtf.log - Web AnalysisアプリケーションのATF部分
- WebAnalysisAudit.log - 監査情報

Interactive Reportingログ

Interactive Reportingサービスはリモート・ロギングを使用します。

表17 Interactive Reportingログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME	<ul style="list-style-type: none"> • server_messages_IRServiceHelper.log - Interactive Reportingサービスの情報

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
/user_projects/ empsystem1/diagnostics/logs/Reporting Analysis	<ul style="list-style-type: none"> • server_messages_IRJobService.log - Interactive Reportingジョブ・サービス(Interactive Reportingジョブに関する問題のトラブルシューティングに有効) • server_messages_IntelligenceService.log - Interactive Reportingサービスの情報 • server_messages_DataAccessService.log - データ・アクセス・サービスの情報

リモート・ロギングまたはローカル・ロギングの指定

Interactive Reportingサービスでは、ローカル・ロギングとリモート・ロギングを使用できます。

▶ リモート・ロギングを使用するには、次のようにします:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「管理者」、「**Reporting and Analysis**」、「サービス」の順にクリックします。
2. Interactive Reportingサービス(インテリジェンス、データ・アクセス、サービスおよびIRジョブ)の「ログ」パネルの「プロパティ」ウィンドウを開きます。
3. プロパティ・グループ「モジュール・プロパティ」のロギング・レベルを変更し、「**OK**」をクリックします。
4. コンテキスト・メニューで、「**ログ構成のリフレッシュ**」をクリックします。変更はすぐに適用されます。

▶ ローカル・ロギングを使用するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「管理者」、「**Reporting and Analysis**」、「サービス」の順にクリックします。
2. Interactive Reportingサービス(インテリジェンス、データ・アクセス、サービスおよびIRジョブ)ログ・パネルの「プロパティ」ダイアログ・ボックスを開きます。
3. プロパティ・グループ「モジュール・プロパティ」のロギング・レベルを変更し、「**OK**」をクリックします。
4. プロパティ・グループ「**管理**」で、プロパティuseRemoteLoggerをNoに変更し、「**OK**」をクリックします。
5. コンテキスト・メニューで、「**再起動**」をクリックします。

サービスがローカル・ロギング・モードで起動し、ログ・ファイル(0_das.log、0_BIService.logまたは0_IRJob.log)がEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/ReportingAnalysisにあります。



注:

各サービスの最初のファイルの名前は、0で始まります。後続のファイルは、0_das.log、1_das.logなどのように順番に番号が付けられます。

Financial Performance Managementアプリケーションのログ

サブトピック

- [Planningログ](#)
- [Financial Managementログ](#)
- [Performance Scorecardログ](#)
- [Profitability and Cost Managementログ](#)
- [Disclosure Managementログ](#)
- [Financial Close Managementログ](#)
- [SOA Suiteサーバー・ログ](#)
- [Strategic Financeログ](#)

Planningログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
C:/MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/Planning0/logs	<p>Planning_ADF.log - ADF(Oracle Application Development Framework)情報</p> <p>Planningサーバーの実行中に、このログは削除できません。サーバーが再起動すると、ログが再作成されます。</p>
<p>EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/planning</p> <p>このフォルダのログは削除できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • UserProvisionSync.log - セキュリティ・リフレッシュ情報(プロビジョニングや「ユーザーが見つかりません」という問題など) <p>このログを使用して、PlanningとShared Servicesの間の同期の問題をトラブルシューティングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Planningユーティリティ・ログ - 各Planningユーティリティのログ • PlanningAppUpgradeLog_application_name.txt - アップグレードされた各Planningアプリケーションのアップグレード・ログ

▶ Planningアプリケーション・サーバーのロギング・レベルを変更するには:

1. Planningアプリケーションに管理者または所有者としてログインします。
2. 「管理」、「アプリケーション」、「プロパティの管理」の順に選択します。
3. 「システム」タブを選択します。
4. DEBUG_ENABLEDをtrueに設定します。
5. ログ・レベルを変更した後に、変更内容を有効にするには、Planningアプリケーション・サーバーを再起動します。

Financial Managementログ

表18 Financial Managementのログ・ファイル

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
<p>Financial Management</p> <p>ヒント:</p> <p>EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/</p>	EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/hfm	<ul style="list-style-type: none"> • EPMWindowsConfig.log - Financial Management固有の構成タスクに関連するアクティビティ

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
UtilitiesディレクトリのFinancial Managementログ・ビューアはログの表示に有用です。「スタート」メニューからFinancial Managementログ・ビューアに移動して、「プログラム」を選択し、「EPM System」に続いて「Financial Management」、「ユーティリティ」を選択します。		<ul style="list-style-type: none"> • hfm.odl.log - Financial Managementコア・アクティビティ • HsvEventLog.log - Financial Managementアクティビティ • InteropJava.log - Financial Management interopアクティビティ
	EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades	HFMApplicationUpgrade.log - Financial Managementアプリケーション・アップグレード・アクティビティ
Financial Management Webアプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> • MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/HFMWeb0/logs/hfm • MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/HFMWeb0/logs/ 	<ul style="list-style-type: none"> • oracle-epm-fm.log — Financial Management Java Webアプリケーション・アクティビティ • oracle-adf.log — Financial Management ADFログ • HFMWeb0.log — Financial Managementドメイン・ログ • HFMWeb0diagnostic.log — Financial Managementドメイン診断ログ • oracle-jrf.log — Financial Management JRFログ
Financial Management Webサービス	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/HFMWeb0/logs/hfm	epm-fm-webservices.log - Financial Close ManagementのWebLogic Webサービス・アクティビティ

次のWindowsレジストリ設定を変更して、タスクフローのロギングを有効化できます:

HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Hyperion Solutions/Hyperion Financial Management/Web/HsvActionsLogLevel

次の値のいずれかを設定して、記録するイベントを指定します:

- 0 - なし。ロギングは発生しません
- 1 - エラー。例外を引き起こしたことを記録します
- 2 - 警告。予期しない入力パラメータなど、警告メッセージを記録します
- 3 - デバッグ。タスクの自動化および主要なメソッドの入力パラメータを記録します
- 4 - トレース。すべてのメソッドおよびクラスでの入力および終了メソッドを記録します

デフォルトで、メッセージはEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/hfm/hfmtaskflows-dialogに記録されます。



注:

IISアプリケーション・プール・プロセスを実行しているアイデンティティには、ログ・ファイル・ディレクトリ(例: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/hfm/)へのフル・アクセスが必要です。

Performance Scorecardログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/hps	<ul style="list-style-type: none"> • HPSWebReports.log - Performance Scorecardアプリケーション・アクティビティ <p>注:</p> <p>HPSWebReports.logにはライフサイクル管理アクティビティが記録されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HPSAlerter.log - Performance Scorecard Alerterサーバー・アクティビティ
EPM_ORACLE_INSTANCE/HPS/tools/log	<ul style="list-style-type: none"> • error.log - 一般的なインポートまたはエクスポート・エラー • failedrecords.log - インポート中に失敗したレコード • successfulRecords.log - インポート中に成功したレコード

デフォルトでは、Performance Scorecardログは、サイズが10MBに達すると自動的にローテーションされます。最新の9個のバージョンが保存されます。ローテーション・ポリシーは、EPM_ORACLE_INSTANCE/HPS/hpsfiles/configのHPSConfig.propertiesファイルで変更できます。successfulRecords.logを除いて、Oracle Hyperion Performance Scorecardログは削除せず、アーカイブする必要があります。

Profitability and Cost Managementログ

表19 Profitability and Cost Managementのログ・ファイル

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Profitability and Cost Management: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/ EPMSysystem/servers/Profitability0/logs	hpcm.log - Profitability and Cost Managementアクティビティ

Disclosure Managementログ

表20 Disclosure Managementのログ・ファイル

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/ EPMSysystem/servers/DisclosureManagement0/logs	• DisclosureManagement0.log - Disclosure Management Web層アクティビティ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	<ul style="list-style-type: none"> • <code>DiscMan.log</code> - Disclosure Management アクティビティ • <code>DiscManAuditService.log</code> - 監査サービス・アクティビティ • <code>DiscManMappingTool.log</code> - マッピング・ツール・アクティビティ • <code>DiscManReportService.log</code> - レポート・サービス・アクティビティ • <code>DiscManRepository.log</code> - Disclosure Management リポジトリ・アクティビティ • <code>DiscManRepositoryService.log</code> - Disclosure Management リポジトリ・サービス・アクティビティ • <code>DiscManSessionService.log</code> - セッション・サービス・アクティビティ

Financial Close Management ログ

次の Financial Close Management ログのデフォルトの場所は、`MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FinancialClose0/logs` です:

- `FinancialClose0.log` - Close Manager Web 層 アクティビティ
- `FinancialClose.log` - Close Manager アクティビティ
- `FinancialClose0-diagnostic.log` — `FinancialClose0.log` よりも詳細な診断メッセージを使用した Close Manager Web 層 アクティビティ
- `AccountReconciliation0.log` - Account Reconciliation Management Web 層 アクティビティ



注:

Account Reconciliation Management が Financial Close Management と同じサーバーにデプロイされている場合、`AccountReconciliation0.log` が存在しない可能性があります。

- `AccountReconciliation.log` - Account Reconciliation Management アクティビティ

SOA Suite サーバー・ログ

次の Oracle SOA Suite サーバー・ログのデフォルトの場所は、`MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/soa_server1/logs` です:

- `soa_server1.Log` - SOA Suite サービス・アクティビティ
- `soa_server1-diagnostic.log` - SOA Suite Web 層 アクティビティ

Strategic Financeログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容	ローテーション
EPM_ORACLE_INSTANCE//diagnostics/ logs/hsf	debug_YYYYMMDD_HHMMSS.log - Strategic Financeサーバーからのデバッグ情報(各サーバー操作の詳細情報)	削除可能
	Microsoftアプリケーション・イベント・ログ: <ul style="list-style-type: none"> hsf_service.log hsf_service_err.log HSFGateway.log (.NET Webサービス・プロセスから) 注: アプリケーション・イベント・ログを表示するには、Windowsコントロール パネルから「管理ツール」を選択し、「イベント ビューア」、「アプリケーション」の順に選択します。	ユーザーのアクティビティを監査するためにアーカイブされたイベント・ログ・ファイルを使用できます。 注: イベント・ログ・ファイルはサービス・プロセスが開始されるたびに作成され、ファイルは1日に1回以上開始されます。
	CSSで生成されたログ: <ul style="list-style-type: none"> SharedServices_Audit_Client.log SharedServices_Security.log 	
EPM_ORACLE_INSTANCE//diagnostics/ logs/hsf/event	eventYYYYMMDD.log - Strategic Finance イベントに関する情報 注: 管理者ユーティリティの「イベント・ログ」タブを使用すると、個別のイベント・ログを確認できます。『Oracle Hyperion Strategic Finance管理者ガイド』を参照してください。	Oracle Hyperion Strategic Finance Serverイベント・ログはサーバー管理者で管理できます。(「サーバー」、「設定」の順に選択します)。
EPM_ORACLE_INSTANCE//diagnostics/ logs/hsf/userlogs	YYYYMMDD_HHMMSS_seq.log - ユーザー・アクションの履歴(ユーザーの結果ログ・ファイルと呼ばれます)	アーカイブ
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/ domains/EPMSysstem/servers/HsfWeb0/ logs	HsfWeb0.log - Oracle Hyperion Strategic Finance Java Webアプリケーションのメッセージ	削除可能

データ管理ログ

サブトピック

- [FDMログ](#)
- [FDMEEログ](#)
- [Data Relationship Managementログ](#)

FDMログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
データベース	<ul style="list-style-type: none"> tLogActivity表 - FDMアクティビティに関する情報および監査関連情報

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	<ul style="list-style-type: none"> • tBatch - 実行済のすべてのバッチのリスト • tBatchContents - 実行された各バッチ・ファイルの内容 • tBatchInformation - 実行された各バッチ・ファイルのステータスおよびエラー
Shared folder/logs	<ul style="list-style-type: none"> • username.err - FDMユーザー・エラー • Authentication.err - FDMでの認証の失敗に関する情報
Windows管理者が設定	<p>Windowsイベント・ログ - アプリケーション・マネージャおよびLoad Balanceマネージャによって書き込まれるイベント・ログ・エントリ</p> <p>FDMタスク・マネージャで、スケジュール済タスク・イベント(ロギングを使用可能にしている場合)をWindowsイベント・ログにロギングすることもできます。</p>

FDMEELog

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/ErpIntegrator0/logs	ErpIntegrator0.log - FDMEELアプリケーション・サーバー・ログ
	aif-CalcManager.log - Calculation Manager APIインタラクションに生成されるログ
	aif-HfmAdmDriver.log - Financial Management ADMドライバ・インタラクションに生成されるログ
	aif-Planning_WebApp.log - Planningサーバー・インタラクションに生成されるログ
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/ErpIntegrator0/logs/oracledi	odiagent.log - ODIエージェントによって生成されるログ
APPLICATION_ROOT_DIRECTORY/outbox/logs	EPM-APPLICATION-NAME_PROCESS-ID.log - 各種のロード・プロセスによって生成されるログ。このログは、FDMEELの「プロセスの詳細」ページでShow Logリンクを使用して表示できます。

Data Relationship Managementログ

Data Relationship Managementコンソールのリポジトリ・ウィザードでは、リポジトリの作成、コピーおよびアップグレードの情報が、リポジトリ・ウィザードでの操作中に参照可能なログに書き込まれます。リポジトリ・ウィザードのログは、ウィザードの「リポジトリの操作の完了」ページから保存できます。リポジトリ・ウィザードのログはユーザー定義です。

Data Relationship Managementのインストールに関する問題を取得するには、Data Relationship Managementインストーラでロギングを有効にします。手順は、*Oracle Hyperion Data Relationship Management インストール・ガイド*を参照してください。

これらのData Relationship Managementログ・ファイルは、C:/Documents and Settings/user name/tempなど、ユーザーのWindows一時ディレクトリにあります：

- MSI.log - インストール・プロセスに関する情報

Data Relationship Managementのプライマリ・ログ・ファイルは、Data Relationship Managementインストーラが実行されるたびに上書きされます。このログは削除できます。

- MSIxxxx.log (ここで、xxxxはランダムな英数字です)

このログは、インストールの失敗のトラブルシューティングに役立ちます。これは削除できます。



注意

他の製品のMSIxxxx.logファイルが同じフォルダにある場合があるため、ファイルの日時とData Relationship Managementインストーラの日時が一致し、正しいファイルを削除していることを確認してください。



注:

ユーザーのWindowsホーム・ディレクトリによって異なるパスは、Windowsバージョン間で異なります。

Central Inventoryログ

Central Inventoryには、ホストにインストールされているすべてのOracle製品に関する情報が含まれています。インベントリ・ファイルおよびOUIとOPatchのログが含まれているlogsフォルダがあります。

Windows環境では、Central InventoryはSystem drive/program files/Oracle/inventoryにあります。

UNIX環境では、Central Inventoryの場所は、通常/etcフォルダにあるoraInst.locファイルで指定されます。

Central Inventoryログ・ファイルは、通常次のフォーマットで保存されます:

ActionTimestamp.log

たとえば、2013年3月17日午前6時45分に実行されたattachHomeの場合、次のログが記録されます。

AttachHome2013-03-17_06-45-00AM.log

4

一般的なヒントと解決策

この項の内容:

インストールのヒントとトラブルシューティング	67
アップグレードの問題	72
メンテナンス・インストールの問題	73
構成のヒントと解決策	74
Windows統合認証のサポート	79
同時ユーザーのメモリー不足エラー	80
接続の失敗の解決およびサービスの再開	80
デモ用証明書のメッセージ	80
WebLogic管理コンソールのポートの変更	80
WebSphereの問題	81
UNIX固有の問題	83

インストールのヒントとトラブルシューティング

サブトピック

- EPM Systemインストーラのシャットダウン
- クライアント・マシン上のEPM Systemインストーラ・ファイル
- Oracle HTTP Server
- プロキシ・サーバレット
- 「製品の選択」パネル
- SolarisでのEPM Systemインストーラの抽出
- EPM Systemインストーラの起動
- EPM Systemインストーラのフリーズ
- 「ようこそ」パネルの問題
- 再インストール
- Oracle Databaseのインストール中のインストール・エラー

構成の問題については、[74ページの構成のヒントと解決策](#)を参照してください。



ヒント:

前提条件チェックが原因でインストール・プロセスが止まってしまう場合、警告を理解した上でインストールの続行が可能と考えられるときは、`-ignoreChecks`オプションを指定してEPM Systemインストーラを実行すれば、前提条件チェックを無視して先に進むことができます。

EPM Systemインストーラのシャットダウン

問題: EPM Systemインストーラがインストールの完了前に停止します。

解決策: EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install内のinstallTool-summary.logを確認します。このログは、EPM Systemインストーラが実行するチェックの結果を示します。これらのチェックの大部分は、正しいアセンブリがあるか確認するために行われます。たとえば、EPM Systemコンポーネントを32ビット・マシンにインストールする場合、EPM Systemインストーラによって、32ビット・アセンブリがあるかどうかを確認されます。

クライアント・マシン上のEPM Systemインストーラ・ファイル

問題: 各クライアント・マシンへのEPM Systemインストーラ・ファイルのコピーがサイズのために実行できません。

解決策: EPM Systemインストーラ・ファイルを共有ドライブにダウンロードすることをお勧めします。ネットワーク・ドライブからインストールすると、そのドライブにマップされます。ダウンロードする必要のあるファイルの詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』の第3章のインストール用のファイルのダウンロードに関する項を参照してください。

Oracle HTTP Server

Oracle HTTP ServerをFoundation Servicesとともにインストールできます。Oracle HTTP Serverをインストールする前に、Oracle HTTP Serverの前提条件を満たしていることを確認します。詳細は、次のドキュメントを参照してください:

- システム要件: http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_requirements.htm
- 動作保証: http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html
- インストール:
 - Oracle HTTP Serverのインストールのドキュメント(http://download.oracle.com/docs/cd/E15523_01/webtier.htm)
 - リリース・ノート(http://download.oracle.com/docs/cd/E15523_01/relnotes.htm)

Oracle HTTP Serverのインストールの問題と回避方法の詳細は、プラットフォーム別のReadmeを参照してください: http://download.oracle.com/docs/cd/E15523_01/relnotes.htm

EPM SystemとOracle HTTP Serverに関する情報は、このガイドの [19ページ](#)の第3章「EPM Systemログの使用方法」を参照してください。

詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成Readmeと『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle HTTP Serverのインストール

問題: EPM SystemインストーラでOracle HTTP Serverのインストールが失敗し、EPM System構成チェックでエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次のログ・ファイルで失敗の原因と必要なパッチに関する情報を確認します。

- Windows - EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/ohsのファイル
- UNIX - EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install/common-ohs-oui-out.log



ヒント:

EPM Systemインストーラを使用せずにEPM_ORACLE_HOME/oui/binからsetup.exe (Windows)またはrunInstallerを使用してOracle HTTP ServerインストーラをGUIモードで実行することもできます。MIDDLEWARE_HOME/ohsをインストール先フォルダとして指定し、その他の設定はすべてデフォルトを使用します。

19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」も参照してください。

プロキシ・サーブレット

EPM Systemでは、他のWebサーバーが指定されていない場合は、プロキシ・サーブレットが使用されます。プロキシ・サーブレットに関するメッセージは、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/managed_server_name/logs/ProxyFilter.logにあります。

「製品の選択」パネル

問題: 製品が「製品の選択」パネルに表示されません。この問題は次のいずれかの理由で発生します:

- 製品の部分インストール
- アセンブリがダウンロードされなかった
- アセンブリを違う場所に保存した
- アセンブリの名前が変更された
- アセンブリがこのプラットフォームで使用できない

解決策: アセンブリが正しい場所にあることを確認してください。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のインストール用のファイルのダウンロードに関する項を参照してください。

SolarisでのEPM Systemインストーラの抽出

問題: Solaris環境でjar -xvfを使用してZIPファイルからEPM Systemインストーラ・ファイルを抽出すると、次のエラー・メッセージが表示されます:

```
Exception in thread "main" java.lang.UnsupportedClassVersionError: Bad version number in .class file
```

解決策: unzip -oを使用してEPM Systemインストーラ・ファイルを抽出します。

EPM Systemインストーラの起動

問題: コマンド・プロンプト・ウィンドウが表示され、インストーラが起動しません。

解決策: 次の状態を確認し、問題があれば修正します。

- アセンブリのダウンロードが失敗したため、アセンブリ・フォルダに0バイトのdatファイルがあるか、datファイルがありません。次の手順に従います:
 - アセンブリを再度ダウンロードします。
 - EPM Systemインストーラのパスにスペースが含まれないようにします。
- アセンブリ・フォルダの名前が変更されたか、正しく解凍されていないために、EPM Systemインストーラで認識できません。次の手順に従います:
 - アセンブリ・フォルダの名前を確認します。
 - アセンブリ・フォルダの名前が正しい場合、アセンブリ・フォルダを再解凍します。



注意

ダウンロードしたアセンブリ・フォルダからWinZipを使用してファイルを解凍する際、「フォルダ名を使用する」オプションをクリアします。「フォルダ名を使用する」オプションが選択されている場合、アセンブリが正しく解凍されず、EPM Systemインストーラを起動できません。

- 解凍が失敗したため、JREまたはHelpフォルダがありません。フォルダを再解凍します。

EPM Systemインストーラのフリーズ

問題: インストールの完了に近づいたときに、EPM Systemインストーラが停止し、エラー・メッセージ: 「開始クラス com.installshield.wizard.Wizardを利用できませんでした」が表示されます。

解決策:

- コンピュータの使用可能な領域を確認し、必要に応じて空き領域を増やします。使用可能な領域が不足している場合、警告が表示されずにインストールが失敗することがあります。
- インストールに十分な領域がある場合、要約パネルにその他のエラー・メッセージが表示されず、インストールが5分以内に再開されない場合は、インストールを停止し、EPM_ORACLE_HOME/OPatchの createInventoryスクリプトを実行します。

「ようこそ」パネルの問題

問題: サポートされていないプラットフォーム、メモリ不足またはホスト名の解決に関する警告メッセージが表示されます。EPM Systemインストーラは、システムにサポートされているオペレーティング・システムがあり、インストールを実行するための最小メモリ要件を満たしているかどうかを確認し、コンピュータのホスト名を確認します。

解決策: メモリの警告またはサポートされていないプラットフォームの警告が表示される場合は、インストールに問題がある可能性があります。マシンのホスト名がIPアドレスに解決されている場合は警告が表示されます。DNS

ルックアップの問題は、先に進む前に解決することをお勧めします。解決しない場合、マシンを再起動すると、ホストが別のIPアドレスに解決されることがあり、多くの場合、実行されていたインストールが中止されます。

再インストール

問題: アンインストールの後、EPM System製品をインストールする際に問題が発生します。

解決策:

- Windows - 次の手順に従ってマシンをクリーンアップします。
 1. すべてのサービスを停止します。
 2. Windowsの「プログラムの追加と削除」オプションからアンインストールします。
 3. C:/Documents and Settings/install_user/で、.oracle.instancesを削除します。
 4. program files/common files/installshield/universal/commonをprogram files/common files/installshield/universal/common_hyperionに変更します。
 5. システムを再起動します。
- UNIX — ~/oraInventory/ContentsXML/inventory.xml内の以前のインストールのすべてのエントリを削除します。(それ以外の場合、インストーラはMIDDLEWARE_HOMEを認識しません。)

Oracle Databaseのインストール中のインストール・エラー

問題: Oracle Databaseのインストール時に、EPM Systemインストーラによるインストール中にORA-12638エラーが発生します。

解決策:

EPM Systemインストーラでは、デプロイメントを実行するユーザーはサーバーの管理者グループのメンバーである必要があります。今後のデプロイメントでは、ユーザーを管理者グループのメンバーにしてください。デプロイメント途中の場合は、次の手順を実行することで、エラーを回避してデプロイメントを続行できます:

1. 「中止」をクリックします。
2. テキスト・エディタでEPM_ORACLE_HOME/OracleDB/product/11.2.0/dbhome_1/NETWORK/ADMIN/sqlnet.oraを開きます。
3. 次の行を変更します:

```
SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NTS)
```

先:

```
SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NONE)
```

4. 「再試行」をクリックします。

アップグレードの問題

サブトピック

- EPM Systemコンフィグレータがアップグレード後に起動しない
- アップグレード後にEssbase Studioカタログが破損する

EPM System製品をアップグレードする際は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』の「EPM System製品のアップグレード」のアップグレード・チェックリストに記載されているハイレベルのタスクをすべて実行してください。



注:

Shared Services以外のEPM System製品については、旧リリースからのデータのインポートタスクを分散環境のマシン1台だけで実行します。複製されたデータを他のマシンにコピーせずにこのタスクを後に続くマシンで実行すると失敗しますが、最初のマシンでタスクが成功すれば問題にはなりません。

EPM Systemコンフィグレータがアップグレード後に起動しない

問題: 旧リリースをアンインストールせずにこのリリースにアップグレードすると、「構成」をクリックしたときに、EPM SystemコンフィグレータがEPM Systemインストーラから起動しません。

この問題は、PATH変数の文字制限を超過したときに発生します。

解決策: PATH変数を編集して旧リリースへの参照をすべて削除します。

アップグレード後にEssbase Studioカタログが破損する

問題: Essbase Studioリリース11.1.1.4からリリース11.1.2.4にアップグレードした後、Essbase Studioカタログが破損しています。

解決策: この問題を回避するには、次のタスクを実行します:

1. Essbase Studioカタログのバックアップを取ります。
2. Studioコンソールを使用して、Essbase Studioカタログ全体をXML形式にエクスポートします。
3. カタログをクリアします:
 - a. Essbase Studioサーバーを停止します。
 - b. EPM_ORACLE_HOME/products/Essbase/EssbaseStudio/Server/database/common/database_typeに変更して、データベース・クライアントを使用して次のコマンドを実行します。

```
catalog_schema_drop.sql
catalog_schema.sql
```


- c. Essbase Studioサーバーを起動して、Essbase Studioカタログ・コンテンツを初期化します。
- 4. XMLファイルからカタログ全体をStudioカタログにインポートします。

メンテナンス・インストールの問題

EPM System製品にメンテナンス・リリースを適用する際は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のメンテナンス・リリース・インストールの実行についての項にあるメンテナンス・リリース・インストール・チェックリストに記載されているハイレベルのタスクをすべて実行してください。

単一の管理対象サーバーとメンテナンス・インストール

問題: 一部のJava Webアプリケーションは単一の管理対象サーバーにデプロイされ、一部のJava Webアプリケーションは固有の管理対象サーバーにデプロイされている、リリース11.1.2.1または11.1.2.2環境で作業しています。

このシナリオでは次を想定しています:

- リリース11.1.2.1または11.1.2.2で、一部のJava Webアプリケーションが固有の管理対象サーバーにデプロイされています。
- リリース11.1.2.1または11.1.2.2で、一部のJava Webアプリケーションが単一の管理対象サーバーにデプロイされています。
- リリース11.1.2.4のこれらのデプロイメント・シナリオを維持します。

解決策: 次の手順を実行します:

1. 「メンテナンス・リリースの適用」オプションを使用して、EPM System製品をインストールします。
2. 単一の管理対象サーバー**EPMServer0**がマシンに割り当てられていることを確認します。
 - a. WebLogic管理サーバーを起動します。
 - b. WebLogic管理コンソールにログインします。
 - c. 「環境」、「サーバー」、「**EPMServer0**」の順に選択します。
 - d. サーバーに対して「マシン」が選択されているかどうかを確認します。

サーバーに対して「マシン」が選択されていない場合、「ロックして編集」を選択し、リストからローカル・ホスト・マシンを選択します。
 - e. 「保存」をクリックして、変更を有効にします。
3. 単一の管理対象サーバーにデプロイされたJava Webアプリケーションを構成します: EPM Systemコンフィグレータで、単一の管理対象サーバーにデプロイされたJava Webアプリケーションの「アプリケーション・サーバーへのデプロイ」タスクを選択し、「**Webアプリケーションを単一の管理対象サーバーにデプロイしてください**」を選択します。
4. 固有の管理対象サーバーにデプロイされたJava Webアプリケーションを構成します: EPM Systemコンフィグレータで、固有の管理対象サーバーにデプロイした各製品の「アプリケーション・サーバーへのデプロイ」タスクを選択します。「**Webアプリケーションを単一の管理対象サーバーにデプロイしてください**」を選択しないでください。

構成のヒントと解決策

サブトピック

- [分散環境](#)
- [Javaヒープ・サイズ](#)
- [製品データベース](#)
- [EPM Systemコンフィグレータの起動](#)
- [Oracle HTTP Serverの構成](#)
- [複数のJava Webアプリケーション・デプロイメントでのメモリー不足エラー](#)
- [Shared Servicesデータベースの初回構成](#)
- [クラスタ化されたSQL Serverデプロイメントへの接続](#)
- [JARファイルがない](#)
- [構成エラー・メッセージ](#)
- [「構成」タスク・パネル: 表示されない製品](#)
- [非表示タスクの構成エラー](#)
- [「データベース構成」の使用できないオプション](#)
- [リモート・デプロイメント・タイムアウト](#)
- [構成エラーなしのアプリケーション・サーバーのデプロイの失敗](#)
- [単一メインへのJava Webアプリケーションの移動](#)

インストールの問題については、[67ページのインストールのヒントとトラブルシューティング](#)を参照してください。



ヒント:

前提条件チェックが原因で構成プロセスが止まってしまう場合、警告を理解した上で構成の続行が可能と考えられるときは、`-ignoreChecks`オプションを指定してEPM Systemコンフィグレータを実行すれば、前提条件チェックを無視して先に進むことができます。

分散環境

分散環境では、1つのマシンでEPM System製品の構成を完了した後、EPM Systemコンフィグレータをクローズしてから、別のマシンの構成を開始します。

Javaヒープ・サイズ

Windows環境でサービスを使用してJava Webアプリケーション・サーバーを開始および停止する際に、Javaヒープ・サイズを変更できます。バッチ・ファイルまたはWindowsレジストリで変更できます。製品に変更を行った後は、Java Webアプリケーション・サーバーを再起動する必要があります。詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System* [デプロイメント・オプション・ガイド](#)を参照してください。

製品データベース

データベースのバックアップおよびリカバリにおいて柔軟性を確保するために、独自のデータベース・スキーマに各EPM System製品を配置することをお勧めします。プロトタイプ環境および開発環境で、すべての製品に対して1つのデータベースを構成すれば問題ありません。

EPM Systemコンフィグレータの起動

問題: EPM Systemのインストールと構成を正常に完了した後、Windowsの「スタート」メニューからEPM Systemコンフィグレータを起動できません。次のメッセージが表示されます:

致命的なエラー: 環境変数が正しく設定されていないというメッセージで環境変数のチェックが失敗しました

解決策: コンピュータを再起動します。

Oracle HTTP Serverの構成

問題: Oracle HTTP ServerでのSSLの構成時に、エクスポート済のewallet.p12ファイルを開こうとすると、正しいパスワードを入力したにもかかわらず次のエラー・メッセージが表示されます:

パスワードが正しくありません。再試行してください。

解決策: ウォレットを開けないのは、Oracle Wallet Managerの欠陥によるものです。Oracle Wallet Manager 11gでは、OpenSSLなどのサードパーティ・ツールによって作成されたPKCS12キーストアを読み込めません。この問題が解決されるまで、新しいewallet.p12ファイルを読むにはOracle 10gクライアントに付属のOracle Wallet Managerを使用し、Oracle HTTP Server 11gR1との使用に保存しておいてください。

Oracle Wallet Managerの10gバージョンを入手するには、次のURLからOracle 10gクライアントをダウンロードし、管理者コンポーネントをインストールします: <http://www.oracle.com/technology/software/products/database/oracle10g/htdocs/10201winsoft.html>

複数のJava Webアプリケーション・デプロイメントでのメモリー不足エラー

問題: 複数のJava WebアプリケーションがWebLogic管理サーバーまたはWebSphere Application Serverにデプロイされる場合、メモリー不足メッセージがデプロイメント時に表示されます。

解決策:

- **WebLogic:** WebLogic管理サーバーのデフォルトのメモリー設定を大きくします。
- **WebSphere:** 一度に少数のJava Webアプリケーションをデプロイし、すべてのEPM System製品を同じプロファイルにデプロイします。

Shared Servicesデータベースの初回構成

問題: EPM Systemコンフィグレータを初回構成のために実行すると、「**Shared Services**データベースの初回構成を実行」オプションを選択できません。

解決策: このシナリオでEPM Systemを構成するには:

1. コマンド・ラインから-forceRegistryオプションを使用して、EPM Systemコンフィグレータを開始します:
2. Foundation Servicesを構成します:

Foundation Servicesのタスクを「共通設定」、「データベースの構成」、「アプリケーション・サーバーへのデプロイ」の順に選択します。

3. EPM Systemコンフィグレータを終了します。
4. EPM Systemコンフィグレータを通常どおり再起動し、残りのEPM System製品を構成します。

クラスタ化されたSQL Serverデプロイメントへの接続

問題: クラスタ化されたSQL Serverデプロイメントに接続するようEPM Systemを構成する必要があります。

解決策: EPM Systemコンフィグレータで、「データベースの構成」画面の「サーバー」フィールドにSQL Serverクラスタの仮想ホストを入力します。

JARファイルがない

問題: EPM System製品をいくつかインストールした後、EPM Systemコンフィグレータを起動すると、JARファイルがないというエラーが表示され、EPM Systemコンフィグレータが約30秒後に終了します。

解決策: JARファイルがないというエラー・メッセージは、インストールが不完全なことを表します。次のメッセージを確認してください。

JARファイルがないというエラー・メッセージまたはoracle_common jarsに関連するエラーが表示される場合、WebLogicのインストールが不完全です。

MIDDLEWARE_HOMEのohsおよびoracle_commonのサブフォルダを確認します。ohsにサブフォルダが1つか2つのみ含まれる場合、またはoracle_commonが空の場合、Oracle HTTP Server、WebLogicまたはアプリケーション開発者のインストールが不完全です。システムの最小スワップ領域を確認してください。この領域は512MB以上である必要があります。

ログ・ファイルで失敗の詳細な原因を確認します。Central Inventoryログ・フォルダのOUIログを確認することから始めます。[66ページ](#)のCentral Inventoryログを参照してください。

構成エラー・メッセージ



注:

トラブルシューティングを目的とする場合、一度に1製品または1コンポーネントずつ構成タスクを実行します。

- **問題:** 構成が失敗するか、構成時にエラーが表示されます。

解決策: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/configにあるconfigtool_summary.logファイルを確認します。

- **問題:** Oracle Databaseを初めて構成したとき、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/configのconfigtool.logファイルに次のエラー・メッセージが追加されます。

ORA-00917: カンマがありません。

このエラーは、データベースがUS7ASCIIデータベース文字セットで構成されている場合に発生します。

解決策: UTF-8文字セットまたは無制限多言語サポートの他の文字セットを使用してデータベースを再作成します。EPM Systemリリース11.1.3では、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』に記載されているとおり、これらの文字セットのみがサポートされています。

- **問題:** EPM Systemコンフィグレータで、Oracle Configuration Managerの構成タスクが失敗したことが示されます。構成時にOracle Configuration Managerが使用可能でないとエラーが発生する可能性があります。

解決策: Oracle Configuration Managerが使用可能な状態でEPM Systemコンフィグレータを再起動し、「Oracle Configuration Managerの構成」タスクを選択します。

「構成」タスク・パネル: 表示されない製品

問題: 「構成」タスク・パネルに表示されないコンポーネントまたは製品があります。これは、インストールが不完全な場合に発生します。

解決策: EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/installのinstallTool-installログおよびproduct-install.logを確認し、インストールが完了していないコンポーネントがあるかどうか確認します。

非表示タスクの構成エラー

問題: その他の構成タスクは成功しますが、事前構成またはShared Servicesへの製品の登録など、EPM Systemコンフィグレータのタスク選択画面に表示されなかったタスクに対する構成エラー・メッセージが表示されません。

解決策: 戻って、失敗した非表示タスクを含む各製品の最上位レベルのチェック・ボックスを選択します。EPM Systemコンフィグレータは非表示タスクを完了します。

問題: Reporting and Analysisの構成時に、再登録スクリプト・タスクが失敗し、Reporting and Analysisが開始しません。このシナリオは、アップグレードでのReporting and Analysisの構成時にエラーが発生し、その後、新しいデータベースを使用するためにシステムを再構築する場合に生じる可能性があります。「アップグレード」オプションは構成ファイルに格納され、新しい構成でクリアする必要があります。

解決策: この問題に対処するには:

1. テキスト・エディタでEPM_ORACLE_INSTANCE/config/config.xmlを開き、ファイルからすべての"`<property name="upgradedVersion">11.1.1</property>`"行を削除します。その後、EPM Systemコンフィグレータを再実行します。
2. この解決策ではうまくいかない場合、テキスト・エディタでEPM_ORACLE_HOME/upgrades/webanalysis/update_registry.batを開き、次の変更を行います。

次のテキストを置き換えます:

```
."%JAVA_HOME%/bin/java" -DEPM_ORACLE_HOME=%EPM_ORACLE_HOME%  
-DEPM_ORACLE_INSTANCE=%EPM_ORACLE_INSTANCE% %ODL_PROP% %LOCALEPROP%  
com.hyperion.analyzer.upgrade.HYARegistryMigrator %SOURCE_SYSTEM%
```

次のテキストになります:

```
."%JAVA_HOME%/bin/java" -DEPM_ORACLE_HOME=%EPM_ORACLE_HOME%  
-DEPM_ORACLE_INSTANCE=%EPM_ORACLE_INSTANCE% %ODL_PROP% %LOCALEPROP%com.hyperion.  
analyzer.upgrade.HYARegistryMigrator
```

「データベース構成」の使用できないオプション

問題: 「データベース構成」パネルのオプションが使用できません。

解決策: インストールに使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムを構成していることを確認します。

リモート・デプロイメント・タイムアウト

問題: Java Webアプリケーションのリモート・デプロイメントに失敗し、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config/configtool.logに次の例外が表示されます: 実行したアクションが60,000ミリ秒でタイムアウトしました。

解決策: 次の手順を行います:

1. 次の行を含むEPM_ORACLE_HOME/common/config/11.1.2.0/configTool-options.propertiesファイルを作成します:

```
deployment.remote.timeout=timeout in milliseconds
```

たとえば、`deployment.remote.timeout=300000`は、5分後のタイムアウト(300,000ミリ秒)を指定します。

2. Java Webアプリケーションを再デプロイします。

構成エラーなしのアプリケーション・サーバーのデプロイの失敗

問題: 製品がアプリケーション・サーバーにデプロイされませんが、構成エラーはありません。

解決策: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/configのconfigtool.logを確認します。このファイルには、デプロイメント・プロセスのすべてのエラーが記録されます。エラーを確認できない場合は、アプリケーション・サーバーを再デプロイします。

単一ドメインへのJava Webアプリケーションの移動

問題: EPM System Java Webアプリケーションが別々のWebLogicドメインにデプロイされていますが、管理とモニタリングを容易にするために1つのドメインに移動させます。



注:

すべてのEPM System製品を1つのドメインにデプロイすることをお勧めします。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

解決策: 次のいずれかの手順を実行します:

- Foundation Servicesのドメインが正常に機能している場合、すべてのEPM System Java Webアプリケーションをそのドメインにデプロイします。
 1. そのドメインのFoundation ServicesマシンでWebLogic管理サーバーを実行します。
 2. Foundation Servicesドメイン以外のドメインにデプロイされているJava Webアプリケーションを再デプロイします。

EPM Systemコンフィグレータで、「**Webアプリケーションを既存のドメインにデプロイしてください。**」を選択し、Foundation Servicesマシンのホスト、ポート、およびドメイン名を入力します。

3. そのマシンにデプロイ済のJava WebアプリケーションをFoundation Servicesマシンに再デプロイします。
- すべてのEPM System Java Webアプリケーションを新しいドメインにデプロイするには:
 1. WebLogic構成ウィザードを使用して基本ドメインを作成します。
 2. 新しいドメインのWebLogic管理サーバーを起動します。
 3. Foundation Servicesマシン以外のマシンにデプロイされていたJava Webアプリケーションを再デプロイします。

EPM Systemコンフィグレータで、「**Webアプリケーションを既存のドメインにデプロイしてください。**」を選択し、新しいドメインのホスト、ポート、およびドメイン名を入力します。

4. Foundation ServicesマシンのJava Webアプリケーションを新しいドメインに再デプロイします。

Windows統合認証のサポート

問題: Windows統合認証を使用してEPM Systemデータベースに接続する必要があります。



注:

Windows統合認証は、SQL Serverデータベースに対してのみサポートされています。

解決策: Windows統合認証用にSQL Serverwを設定します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

同時ユーザーのメモリー不足エラー

問題: 製品の実行中に同時ユーザーが多数いると、メモリー不足エラーになります。

解決策: アプリケーション・サーバー環境でJAVA_OPTSコマンドを使用して、アプリケーション・サーバー・メモリーを増やします。

接続の失敗の解決およびサービスの再開

サービスを再起動するには、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品の起動および停止に関する項を参照してください。

Windowsタスク・マネージャを使用して、サービスが実行中であることを確認できます。

▶ Windowsタスク・マネージャでサービスを確認するには:

1. [Ctrl]を押しながら[Shift]と[Esc]を押します。
 2. 「Windowsセキュリティ」で、「タスク・マネージャ」をクリックします。
 3. 「Windowsタスク・マネージャ」の「プロセス」を選択します。
 4. 製品の実行可能ファイルの名前を特定します。
- アクティブなプロセスの一覧で、ファイルの名前が見つからない場合は、開始する必要がある場合があります。
 - 一覧にある場合は、「メモリーの使用状況」を選択します。500MB以上を使用している場合は、サービスの再起動を必要とするメモリー・エラーが発生している可能性があります。

デモ用証明書のメッセージ

問題: 管理対象サーバーからの標準出力に、「デモ用の信頼性のあるCA証明書が本番モードで使用されています」で始まり「デモ用の信頼性のあるCAで署名された証明書を信用するので、システムがセキュリティ攻撃に対して脆弱になっています」と警告するメッセージが表示されます。

解決策: テスト環境での作業ではない場合、デモ用証明書を除去してメッセージが表示されないようにします。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemセキュリティ構成ガイドを参照してください。

WebLogic管理コンソールのポートの変更

デプロイメント後に、WebLogic管理コンソール・ポートを変更する場合、epmsys_registryを使用してEPM System用のポートを変更する必要があります。これは、EPM SystemコンフィグレータでWebLogicドメイン・パネルが表示されるのはデプロイメント時に一度のみであるためです。Oracle Enterprise Performance Management Systemデプロイメント・オプション・ガイドのShared Servicesレジストリの更新に関する項を参照してください。

WebSphereの問題

統合ソリューション・コンソール実行中のJava Webアプリケーションのデプロイ

WebSphere管理コンソール(統合ソリューション・コンソール)が、Java Webアプリケーションのデプロイ時に実行中であるかどうかは問題ありません。

デプロイメント中の管理者ユーザーの指定

`runWASDeployment.bat [sh]`のスクリプトを実行すると、管理者のユーザー名とパスワードを求めるプロンプトが表示されます。この新しいユーザー名とパスワードは、新しく作成されたプロファイルの統合ソリューション・コンソールへのログインにのみ使用され、他のEPM Systemのユーザー名とパスワードと同じである必要はありません。

統合ソリューション・コンソールのポート番号の確認

このURL(`https://localhost:port/ibm/console/login.do?action=secure`)のWebSphere管理コンソール(統合ソリューション・コンソール)にログインする際、ポート番号を確認するために、`WAS_HOME/profiles/DM_PROFILE_NAME/properties/portdef.props`を開き、`WC_adminhost_secure`プロパティを検索します。

統合ソリューション・コンソールの起動

問題: URLを入力するとき、統合ソリューション・コンソールが使用できません。

解決策: 次のことを確認してください:

- `WAS_HOME/profiles/DM_PROFILE_NAME/bin/startManager.bat [sh]`および`WAS_HOME/profiles/PROFILE_NAME/bin/startNode.bat [sh]`を起動したことを確認してください。
- `WAS_HOME/profiles/DM_PROFILE_NAME/properties/portdef.props`で`WC_adminhost_secure`プロパティを検索して、ポート設定を確認してください。
- Internet Explorerで「このWebサイトのセキュリティ証明書には問題があります。」というメッセージが表示されたら、「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)」をクリックします。Firefoxで「接続の安全性を確認できません」というメッセージが表示されたら、「危険性を理解した上で接続するには」をクリックして、「例外を追加」を選択し、「セキュリティ例外を承認」をクリックします。

サーバーの起動、停止および再起動

WebSphereアプリケーション・サーバーを起動するには、統合ソリューション・コンソールにログインします。「サーバー」、サーバー・タイプ、**WebSphere**アプリケーション・サーバーの順に選択します。起動するサーバーを選択して、「開始」、「停止」または「再起動」の順にクリックします。次のスクリプトを使用することもできます:

```
WAS_HOME
```

```
/profiles/  
PROFILE_NAME  
/bin/start[stop]Server.bat [sh]  
SERVER_NAME
```

アプリケーションを再起動

アプリケーションの管理対象サーバーを起動するには、統合ソリューション・コンソールにログインします。「アプリケーション」、アプリケーション・タイプ、**WebSphere**エンタープライズ・アプリケーションの順に選択します。Java Webアプリケーションを選択して、「停止」または「開始」をクリックします。次のスクリプトを使用することもできます：

```
WAS_HOME  
/profiles/  
PROFILE_NAME  
/bin/start[stop]Server.bat [sh]  
SERVER_NAME
```

EARファイルの更新

WebSphereでは自動更新がサポートされていません。EARファイルを更新するには、統合ソリューション・コンソールを使用して、アプリケーションを再デプロイするか更新する必要があります。

EARファイルの再デプロイ

再デプロイの前にアプリケーションを停止することをお勧めします。アプリケーションを再デプロイするには、統合ソリューション・コンソールにログインします。「アプリケーション」、アプリケーション・タイプ、**WebSphere**エンタープライズ・アプリケーションの順に選択します。再デプロイするJava Webアプリケーションを選択して、「更新」をクリックします。新しいEARファイルへのパスを入力し、ウィザードの手順に従います。次に、ノードを同期します。

または、WebSphereエンタープライズ・アプリケーションパネルで、「アンインストール」をクリックして、「インストール」をクリックします。新しいEARファイルへのパスを入力し、ウィザードの手順に従います。次に、ノードを同期します。

ノードを同期するには、WebSphereアプリケーション・サーバー管理コンソールにログインし、「システム管理」セクションを展開して、「ノード」をクリックします。同期するノードを選択して、「同期」または「完全な再同期」をクリックします。

プロファイルの削除

▶ プロファイルを削除するには：

1. アプリケーション・サーバーをすべて停止します。
2. デプロイメント・マネージャおよびノード・エージェントを停止します。
3. 次のコマンドを実行します：

```
WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat [sh] -delete -profileName EPMSys  
temDMProfile
```

Profile

```
WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat[sh] -delete -profileName EPMSystem
```

```
WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat[sh] -validateAndUpdateRegistry
```

4. ファイル・システムからプロファイル・ディレクトリを削除します。



注:

または、このプロファイルのJavaプロセスをすべて強制終了し、ファイル・システムからプロファイル・ディレクトリを削除してから、`WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat[sh] -validateAndUpdateRegistry`を実行できます。

WebSphereインストールのビット・タイプの確認

WebSphereインストールが32ビットまたは64ビットのいずれであるかを確認するには、スクリプト`WAS_HOME/Plugins/bin/versionInfo.bat (.sh)`を実行します。出力のアーキテクチャ行でバージョン番号を確認します。

UNIX固有の問題

サブトピック

- [TC2000 SolarisでのJava Webアプリケーション起動に時間がかかる](#)
- [AIXでのWebサーバー構成の失敗](#)
- [JARファイルが見付からない](#)
- [異なるUNIXシステムへのインストール](#)
- [JVMを準備しているというエラー・メッセージ](#)
- [Oracle共通ファイルのインストール](#)

TC2000 SolarisでのJava Webアプリケーション起動に時間がかかる

問題: TC2000 Solaris環境で、Java Webアプリケーションの起動にかかる時間が長すぎます。

解決策: TC2000 Solaris以外の環境にEPM System Java Webアプリケーションをインストールします。

AIXでのWebサーバー構成の失敗

問題: Foundation Servicesのインストール後、「Oracle Configuration Managerの構成」タスクと「Webサーバーの構成」タスクは失敗しますが、その他のタスクは成功します。

解決策: `/usr/lib/libm.a`が存在していることと、オペレーティング・システムに次のファイル・セットが存在していることを確認します:

- bos.adt.base
- bos.adt.lib
- bos.adt.libm
- bos.perf.libperfstat
- bos.perf.perfstat
- bos.perf.proctools
- xlc.aix61.rte:9.0.0.1
- xlc.rte:9.0.0.1

欠落しているファイル・セットがある場合は、次の手順を実行します:

1. Foundation Servicesをアンインストールします。
2. 欠落しているファイル・セットをインストールします。
3. rootpre.shを実行します。
4. 再度Foundation Servicesをインストールして構成します。

JARファイルが見付からない

問題: EPM Systemコンフィグレータが次のエラー・メッセージを表示して停止します: 一部の参照されたjarが見付かりません。

エラー・トレースは次の例のようになります:

```

$ ./configtool.sh -console
Launching the Hyperion Configuration Utility, please wait...
Running preconfig checks...
Running EPM_ORACLE_HOME check...
  EPM_ORACLE_HOME environment variable value:
  /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSys11R1
  JAVA_HOME environment variable value: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/..
  jdk160_11
EPM_ORACLE_HOME check succeeded
Running .oracle.products check... .oracle.products check succeeded
Running Jars manifest check...
  Time spent for manifests parsing: 80592 ms
  Maximum jars depth achieved: 9, while restriction was: unrestricted
  Parsed 417 manifests
  Total jars and classpath entries encountered: 417
  Total not-existing referenced classpath entries count: 62
  Total classpath elements to check: 67
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/org.apache.commons.
  beanutils_1.6.jar not exists; file depth: 1; referenced from /HYPEPM2/Oracle/
  Middleware/EPMSys11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.odl_11.1.1/
  ojdk1.jar not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/
  EPMSys11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_j2se.jar referenced from /HYPEPM2/Oracle/
  Middleware/EPMSys11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.jmx_11.1.
  1/jmxframework.jar not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/
  Middleware/EPMSys11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_soa.jar referenced from /HYPEPM2/
  Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar

```

```
ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.dms_11.1.1/dms.jar not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_j2se.jar referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.http_client_11.1.1.jar not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_soa.jar referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
FATAL ERROR: Jars manifest check failed with message "Some referenced jars do not exist"
Exiting in 30 seconds
```

解決策: 現在のユーザーを、他のOracleソフトウェアをインストールするユーザーのグループに追加し、その後EPM Systemをアンインストールしてインストールをやり直します。

EPM Systemをインストールするユーザーは、他のOracleソフトウェアをインストールする他のユーザーと同じUNIXグループのメンバーである必要があります。この要件は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』の新規デプロイメントでのEPM System製品のインストールに関する項で説明されています。

異なるUNIXシステムへのインストール

問題: \$HOMEがUNIXシステム間で共有されている場合、異なるUNIXシステムに同時にEPM System製品をインストールできません。

EPM Systemインストーラを異なるUNIXシステムで同時に実行すると、EPM Systemインストーラは、一時インストール・ファイルと同じ\$HOME/InstallShieldディレクトリに書き込もうとするため、各インストールが失敗します。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemインストーラでは、サードパーティのツールであるInstallShieldが使用され、InstallShieldの制限がこの競合の原因になります。

解決策: 1つのUNIXシステムでインストールを完了してから、同じユーザーが別のUNIXシステムでのインストールを開始するようにします。

JVMを準備しているというエラー・メッセージ

問題: 「Java仮想マシンを準備しています...ファイル書込みエラー」というエラー・メッセージが表示されます。これは、一時ディスク領域が不十分であることを示しています。

解決策: /var/tmpと/tmpの一時ファイルを削除します。コンピュータに対するルート権限があり、安全に他の未使用一時ファイルを除去できる場合は除去してください。

Oracle共通ファイルのインストール

問題: AIX環境でOracle共通ファイルのインストールが失敗し、common-oracle-common-oui-out.logファイルに次のようなエラー・メッセージが含まれます:

コマンド `lsattr -El proc0 |grep freq` を使用してCPUの自動チェックを実行できませんでした。失敗しました。

解決策: /usr/sbinがパスに含まれていることを確認してください。

5

Foundation Services

この項の内容:

Foundation Servicesアップグレード	87
Foundation Servicesの起動	88
EPM Workspace	89
Shared Services	93
ライフサイクル管理	102
Performance Management Architect	109
Smart View	116

Foundation Servicesアップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

問題: 旧リリースからFDMをアップグレードする際、旧リリースのアプリケーション・データを保持する必要があります。

解決策: スキーマ更新ユーティリティを使用してアプリケーションをアップグレードします。新しい場所にデータを複製した場合、アプリケーションを追加するように求められます。追加した各アプリケーションについて、複製したFDMデータ・フォルダとデータベース情報を指定します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Shared Servicesのアップグレードをトラブルシューティングするには、次のログ・ファイルを確認します:

- 旧リリースのShared ServicesのHYPERION_HOME/migrate/logsフォルダ:
 - SharedServices_Migrate_Summary.log
 - SharedServices_Migrate.log
- Shared Servicesリリース11.1.2.2のEPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades/foundationフォルダ:
 - SharedServices_Upgrade_Summary.log



注:

次のエラー・メッセージは無視しても構いません: EPMCSS-01572: Shared Servicesセキュリティ管理ユーザーのプロビジョニング解除に失敗しました。

2. 個々のログ(サマリー・ログにエラーが記録されている場合)。

EPM System製品のアップグレードの詳細は、[72ページのアップグレードの問題](#)を参照してください。

問題: アップグレード後、Shared Servicesでユーザー、グループ、またはプロビジョニング情報が表示されません。

この問題は、アップグレード時に旧リリースのShared Servicesからデータをインポートしていない場合に発生します。



注:

EPM System製品をアップグレードする前に、旧リリースからデータをエクスポートする必要があります。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

解決策: EPM Systemコンフィグレータで、Foundationタスク「旧リリースからのデータのインポート」を選択します。



注:

プロビジョニング情報は、アップグレード済の製品に対してのみ提供されます。

問題: EPM Systemコンフィグレータでの構成時に、Foundationタスク「旧リリースからのデータのインポート」を選択すると、ファイルが存在しないためのエラーが発生します。

この問題は、アップグレード前に旧リリースのShared Servicesからデータをエクスポートしていない場合に発生します。EPM System製品をアップグレードする前に、旧リリースからデータをエクスポートする必要があります。

解決策: 次の手順を行います:

1. 旧リリースからShared Servicesデータをエクスポートします。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。



注:

データのエクスポート前に、誤って旧リリースのShared Servicesをアンインストールした場合は、旧リリースを再インストールしてからデータをエクスポートしてください。その後で、旧リリースのShared Servicesをアンインストールできます。

2. EPM Systemコンフィグレータで新しいリリースを構成する際、Foundationタスク「旧リリースからのデータのインポート」を選択します。

Foundation Servicesの起動

問題: SSLモードでOracle Databaseを使用する場合に、Foundation Services Java Webアプリケーションを起動できません。

解決策: データベース証明書を次のトラスト・ストアにインポートします:

EPM Workspace

サブトピック

- ログオンに時間がかかる
- EPM Workspaceに表示されない製品または製品メニュー
- 切り捨てられたメニュー
- Oracle Business Intelligence Enterprise Editionの起動
- Internet Explorerでのアイコンの点滅
- Internet Explorerで無効のアイコンが白い背景で表示される
- Mozilla Firefoxでの空の画面
- 404エラー・メッセージ
- パフォーマンスの低下

EPM Workspaceに関する一般的なヒントと推奨事項:

- Shared Servicesの情報を含むEPM Workspaceインストールについての全構成情報は、次のURLで使用可能です。

`http://hostname:port/workspace/debug/configInfo.jsp`

ここで、*hostname*は、Foundation Servicesサーバーの名前で、*port*は、アプリケーション・サーバーがリスニングしているTCPポートです。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のポートに関する項を参照してください。



注:

このURLにアクセスするには、クライアント・デバッグを有効にする必要があります: EPM Workspace (`http://server:port/workspace`)にログオンし、「ナビゲート」、「管理」、「**Workspaceサーバー設定**」の順に選択します。

クライアント・デバッグを有効にした後、EPM Workspaceからログアウトし、ブラウザを閉じてから再度ログオンします。

- ログで起動の失敗に関する情報を確認してください。19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」を参照してください。

ログオンに時間がかかる

問題: EPM Workspaceへのログオンに非常に時間がかかります。

解決策: 統合されているすべてのアプリケーションが起動していることを確認します。統合されているアプリケーションが起動していない場合、「Workspaceサーバー設定」パネルでそのアプリケーションを無効にします。「Workspaceサーバー設定」にアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「**Workspaceサーバー設定**」の順に選択

します。「使用可能な製品」をクリックして、起動されない製品をクリアします。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace管理者ガイド』を参照してください。

EPM System診断を実行することもできます。手順については、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のインストールの検証とデプロイメントの確認に関する項を参照してください。

EPM Workspaceに表示されない製品または製品メニュー

問題: EPM Workspaceに表示されるはずの製品が表示されません。

解決策:

- 管理者に連絡して、ユーザーの権限を確認します。
- EPM Workspaceに統合されている製品のリストについては、<http://host.example.com:port/workspace/status>に移動してください。
- 「ナビゲート」、「管理」、「Workspaceサーバー設定」の順に選択します。「Workspaceサーバー設定」でクライアント・デバッグを有効にし、EPM Workspaceからログオフします。ブラウザを閉じてから、再度ログオンします。
- ユーザーの役割のリストは、<http://host.example.com:port/workspace/debug/userInfo.jsp>にあります。



注:

EPM System製品のインストールと構成が終わったら、Webサーバー構成タスクを再度実行して、WebサーバーおよびFoundation Services管理対象サーバーを再起動する必要があります。

切り捨てられたメニュー

問題: Internet Explorer 7以降のバージョンでは、EPM Workspaceにログオンして「ナビゲート」、「アプリケーション」、次に製品、そして「メニュー」を順に選択すると、製品のアプリケーションが表示されません。



注:

この問題は、他のメニューでも発生することがあります。

解決策: Internet Explorer 7のセキュリティ・オプションを編集し、サイズまたは位置が制約されない、スクリプトによって起動されるウィンドウを許可するオプションを使用可能に設定します。

Oracle Business Intelligence Enterprise Editionの起動

問題: EPM WorkspaceからOracle Business Intelligence Enterprise Editionを起動しようとする、直接起動できますが、Javascriptエラー・メッセージ(5250行「Object not found」)が表示されます。

このエラーは、WebLogic Server上でOracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.xが実行されていて、EPM WorkspaceのフロントエンドWebサーバーがIISである場合に発生します。

解決策: Oracle Business Intelligence Enterprise Editionのファイルanalytics.warのweb.xmlに次の行を追加して、WARファイルを再デプロイします:

```
<mime-mapping>
  <extension>xml</extension>
  <mime-type>text/xml</mime-type>
</mime-mapping>
<mime-mapping>
  <extension>xsd</extension>
  <mime-type>text/xml</mime-type>
</mime-mapping>
```

Internet Explorerでのアイコンの点滅

問題: Internet ExplorerにおけるEPM Workspaceでは、アイコンが点滅し、常にダウンロードしているように見えます。これは、WebサーバーでのSSLおよびHTTP圧縮が使用可能などときに、Internet Explorerにより静的コンテンツがキャッシュされない場合に発生する可能性があります。

解決策: 次の手順に従って、Webサーバーレベルで静的コンテンツに対してコンテンツの有効期限ヘッダーを適用します:

1. Webサーバー・ディレクトリ構造で静的コンテンツ・フォルダを検索します。
2. 「プロパティ」をクリックして、**HTTPヘッダー**・タブを選択します。
3. 「コンテンツの有効期限を有効にする」を選択し、「有効期間」を選択して1日と指定します。

Internet Explorerで無効のアイコンが白い背景で表示される

問題: Internet ExplorerのEPM Workspaceにより、無効のアイコンがクライアント・マシン上に白い背景で表示されます。

解決策: この問題を解決するには、次のようにします:

1. EPM Workspaceで、「ファイル」、「プリファレンス」の順に選択します。
2. 「全般」タブで、「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」をクリアします。
3. EPM Workspaceを終了し、再度EPM Workspaceにログインします。

Mozilla Firefoxでの空の画面

問題: Mozilla Firefoxバージョン4以上を使用すると、ログオン画面のかわりに空の画面が表示されます。

解決策: Remote XUL Managerアドオンをインストールおよび構成して、Firefoxを再起動します。

<https://addons.mozilla.org/en-us/firefox/addon/remote-xul-manager>からアドオンをインストールします。

アドオンを構成するには:

1. Firefoxで「ツール」、「Web開発」、「Remote XUL Manager」の順に選択します。
2. Remote XUL Managerのウィンドウで、「追加」をクリックし、EPM System Webサーバーで使用する各ホストまたはドメインの名前を入力します。

たとえば、一般的なデプロイメントでは、テスト用のEPM System Webサーバーを`epmtest.example.com`に設定し、本番サーバーを`epm.example.com`に設定します。Remote XUL Managerを両方のホスト名(`epmtest.example.com`および`epm.example.com`)またはドメイン名のみ(`example.com`)で構成できる可能性があります。



注:

EPM System Webサーバーにショート・ホスト名(たとえば、`http://myserver/`など)またはIPアドレス(たとえば、`http://10.12.1.2/`など)でアクセスする場合、この名前またはIPアドレスも追加する必要があります。

前の手順に従ってユーザーへの配布用にアドオンをインストールおよび構成する管理者は、次の追加手順を実行する必要があります:

1. Remote XUL Managerのウィンドウで、「ファイル」、「Generate Installer」の順にクリックして、ドメインを選択します。
2. (オプション)ユーザーのメッセージをカスタマイズします。
3. XPIファイルを生成して、エンドユーザーに配布します。

各エンドユーザーは、XPIファイルをFirefoxのウィンドウにドラッグして、Firefoxを再起動する必要があります。

Firefoxはドメインのリストを表示し、ユーザーのマシンからRemote XUL Manager自体が削除されます。

404エラー・メッセージ

問題: 正常に動作した後、EPM Workspace Java Webアプリケーションで404エラー・メッセージを表示するようになります。

解決策: WebLogicドメインのログで、「サーバーの状態をFAILEDに設定しています」というメッセージを確認します。このメッセージが存在する場合、前のエラー・メッセージを確認します。アクセスできないデータベースなどの前のメッセージで示された修正可能な問題を修正して、WebLogic管理対象サーバーを再起動します。メッセージがない、またはメッセージが既知の条件を示していない場合、管理対象サーバーの再起動で問題が解決する可能性があります。

パフォーマンスの低下

問題: 製品をオフラインにするとパフォーマンスが低下しました。

解決策: EPM Workspaceのサーバー設定で、「使用可能な製品」のリストからオフラインの製品をクリアします。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace管理者ガイドのWorkspaceサーバー設定に関する項を参照してください。

Shared Services

サブトピック

- リモート診断エージェントの実行
- Shared Servicesへのログオン
- Active Directoryの高可用性
- 製品の登録
- ログオンの失敗後のセキュリティ・ロックアウト
- ユーザー名内のアスタリスク
- EPM System管理者のユーザー名
- AuditHandlerメッセージ
- 監査データの削除およびOracleデータベースのテーブルスペース
- シングル・サインオン
- Shared Servicesレジストリの内容と更新
- ユーザー・ディレクトリとプロビジョニング
- 起動およびアクセスに関する問題
- 製品固有の問題

リモート診断エージェントの実行

Shared Servicesの不具合を報告する前に、リモート診断エージェント(RDA)を実行します。RDA出力をバグ・レポートに添付します。出力ファイルは、MIDDLEWARE_HOME/ohs/rdaにあります。

- ▶ RDAを実行するには、コマンド・ウィンドウに次のコマンドを入力します:

```
MIDDLEWARE_HOME/ohs/rda/rda.cmd
```

詳細は、MIDDLEWARE_HOME/ohs/rdaにあるRDAのreadmeファイルを参照してください。

Shared Servicesへのログオン

問題: Shared Servicesへのログオンに失敗します。

解決策: EPM System Diagnosticsを起動して、ユーザー・ディレクトリおよびShared Services Java Webアプリケーションのトラブルシューティングを行い、製品のJava Webアプリケーションが確実に開始するようにします。手順については、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のインストールの検証とデプロイメントの確認に関する項を参照してください。

SharedServices_Security.logファイルも確認します。製品にログオンできない場合、SharedServices_SecurityClient.logを確認します。19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」を参照してください。

Microsoft Active Directoryに対するログオンに失敗する場合、DNS検索を使用してActive Directoryを検索するようShared Servicesが構成されていることを確認します。手順は、次の「Active Directoryの高可用性」の解決策を参照してください。Active Directoryに対するログオンの失敗の原因のうち最も一般的なものは、ドメイン・コントローラがメンテナンスのため、オフラインであることです。

Active Directoryの高可用性

問題: Microsoft Active Directoryの高可用性が確実に実現される必要があります。

解決策: DNS検索を使用してActive Directoryを検索するようShared Servicesを構成します:

- ドメイン名を指定します。
- (オプション)サイトとDNS IPアドレスを指定します。



注意

Shared ServicesでのActive Directoryの構成に「ホスト名」オプションを選択しないようお勧めします。「ホスト名」オプションは、テスト目的でのみ使用します。

DNS検索を実行するよう構成されている場合、障害時、Shared ServicesはDNSサーバーに問い合わせで登録されているドメイン・コントローラを識別し、使用可能なドメイン・コントローラに切り替えます。詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド*を参照してください。



注:

高可用性が必要かどうかに関係なく、DNS検索を使用してActive Directoryを検索するようShared Servicesを構成することをお勧めします。

製品の登録

問題: EPM System製品とShared Servicesが異なるマシンにある場合、EPM System製品をShared Servicesに登録できません。次のメッセージがSharedServices_security.logに出力されます:

```
com.hyperion.interop.lib.OperationFailedException: 認証できません。
```

解決策:

- Shared Servicesに対する管理者のパスワードが正しいことを確認します。
- 原子時計を使用するオンライン・タイム・ソースを利用します。両方のマシンでこのタイム・ソースを使用して同期をとります。

ログオンの失敗後のセキュリティ・ロックアウト

問題: セキュリティ上の理由から、EPM Workspaceへのログオンに数回失敗したユーザーをロック・アウトする必要があります。

解決策: 外部ディレクトリ(Microsoft Active DirectoryやOracle Internet DirectoryなどのLDAP対応のユーザー・ディレクトリ)で、何回ログオンに失敗したらユーザーをロック・アウトするかを指定するパスワード・ポリシーを定義します。EPM Systemは、外部ユーザー・ディレクトリのパスワード・ポリシーによって制御されるすべてのロックに対応します。リリース11.1.2のEPM Systemセキュリティでは、ネイティブ・ディレクトリのパスワード・ポリシーがサポートされないため、指定された回数ログオンを失敗してもネイティブ・ディレクトリ・ユーザーはロック・アウトされません。

ユーザー名内のアスタリスク

問題: ユーザー名にアスタリスク(*)を含むユーザーは、同じようなユーザー名の情報に不正にアクセスできます。

解決策: アスタリスク文字(*)はShared Servicesレジストリでの検索でワイルドカード文字として使用されるため、ユーザー名または共通名(CN)に使用しないでください。ユーザー名でサポートされる文字の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド*を参照してください。

EPM System管理者のユーザー名

問題: EPM System管理者を、"admin"ではなく企業ディレクトリに登録されているユーザーにして、企業のパスワード・ポリシーが管理者に適用されるようにする必要があります。

解決策: Shared Servicesで、EPM管理者とするユーザーに管理者の役割をプロビジョニングします。



ヒント:

ネイティブの“admin”アカウントには長いランダムなパスワードを割り当てて、アクセスできないようにします。“admin”アカウントは削除できません。

AuditHandlerメッセージ

問題: SharedServices_Audit.logファイルに次の行が含まれています:

```
AuditHandler - Server Audit Enable Status:- false
```

解決策: このメッセージは、Shared Servicesサーバーで監査が有効でないことを表していますが、無視しても問題ありません。

監査クライアントが、ステータスについてサーバーにpingすると、AuditHandlerステータス・メッセージが含まれます。監査が有効な場合、クライアントは監査イベントを処理しますが、有効でない場合は、監査イベントを無視します。

監査データの削除およびOracleデータベースのテーブルスペース

問題: Shared Servicesを使用して監査データを繰り返し削除した後、Oracleデータベースからテーブル・スペースが解放されません。



注:

Oracleデータベースでは、表からデータを削除してもテーブル・スペースは自動的に解放されません。

解決策: 次の手順を行います:

1. Shared Servicesサーバーを停止し、次の問合せを実行して表が使用している領域を圧縮します:

```
alter table SMA_AUDIT_ATTRIBUTE_FACT enable row movement
alter table SMA_AUDIT_ATTRIBUTE_FACT shrink space

alter table SMA_AUDIT_FACT enable row movement
alter table SMA_AUDIT_FACT shrink space
```

2. Shared Servicesサーバーを再起動します。

シングル・サインオン

問題: Oracle Single Sign-On (OSSO)セキュリティ・エージェントを有効にすると、シングル・サインオン(SSO)に失敗します。

この問題が発生するのは、Shared Servicesのセキュリティ設定で、SSOプロバイダまたはエージェントとしてOSSOが指定され、SSOメカニズムとして「HTTP要求からリモート・ユーザーを取得」が指定されている場合です

解決策: Oracle Hyperion Shared Services Consoleを使用して、次のセキュリティ設定を選択します:

- SSOプロバイダ/エージェント - その他
- SSOメカニズム - カスタムHTTPヘッダー

カスタムHTTPヘッダーのデフォルト値はHYPLOGINです。別の値も指定できます。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

Shared Servicesレジストリの内容と更新



注意

Shared ServicesレジストリはEPM System製品の実行に不可欠なため、編集には十分注意してください。Shared Servicesレジストリに変更を加える場合、常にその前にFoundation Servicesデータベースをバックアップしてください。

レジストリ・エディタ・ユーティリティ - epmsys_registry.bat (Windows)またはepmsys_registry.sh (UNIX) - はEPM_ORACLE_INSTANCE/binにあります。このユーティリティを実行すると、Shared Servicesレジストリの内容についてレポートが作成されます。Oracle Enterprise Performance Management Systemデプロイメント・オプション・ガイドのShared Servicesレジストリの更新に関する項を参照してください

問題: Shared Servicesライフサイクル管理ユーザー・インタフェースにアクセスできない状態で、Shared Servicesレジストリの内容を表示する必要があります。

解決策: パラメータを使用せずにレジストリ・エディタ・ユーティリティを実行し、registry.htmlというレポートを生成します。

問題: ディレクトリ情報を変更する必要がありますが、Shared Servicesライフサイクル管理ユーザー・インタフェースにアクセスできません。

解決策: レジストリ・エディタ・ユーティリティを実行してデプロイメント情報のレポートを作成すれば、Shared Servicesレジストリをどのように編集すればいいかを判断しやすくなります。

ユーザー・ディレクトリとプロビジョニング

サブトピック

- [プロビジョニングの問題とベスト・プラクティス](#)
- [外部ユーザー、グループ情報とパフォーマンス](#)
- [ヒントと一般的な問題](#)

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイドも参照してください。

プロビジョニングの問題とベスト・プラクティス

既存のLDAP/MSADユーザー・ディレクトリがある場合は、EPM Systemアプリケーションのプロビジョニングを行う前に、標準のLDAPブラウザを使用して、ユーザー資格証明を保管するユーザー・ディレクトリを調べます。ユーザー・ディレクトリに接続するためにLDAPブラウザで使用される設定は、ユーザー・ディレクトリに接続するためにEPM Systemアプリケーションで使用される設定と同じです。無料のLDAPブラウザをダウンロードできます。

ブラウザを使用して、次のことを確認します:

- 使用するサーバーからユーザー・ディレクトリに接続できるかどうか
- 応答時間
- ユーザー・ディレクトリの検索の開始点(ベースDN)
- 開始点でのユーザーとグループの数

許容できるログイン・パフォーマンスを確保するには:

- EPM Systemアプリケーションのグループとユーザーの数を最小限に抑えます。
- EPM Systemアプリケーションをホストするサーバー・コンピュータが、プロビジョニング・プロセスで使用されるユーザー・ディレクトリをホストするサーバー・コンピュータと地理的に同じ場所にあることを確認します。
- 検索に最適な開始点を検索するか、カスタム・グループ階層を作成します。
- 検索順の最初のアイテムには、最多数のユーザーのログイン元のディレクトリを指定します。

外部ユーザー、グループ情報とパフォーマンス

『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

問題: 多数の外部ユーザーまたはグループがShared Servicesで使用可能なため、パフォーマンスが低下しています。

解決策:

- 必要なユーザーのみを取得するフィルタを設定します。
- グループURLを設定し、グループ・フィルタをチューニングして、Shared Servicesが解析してキャッシュを作成する必要があるグループ数を減らすことをお勧めします。これを行うと、実行時のパフォーマンスが著しく向上します。

[98ページのユーザーの取得、アプリケーションの登録とセキュリティのロードにかかる時間の短縮](#)および [99ページのユーザー/グループ検索の最大サイズの設定](#)を参照してください。

問題: LDAPまたはMSADグループを使用しない場合も、Shared ServicesはLDAPおよびMSADグループ情報にアクセスします。

解決策: ネイティブ・ディレクトリにグループを作成し、そのグループにLDAPおよびMSADディレクトリのユーザーを割り当て、ユーザー・グループ・オプションをfalseに設定します。

Shared Services Consoleを使用して、ユーザー・ディレクトリ構成を変更します。「**グループ構成**」タブの「**グループのサポート**」チェック・ボックスがクリアされていることを確認します。



注:

グループURLを設定し、グループ・フィルタをチューニングして、Shared Servicesが解析してキャッシュを作成する必要があるグループ数を減らすことをお勧めします。これを行うと、実行時のパフォーマンスが著しく向上します。

ヒントと一般的な問題

Shared Servicesと外部のユーザー・ディレクトリを使用する際に生じる最も一般的な問題の原因:

- CSSConfig内のグループURLが間違っで定義されています。
- ホスト名、ポート、またはドメイン・コントローラが正しく指定されていません。
- グループURLで非常に多くのグループが定義されています。



注:

グループURL内の使用可能なグループ数が10,000を超えると、Shared Servicesは警告を表示します。

ユーザーの取得、アプリケーションの登録とセキュリティのロードにかかる時間の短縮

次のタスクにかかる時間を短縮するには、この後の手順を実行します:

- プロジェクトに対してユーザーのリストを取得する
- アプリケーションを登録する
- セキュリティをロードする

▶ パフォーマンスを高めるには:

1. グループを使用する場合:
 - a. 外部グループではなくネイティブ・グループを使用して外部ユーザーをプロビジョニングし、LDAP/MSADプロバイダ構成パネルの「グループ」タブのグループの使用オプションをクリアします。
 - b. グループURLを、すべてのグループを含む最下位ノードに常に設定します。
 - c. 可能な場合はグループ・フィルタを使用します。
2. EPM Systemアクセス権を持つユーザーの数を制限します。
 - a. 常にユーザーURLを定義し、できるだけ深く設定します。
 - b. 可能な場合はユーザー・フィルタを設定します。
3. デフォルトのログイン・レベルWARNINGを使用します。デバッグ目的の場合にかぎり、レベルをTRACEに変更します。34ページのODL構成を参照してください。
4. グループやユーザーが複数の場合は、すべての製品のJavaヒープ・サイズを1GBに設定します。74ページのJavaヒープ・サイズを参照してください。

グループURL

グループURLのグループが10,000を超えると、パフォーマンスが低下します。この問題を解決するには:

- 下位レベルのノードを示すようグループURLを変更します。
- プロビジョニング済グループのみを取得するグループ・フィルタを使用します。
- EPM Systemアプリケーションをサポートするためにカスタム・グループ階層を作成します。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

ユーザー/グループ検索の最大サイズの設定

MSAD、LDAP、データベースおよびSAPプロバイダの場合、検索で取得するユーザーとグループの数は、ユーザー・ディレクトリ構成のMaximumSize設定で決定されます。すべてのユーザーとグループを取得するには、ユーザー・ディレクトリの構成時にMaximumSizeを0に設定します。検索の絞り込みには、フィルタを使用します。

起動およびアクセスに関する問題

サブトピック

- [アプリケーション・サーバーでのShared Services起動の解決](#)
- [Shared Servicesから製品へのアクセスに関する問題の解決](#)
- [Shared Servicesへの製品の再登録](#)
- [Shared Servicesデータベースの再構成](#)

アプリケーション・サーバーでのShared Services起動の解決

Shared Services Java Webアプリケーションが開始しない場合:

1. MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/FoundationServices0/logsのShared Servicesログを確認します。

2. EPM System診断から、データベース接続が成功していることを確認し、外部ユーザー・ディレクトリをチェックします。これがJava Webアプリケーション起動の前提条件です。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System診断の使用手順については、『Oracle Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』のインストールの検証とデプロイメントの確認に関する項を参照してください。
3. `NETSTAT -an | findstr 0.0.0.0:28080`を実行して、デフォルトのポートである28080が別のアプリケーションで使用されているかどうかを確認します。(0.0.0.0:28080)が得られたら、Shared Servicesポートを変更するか、そのポートを使用しているプロセスを停止します。



注:

前のリリースからアップグレードした場合、Shared Servicesポートは58080です。

Shared Servicesから製品へのアクセスに関する問題の解決

次の理由で、その他のEPM System製品にログインできないことがあります:

- グループURLとグループ・フィルタで、検索によって戻されるグループ数が制限されていないため、パフォーマンスが低下しています。
- 無効なログオン資格証明を使用しています。
- 製品をホストするサーバーが、ユーザー・ディレクトリとShared Servicesをホストするサーバーに接続されていないため、ユーザーとして認証されません。

次のタスクを実行します:

1. `SharedServices_SecurityClient.log` (製品をホストするサーバー上)と`SharedServices_Security.log` (サーバー上)を確認します。[34ページのODL構成](#)を参照してください。
 - Webサーバーを使用しているかどうか、Java Webアプリケーション・ポートを確認します。
 - グループ・キャッシュ・エラーが発生する場合は、Shared Servicesを停止し、キャッシュをリフレッシュします。
 - 認証エラーが発生する場合は、ユーザーURLが正しいことを確認します。
2. ユーザーIDとパスワードが正しいことを確認します。
3. 製品をホストするサーバーが、ユーザー・ディレクトリとShared Servicesをホストするサーバーに接続できることを確認します。

Shared Servicesへの製品の再登録

問題: 製品をShared Servicesに再登録する必要があります。たとえば、誤って登録情報を削除した場合、製品を再登録する必要があります。

解決策: 次のコマンドを使用してShared Servicesレジストリを編集し、Shared Services構成タスクを再度有効にします:

```
Epmsys_registry updateproperty product/instance_task_configuration/@hssregistration Pending。productには、登録するEPM System製品を指定します。
```

Shared Servicesデータベースの再構成

問題: すでに構成されているShared ServicesデータベースをEPM Systemコンフィグレータで直接変更できません。

解決策:

1. MIDDLEWARE_HOME/user_projects/config/foundation/11.1.2.0/reg.propertiesを削除します。
2. EPM Systemコンフィグレータを再起動します。
3. 「前に構成したデータベースに接続」を選択して、Shared Servicesデータベースを再構成します。

製品固有の問題

サブトピック

- [Shared ServicesおよびEssbaseコンポーネント](#)
- [Shared ServicesとFinancial Management](#)

Shared ServicesおよびEssbaseコンポーネント

問題: 管理サービス・コンソールからShared Servicesに対するセキュリティのリフレッシュ中に、次のエラー・メッセージが表示されます:

エラー: 1051502: Analytical Servicesは、[ESB:Analytic Servers:PLYSHYP08D:1]の役割の一覧をエラー[ディレクトリ・サーバーに接続できませんでした]でShared Services Serverから取得できませんでした。

解決策: EssbaseのログのフォルダにあるSharedServices_SecurityClient.logを確認します。19ページの第3章「EPM Systemログの使用法」を参照してください。

問題: Microsoft Active DirectoryユーザーとしてEssbaseアプリケーションを作成できません。

この問題が発生するのは、Microsoft Active Directoryにユーザーと担当者のレコードが格納されており、Shared Servicesが両方のレコード・タイプを返すよう構成されている場合です。

解決策: CSS.xmlを編集し、objectClass=user設定を指定します。この設定により、Microsoft Active DirectoryプロバイダであるShared Servicesは担当者レコードを返さなくなります。CSS.xmlファイルは、EPM_ORACLE_INSTANCE/Config/FoundationServicesにあります。

Shared ServicesとFinancial Management

サブトピック

- [アプリケーションの作成](#)
- [Smart Viewタイムアウト](#)

アプリケーションの作成

問題: アプリケーションの作成に失敗したというエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次のタスクを実行します:

- SharedServices_SecurityClient.logを確認します。

グループ・キャッシュ・エラーが表示される場合は、グループURLおよびフィルタがグループ数に応じて適切に設定されていることを確認します。データ・ブローカ・プロパティ・エラーが表示される場合は、interopjava loggingを使用可能にします。1,000以上のグループをサポートするには、JRE 1.5を使用します。

サーバーで、SharedServices_Security.logを確認します。

グループ・キャッシュに関するエラーの場合は、グループURLとフィルタがグループ数に応じて設定されていることを確認します。

- Financial Managementログを確認します。19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」のFinancial Performance Managementアプリケーション・ログの項を参照してください。
- interop WebサイトからJava Webアプリケーション・サーバーにリダイレクトする場合は、認証方法が匿名であり、Windows統合認証が使用されていないことを確認します。

Smart Viewタイムアウト

問題: Financial ManagementのSmart Viewが約30分後にタイムアウトします。

解決策: 次の手順を試します:

- Financial Management WebサーバーでサーバーとWeb構成ユーティリティを実行し、Webセッションのタイムアウト設定を変更します。(デフォルトの設定は20分です。)
- クライアントがSmart ViewにShared ServicesプロバイダではなくURLプロバイダを使用している場合は、IISのHFMOfficeProvider仮想ディレクトリのプロパティを右クリックし、「仮想ディレクトリ」タブの「構成」をクリックします。新しいウィンドウで「オプション」をクリックし、セッション状態のタイムアウト設定を変更します。
- デフォルトのWebサイトの設定を変更します。

また、FMサーバーおよびWeb構成でデフォルトのWebサイトのタイムアウト設定とSmart Viewプロバイダ設定を確認します。

ライフサイクル管理

サブトピック

- [移行のヒント: 名前付け](#)
- [コンパクト・デプロイメントのメモリー不足エラー](#)
- [環境の比較](#)
- [SSLアプリケーションのフリーズまたは名前の不一致のエラー](#)
- [Shared Servicesの起動](#)
- [エクスポートの失敗](#)
- [アーティファクト・インポートのライフサイクル管理タイムアウト](#)
- [ライフサイクル管理診断](#)
- [ライフサイクル管理とReporting and Analysis](#)
- [ライフサイクル管理とFinancial Management](#)

50ページの[ライフサイクル管理のログ](#)も参照してください。

移行のヒント: 名前付け

完全に自動化された移行では、開発、テスト、本番の各環境の名前は、データ・ソース、プロビジョニングされたネイティブ・ディレクトリ・グループ名、アプリケーションおよびアプリケーション・グループを含め同一である必要があります。同一の名前は、手動の処理が不可能な場合が多いテスト環境と本番環境との間で特に重要です。

一部の製品のアプリケーション名にはサーバー名が含まれるため、同一の名前が常に付けられるわけではなく、プロビジョニング情報に手動の編集が必要なことがあります。アプリケーション名が異なる場合、アプリケーションをインポートする前にプロビジョニング情報を手動で編集する必要があります。

コンパクト・デプロイメントのメモリー不足エラー

問題: 64ビット環境の場合、コンパクト・デプロイメントのPlanningアーティファクトのライフサイクル管理を実行すると、Foundation Servicesログにメモリー不足エラーが作成されます。

解決策: WebLogicにデプロイされるEPM System管理対象サーバーの最大ヒープ・サイズ設定を大きくします:

- Windows - HKLM/Hyperion Solutionsノードの下のEPMServer0のWindowsレジストリ・エントリを編集します。
- UNIX - EPMServer0起動スクリプトを編集して、-Xmx設定を3GB以上に増やします。

環境の比較

問題: 開発とテストなどの2つの環境を比較する必要があります。

解決策: アーチファクトをファイル・システムにエクスポートし、比較ユーティリティ(Beyond Compareなど)を使用して、テスト・アーチファクトとXMLアーチファクトの差分を確認します。

SSLアプリケーションのフリーズまたは名前の不一致のエラー

問題: SSLが使用可能なアプリケーションの操作で、セッション中にホスト名の不一致エラーが表示されます。または、移行ステータス・レポートで「処理中」のステータスが表示されたままになります。

解決策: クライアントに対して表示されるホスト名が証明書内のホスト名(共通名)と一致することを確認します。詳細は、『Oracle Hyperion Strategic Finance管理者ガイド』を参照してください。

Shared Servicesの起動

問題: Shared Services Consoleを起動できません。

解決策: Shared Services Consoleを起動するときに、URLにサーバーの完全修飾名を使用します。たとえば、`http://web_server:Port/interop/index.jsp`です。

エクスポートの失敗

問題: ライフサイクル管理のエクスポート・ファイルのユーザー・パスワードに中カッコ({ })を含めると、アーティファクト・エクスポートが失敗します。

解決策: ユーザー・パスワードに中カッコを使用しないでください。

アーティファクト・インポートのライフサイクル管理タイムアウト

問題: ライフサイクル管理を使用してPerformance Management Architectアーティファクトをインポートすると、(すべてのサービスが実行中のまま) 1時間後にタイムアウトし、次のエラー・メッセージがSharedService_LCM.logに書き込まれます:

```
2011-07-19T03:03:36.066-07:00] [FoundationServices0] [ERROR] [EPMLCM-30052]
[oracle.EPMLCM] [tid: 173] [userId: <anonymous>] [ecid:
0000J51cbhmFW7P5IfL6if1E2XZW000574,0] [SRC_CLASS: ?] [APP:
SHAREDSERVICES#11.1.2.0] [SRC_METHOD: ?:?] Failed to connect to
"http://
server name
:19000/awb/lcm.executeAction.do" while
performing import for application - "EPM Architect". Received status code -
"503" with error message - "Service Temporarily Unavailable". Possible cause
of error Server Down or Not reachable.
```



注:

このエラーは、アーティファクトのインポートに失敗したことを必ずしも示していません。EPMAジョブ・コンソールでインポート・ジョブのステータスを確認し、失敗したのかどうかを確かめてください。インポート・ジョブが失敗と表示されている場合は、タイムアウトの問題ではない可能性が高いため、詳しく調査する必要があります。まず、添付されているインポート結果を確認してください。

ジョブ・マネージャでインポート・ジョブが失敗と表示されていない場合、アーティファクトの移行は中止されておらず、正常に完了した可能性があります。ライブラリ・ジョブ・コンソールでジョブIDごとに進捗状況を確認できます。

ジョブが事前定義済の期間より長くかかる場合はOracle HTTP Server Webサーバーがタイムアウトするよう構成されている可能性があります。Oracle HTTP ServerをWebLogicとともに使用する場合、デフォルトのタイムアウトは3600秒(1時間)に設定されています。IISがWebサーバーの場合、デフォルトでkeepAliveEnabled=trueと設定されています。この設定では通常、タイムアウトは発生しません。

解決策: Oracle HTTP Server Webサーバーのタイムアウトを大きくします。`MIDDLEWARE_HOME/user_projects/EPMSysstemX/httpConfig/ohs/config/OHS/ohs_component/mod_wl_ohs.conf`でAWBセクションを見つけて、`wlIOTimeoutSecs`プロパティを変更または追加し、一般的な移行タスクの継続時間を上回る値を指定します:

```
<LocationMatch ^/awb/>
```



```

SetHandler weblogic-handler
WeblogicCluster
  server name
  :19091
Idempotent OFF
WLIOTimeoutSecs 3600

```

SSOトークンのタイムアウトを調整することもできます。手順は、*Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド*を参照してください。

ライフサイクル管理診断

問題: 移行で問題が発生し、ライフサイクル管理ユーザーは、ライフサイクル管理アクティビティを分析する必要があります。

解決策: ログレベルをTRACE:32に変更します:

- すべての移行のログレベルを変更するには、コマンドラインユーティリティ(utility.batまたはutility.sh)から実行して、EPM_ORACLE_INSTANCE/Config/FoundationServicesのlogging.xmlファイルを編集します。

デバッグログは、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/migration/LCM_timestamp.logに書き込まれます。

デバッグコンテンツは、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/migration/Debug_sequence_idフォルダに書き込まれます。

- 移行のログレベルを変更するには、Shared Servicesから実行して、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0のlogging.xmlファイルを編集します。

デバッグログは、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FoundationServices0/logs/SharedServices_LCM.logに書き込まれます。

デバッグコンテンツは、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/migration/Debug_sequence_idフォルダに書き込まれます。

ライフサイクル管理とReporting and Analysis

次の表に、Oracle Hyperion Reporting and Analysisのライフサイクル管理トラブルシューティング情報を示します。詳細は、『*Oracle Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理ガイド*』を参照してください。

表21 Reporting and Analysisの一般的な問題と解決方法

問題	解決策
Oracle Hyperion SQR Production Reportingジョブがインポートされません。	Oracle Hyperion SQR Production Reportingのサブサービスが作成されていることを確認してください。
BQYファイルが処理されず、BQYジョブの実行に失敗します。	データ・アクセス・サービスのデータ・ソースが作成されていることを確認します。

問題	解決策
Financial Reportingオブジェクトを開けません。	Financial Reportingデータ・ソースが宛先のアプリケーションにあり、Financial Reportingデータ・ソースが変更されていないことを確認します。
アクセス制御情報がない、所有権情報がない、またはユーザーの個人データがインポートされていません。	Shared Servicesネイティブ・ディレクトリ(セキュリティ)アーティファクトが移行されていることを確認してください。
特定のオブジェクトがインポートされていません。	失敗したオブジェクトとともにインポートする必要があった欠落しているオブジェクトについて、移行ステータス・レポートの移行詳細を確認します。

ライフサイクル管理とFinancial Management

サブトピック

- [HFMLCMService Webサービスの接続と構成の設定](#)
- [ライフサイクル管理サーバー通信のタイムアウト設定](#)
- [Financial ManagementとShared Servicesのロギング](#)
- [大規模アプリケーションでの複数の移行によるメモリー不足の例外](#)
- [Financial Managementアーティファクトを移行できない](#)
- [Financial ManagementアーティファクトをShared Services Consoleで表示できない](#)

HFMLCMService Webサービスの接続と構成の設定

LCM Webサービスを正常に実行するには、LCM Webサービス(HFMLCMService)がMicrosoft IIS Webサーバーに存在する必要があります。Web.ConfigのexecutionTimeoutプロパティの値とmaxRequestLengthプロパティの変更が適切である必要があります。

- ▶ HFMLCMServiceへの接続を確認するには、http://HFM_WEBSERVER/HFMLCMService/LCMWS.asmxに移動します。

サービスが正しく実行されている場合は、LCM Webサービス・メソッドの名前を含むページが表示されます。

- ▶ executionTimeoutとmaxRequestLengthのHFMLCMServiceプロパティを変更するには:
 1. テキスト・エディタで、`EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Web/HFMLCMService`のWeb.Configを開きます。
 2. (オプション)LCMアーティファクトが非常に大きい場合、次の行のexecutionTimeout (秒単位)とmaxRequestLength (KB単位)の値を増やします。

```
<!-- Maximum value allowed is 2GB - Currently set waiting time to
1hours, 1.5GB data transfer-->
<httpRuntime executionTimeout="3600" maxRequestLength="1572864" />
```



注意

間違った値で変更すると、HFMLCM Webサービスが失敗する場合があります。

3. Web.Configを保存して閉じます。
4. Microsoft IIS Webサーバーをリセットします(iisreset)。

ライフサイクル管理サーバー通信のタイムアウト設定

問題: ライフサイクル管理サーバー通信がすぐにタイムアウトします。

解決策: SharedServicesコンポーネント・プロパティのHFM.client_timeoutの値を大きくします。推奨値は60以上です。このプロパティは、ライフサイクル管理サーバーがFinancial Managementのライフサイクル管理Webサービスと通信する時間(秒単位)を制御します。

▶ タイムアウト値を変更するには:

1. Shared Servicesにログオンして、「**Foundation**」アプリケーション・グループの「**デプロイメント・メタデータ**」を検索します。
2. 「**Shared Services**レジストリ」、「**Foundation Services**」ノード、「**Shared Services**」ノードの順に展開します。
3. 「**プロパティ**」を右クリックし、「**編集用にエクスポート**」を選択して、エクスポートされたファイルを保存します。
4. 保存されたファイルで、HFM.client_timeout設定を大きくします。
5. Shared Servicesで、「**プロパティ**」を右クリックし、「**編集後にインポート**」を選択して、編集されたプロパティ・ファイルをインポートします。

変更は、次の移行で有効になります。

Financial ManagementとShared Servicesのロギング

問題: ロギングと診断が使用可能ではありません。

解決策: すべてのアクティビティを自動的に記録するようFinancial Managementを設定し、問題の診断に使用できる監査証跡が利用できるようにします。



注意

ロギングと診断を使用可能にするのは、必要時のみにしてください。これらを使用可能にすると、特に大規模な移行時には、パフォーマンスに影響を及ぼすためです。

▶ ロギングを有効にしてログを表示するには:

1. テキスト・エディタで、EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Web/HFMLCService/Web.Configを開きます。
2. Web.Configで、次のパラメータを設定してロギングを有効にします。

• appSettings

```
<appSettings>
  <add key="Debug" value="true"></add>
</appSettings>
```

エラーが発生する場合は(再度ログインを使用可能にしていなくても)、IISアプリケーションのプール・アカウント(Network Service)に、ログ・ディレクトリへのフル・アクセスが必要です。フル・アクセスがないと、エラーは記録されません。

ログの場所: EPM_ORACLE_HOME/logs/hfm

- diagnostics

```
<diagnostics>
  <trace enabled="true" input="InputTrace.webinfo" output="OutputTrace.webinfo"/>
  <detailedErrors enabled="true"/>
</diagnostics>
```

エラーが発生する場合は(再度ログインを使用可能にしていなくても)、IISアプリケーションのプール・アカウント(Network Service)に、ログ・ディレクトリへのフル・アクセスが必要です。フル・アクセスがないと、エラーは記録されません。

ログの場所: EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Web/HFMLCService

InputTrace.webinfo

OutputTrace.webinfo

3. Web.Configを保存して閉じます。

大規模アプリケーションでの複数の移行によるメモリー不足の例外

問題: 大規模なアプリケーションで複数のFinancial Managementライフサイクル管理の移行を実行中に、IISプロセス(w3wp.exe)でメモリー不足の例外が発生します。

解決策: Financial Management WebサーバーでFinancial Managementライフサイクル管理のアプリケーション・プールに対するIIS構成を変更します。アプリケーション・プールの「プロパティ」ページで、仮想メモリーを1,000MB、物理メモリーを800MBに設定して、メモリーの再利用を使用可能にします。



注:

これらのメモリー設定は、大半の環境に適用できます。ハードウェア・リソースによっては、値を大きくすることもできます。

Financial Managementアーチファクトを移行できない

問題: 移行が失敗し、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理移行ステータス・レポートに次のエラー・メッセージが表示されます。

パス'C:/oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/products/FinancialManagement/Web/HFM/File Transfer/TempSecurityArtifact.sec'へのアクセスが拒否されました。



注:

エラー・メッセージに表示されるパスは、Financial Managementのインストールおよび構成中に指定したFinancial Managementファイル転送用のディレクトリ・パスです。

解決策: IISプール・アイデンティティが、Financial Managementのインストールおよび構成中に指定したFinancial Managementのファイル転送用のディレクトリ・パスに対して、読取り、書込みおよび実行の各権限があることを確認します。

- ▶ Financial Management Webサービスをホストしているコンピュータで、現在構成されているFinancial Managementのファイル転送用のフォルダ・パスを表示するには:
 1. レジストリ・エディタを開きます(「スタート」、「ファイル名を指定して実行」の順にクリックし、`epmsys_registry`と入力して、「OK」をクリックします)。
 2. `HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Hyperion Solutions/Hyperion Financial Management/Web`の下にある`FileTransferFolderPath`を表示します。

Financial ManagementアーティファクトをShared Services Consoleで表示できない

問題: Financial ManagementのIISポートが変更され、Oracle Hyperion Shared Services Consoleでアーティファクトを表示できません。

解決策: Financial Managementに対してEPM Systemコンフィグレータの「Webサーバーの構成」タスクを実行し、レジストリでポートを更新します。

Performance Management Architect

サブトピック

- ジョブ添付ファイルが開かない
- デイメンション・サーバー・サービスが起動しない
- McAfee HIPSを使用するユーザーのDataSyncページにソースと宛先のリンクが表示されない
- Financial Managementアプリケーションをデプロイ中のORAエラー
- Planningアプリケーションのデプロイ中の接続要求のタイムアウト・エラー
- インストールの失敗
- アップグレード後の検証エラー
- EPM Workspaceとの統合
- Performance Management Architectへのログオン
- ログオン時のセキュリティ権限の問題
- Oracle Hyperion EPMAサーバー・サービス起動
- Performance Management Architectタスクの表示
- ファイル・ジェネレータ
- Performance Management Architectのデイメンション・ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリへのアクセス
- アプリケーションの問題

Performance Management Architectの起動に問題がある場合、次の点を確認することからトラブルシューティングを始めます。

- 検証 - Performance Management Architectの構成後、「検証」をクリックします。エラー・メッセージが表示される場合、失敗したPerformance Management Architectテストまでスクロールダウンし、推奨される解決策を確認します。
- Windowsレジストリ・キー - Windowsレジストリに、Performance Management Architectに必要なキーと値があることを確認します。
 1. 「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、regeditと入力して「OK」をクリックします。
 2. レジストリ・エディタで、**HKEY_LOCAL_MACHINE – SOFTWARE, ORACLE**の順にクリックし、Performance Management Architectのエントリを確認します。
 3. Performance Management Architectのエントリがない場合は、次のキーと値でエントリを作成します：

```
EPM_ORACLE_HOME = C:/Oracle/Middleware/EPMSys11R1
EPM_ORACLE_INSTANCE = C:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1
JPS_CONFIG = C:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1/domains/EPMSys1/
config/fmwconfig/jps-config.xml
```

ジョブ添付ファイルが開かない

問題: Internet Explorerの一部のバージョンでは、Performance Management Architectジョブ添付ファイルを開く/ダウンロードすることができない場合があります。

解決策: この問題に対処するためにレジストリの変更を行います。この問題の詳細および回避策については、次のMicrosoft社のナレッジ・ベース記事を参照してください: <http://support.microsoft.com/kb/323308>

ディメンション・サーバー・サービスが起動しない

問題: ディメンション・サーバー・サービス(Oracle Hyperion EPMA Server)が起動せず、Performance Management ArchitectをIBM DB2とともに構成済の場合は、データベースのトランザクション・ログが満杯です。

解決策: トランザクション・ログが満杯というメッセージが発生した場合は、DB2トランザクション・ログ(logfilesiz)値を増やします。詳細は、<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21410935>を参照してください。

McAfee HIPSを使用するユーザーのDataSyncページにソースと宛先のリンクが表示されない

問題: McAfee HIPS (Host Intrusion Prevention Service)および一部のバージョンのInternet Explorerを使用しているPerformance Management Architectユーザーは、Performance Management Architectデータ同期のディメンション・マッピング・ユーザー・インタフェースのソースと宛先のディメンション間のリンクを示す行がないことに気付く場合があります。この問題の原因は、McAfee AntivirusがMicrosoft IEと競合することである可能性があります。

解決策: 詳細および回避策は次のMcAfeeナレッジベース記事に記載されています: <https://kc.mcafee.com/corporate/index?page=content&id=KB70810>。

Financial Managementアプリケーションをデプロイ中のORAエラー

問題: Financial ManagementアプリケーションをPerformance Management Architectからデプロイしようとすると、Performance Management ArchitectでORA-12519、Financial ManagementでORA-12516が発生する可能性があります。

解決策: Oracle DBサーバー・プロセスの数を増やします。次にEPM Workspaceに再ログインして、Financial Managementアプリケーションのデプロイ/再デプロイを試行します。

Planningアプリケーションのデプロイ中の接続要求のタイムアウト・エラー

問題: PlanningアプリケーションをPerformance Management Architectからデプロイ中に次のエラーが発生します: SoapException: サーバーが要求を処理できませんでした。--> Oracle.DataAccess.Client.OracleException接続要求はタイムアウトしました

解決策:

インストールの失敗

- **問題:** Performance Management Architectのインストールが失敗します。

解決策: このエラーは、Performance Management ArchitectでのMicrosoft .NET Framework 4.0の自動インストール時のエラーが原因である可能性があります。Microsoft .NET Framework 4.0を手動でインストールした後、Performance Management Architectのインストールを再実行してください。

- **問題:** 構成時にASP.NETエラーが発生します。

解決策: ASP.NETがインストールされて構成されていることを確認します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

アップグレード後の検証エラー

問題: リリース11.1.2.1より前のリリースからアップグレードした後、最初にPerformance Management ArchitectのASOまたはBSOアプリケーションを検証する場合に次のエラーが発生します:

```
Application server '<server name>' is invalid. It is not registered with Shared Services.
```

1. Performance Management Architect管理者の役割でログオンし(この手順を実行する前にプロビジョニングする必要があります)、Performance Management Architectアプリケーション診断を起動します。
2. 「アプリケーション・ライブラリ」で:
 - a. アプリケーションを右クリックして、「診断」を選択します。
 - b. テストを実行して、無効なデプロイメント情報を確認します。
3. 「潜在的なデプロイ場所を取得します」を選択して、「適用」をクリックします。
4. 正しいインスタンスおよびクラスタを選択し、「デプロイメント・データを同期します」をクリックし、次に「適用」をクリックします。



注:

アプリケーション当たり1回のみ、これらの手順を実行します。

EPM Workspaceとの統合

問題: 次のEPM Workspaceエラー・メッセージが表示されます:

「ターゲット・マシンがアクティブに拒否したため、接続を確立できませんでした。」

このエラーは、ディメンション・ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリにアクセスすると発生する場合があります。

この問題は、ディメンション・サーバーが実行されていない場合またはOracle Databaseにユーザー権限が欠落している場合に発生する可能性があります。

解決策:

- ディメンション・サーバーが実行されていない場合は、Oracle Hyperion EPMAサーバー・サービスを開始することで、ディメンション・サーバーが開始され、さらに接続が再試行されます。
- Oracle Databaseに「ビューの作成」ユーザー権限を割り当てます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のOracle Databaseの使用に関する項を参照してください。

Performance Management Architectへのログオン

問題: Windows 2003環境でPerformance Management Architectにログオンできません。

解決策: ASP.NET 4.0.30319を使用していることと、ASP.NETおよびASPページが「許可」に設定されていることを確認します。

- ▶ Microsoft .NET Framework 4.0がWindows 2003またはWindows 2008マシンにインストールされ、有効であるかどうかを確認するには:
1. 次の方法のいずれかを使用してIISマネージャを開きます:

- 「スタート」、「プログラム」、「管理ツール」、「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の順に選択します。
 - inetmgrを実行します。
2. 左側のパネルで、「**Web サービス拡張**」を選択します。右側のパネルで、**ASP.NET 4.0.30319**が表示されていることを確認します。
 3. ASP.NET 4.0が表示されている場合は、「ステータス」列が「許可」に設定されていることを確認して使用可能にします。
 4. ASP.NET 4.0が表示されず、Microsoft .NET Framework 4.0がインストールされている場合は、Microsoft .NET Framework 4.0をIISに再登録します:
 - a. コマンド・プロンプトで、`C:/Windows/Microsoft.NET/Framework/v4.0.30319`ディレクトリに移動します。
 - b. `run aspnet_regiis.exe -iru`と入力します。
 - c. 手順1から3を繰り返します。

ログオン時のセキュリティ権限の問題

問題: デイメンションの作成、アプリケーションの作成などのタスクが使用できません。

解決策: アプリケーション作成者およびデイメンション編集者のセキュリティの役割を割り当てます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

Oracle Hyperion EPMAサーバー・サービス起動

問題: Oracle Hyperion EPMAサーバー・サービスが起動しません。



注:

Oracle Hyperion EPMAサーバー・サービスが起動状態でなくなるまで待つから、トラブルシューティングを開始します。

解決策: 考えられる原因がないか、Performance Management Architectを確認します。19ページの第3章「EPM Systemログの使用法」を参照してください。

大規模なデータベースでは、DimensionServerStartupTimeout設定を上げることもできます。手順については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』のBPMA_Server_Config.xmlファイルの構成設定に関する項を参照してください。

Performance Management Architectタスクの表示

問題: 「ナビゲート」メニューに、Performance Management Architectタスクが表示されません。

解決策: 次の状況を確認します:

- Foundation Servicesが起動されている。
- アプリケーション・サーバーのEPM Workspaceプロキシ・サーバー・プラグインが構成されている。

次のURLにアクセスできない場合は、プロキシ・サーバー・プラグインを構成する必要があります：

`http://Web server:port/awb/conf/AWBConfig.xml`。ここで、Web ServerはWebサーバー・マシンのホスト名、portはWebサーバー・リスニング・ポートです。

詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のWebサーバー構成の詳細設定オプションに関する項を参照してください。

ファイル・ジェネレータ

問題: Performance Management Architectアプリケーションからファイルを生成しようとする、ファイルが見つからなかったというエラー・メッセージが表示されます。

解決策: Performance Management Architect Webサービスの仮想ディレクトリに関連付けられているアプリケーション・プール(DefaultAppPoolなど)の.NetバージョンがASP.NET 4.0に設定されていることを確認します。

Performance Management Architectのディメンション・ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリへのアクセス

Performance Management Architectタスクにアクセスできない場合は、各コンポーネントに個別にアクセスして通信エラーの原因を特定します。

ディメンション・ライブラリの表示

問題: Performance Management Architectでディメンション・ライブラリを表示できません。

解決策: Performance Management Architectの適切な役割を割り当てられていることを確認します。ディメンション・ライブラリにアクセスするには、ディメンション編集者およびアプリケーション作成者のセキュリティの役割が必要です。『Oracle Hyperion Strategic Finance管理者ガイド』のShared Servicesのグローバル役割に関する項を参照してください。ディメンション編集者の役割が割り当てられたら、Performance Management Architectからログオフして再度ログオンします。

通信エラーまたは内部サーバー・エラー

問題: 通信エラーまたは内部サーバー・エラーに関するメッセージが表示されます。

解決策:

1. 次のURLを確認します：

`http(s)://web_server:web_port/awb/conf/AwbConfig.xml`

2. この手順で失敗した場合は、次のURLを確認します:

`http(s)://bpma_server:bmpa_port/awb/conf/AwbConfig.xml`

この手順で成功した場合は、EPM WorkspaceでPerformance Management Architectが正しい方法で使用可能になっていません。EPM Workspaceを再構成してください。

この手順で失敗した場合(エラー404)は、Performance Management Architect Webサーバーが起動されていません。

Performance Management Architectのディメンション・サーバーのエラー

問題: Performance Management Architectディメンション・サーバーでエラー・メッセージが表示されます。

解決策:

- 次のURLを使用します:

`http(s)://Local_machine_name/hyperion-bpma-server/Sessions.aspx`

「セッション(I)」ページが表示された場合は、IISが正しく構成されています。IISにエラーが発生した場合は、イベント・ログを調べて問題を特定します。システムおよびアプリケーション・ログを確認し、ASP.NETまたはIISのエラーがロギングされていないかどうかを調べて、エラーを修正します。原因として、TEMPディレクトリに対するユーザーの権限が正しくないことが考えられます。

- HyS9EPMAで始まるソースからのイベント・ログを確認してください。原因として、Shared Servicesまたはデータベースの通信エラーが考えられます。
- ASPNETユーザーに、特定のフォルダへのアクセス権が与えられていない可能性があります。イベント・ログにセキュリティ関連エラーが表示された場合は、ASPNETユーザーに権限を割り当ててください。
 - コマンド・プロンプトで、`C:/Windows/Microsoft.NET/Framework/v4.0.30319` ディレクトリに移動します。
 - `run aspnet_regiis.exe-ga`と入力します。

ディメンション・サーバーWebサービスへのアクセス

問題: Performance Management Architectディメンション・サーバーWebサービスにアクセスできません。

解決策:

- ログで、subcodeが2、Win32 codeが1260の場合、Webサービス拡張に関する問題が発生しています。IISの「Web サービス拡張」で、ASP.NET 4.0.30319のWebサービス拡張のステータスが「許可」になっていることを確認します。
- SiteMinderがインストールされている場合は、ワイルドカード・マッピングを除去します:
 - hyperion-bpma-serverで、「プロパティ」、「構成」の順にクリックします。
 - ワイルドカード・マッピングのセクションの値を除去します。



注:

Webサービスは、.NET Framework 4.0を使用して実行されている必要があります。

ディメンション・サーバーでのIISの起動

問題: Performance Management Architectディメンション・サーバーでIISが起動しません。

解決策: コントロール・パネルから「管理ツール」、「サービス」の順に選択し、World Wide Web Publishing Serviceを起動します(まだ起動されていない場合)。

アプリケーションの問題

Performance Management Architectアプリケーションのステータスが、ディメンション・サーバー、オブジェクト・リポジトリまたはターゲットのEPM System製品と、様々な原因で同期されていません。アプリケーション診断を実行すると、アプリケーションの不整合を確認できます。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』を参照してください。

Smart View

サブトピック

- [インストール方法](#)
- [Smart View共有接続](#)

インストール方法

EPM Workspaceをインストールして構成した後、次のいずれかの方法を使用してSmart Viewをインストールします。

- EPM Workspaceで、「ツール」、「インストール」、「**Smart View**」の順に選択し、Smart Viewインストーラを起動します。
- EPM_ORACLE_HOME/common/epmstatic/wspace/SmartViewに移動し、Smartview.exeを起動します。

Shared ServicesおよびFinancial Managementに対するSmart Viewのタイムアウトの詳細は、[101ページのShared ServicesとFinancial Management](#)を参照してください。

Smart View共有接続

問題: Financial Managementがhttp://server:port/workspace/SmartViewProvidersのURLでSmart Viewの共有接続を使用する場合、Smart ViewがFinancial Managementプロバイダの詳細を返しません。

解決策: EPM SystemコンフィグレータのIIS Smart Viewコンテキストをカスタマイズする場合、Oracle Hyperion Shared ServicesレジストリのSmartViewContextプロパティを手動で変更する必要があります。

デフォルトで、SmartViewContext値は//hfmoofficeprovider/HFMOfficeProvider.aspxです。hfmoofficeproviderをOracle Hyperion Smart View for Office論理Webアドレス・コンテキストに置き換えます。手順については、*Oracle Enterprise Performance Management System*デプロイメント・オプション・ガイドのShared Servicesレジストリの更新に関する項を参照してください。

6

Essbase

この項の内容:

Essbaseメンテナンス・リリース	119
EssbaseおよびProvider Servicesのアップグレード	120
MaxLからのログイン	121
アップグレード前のセキュリティ・ファイルのバックアップ	121
Essbaseクラスタへの接続	122
Essbaseサーバーの起動	122
LinuxのEssbaseの起動	123
Essbaseのフェイルオーバーの問題	124
クライアント-サーバーの接続	124
OPMNの再起動	124
起動: ポートの競合	124
Integration Services: OLAPメタデータ・カタログまたは外部データ・ソースへの接続	125
Essbase Studioの起動	125
Essbase Studioログの削除	125

Essbaseメンテナンス・リリース

問題: メンテナンス・リリースの適用後にアプリケーションを起動すると、エラー・メッセージが表示されます。

このエラーは、Essbaseのインストールおよび構成を実行する前にリンク・レポート・オブジェクトをエクスポートしていない場合に発生します。(リンク・レポート・オブジェクトは、Essbaseの構成後に手動でインポートします。)

解決策: リリース11.1.2のデータベースを復元し、リンク・レポート・オブジェクトをエクスポートして、メンテナンス・リリースの適用プロセスを再開します。

問題: メンテナンス・リリースを適用すると、Essbaseサーバー構成に失敗します。この問題は、Essbaseサーバーをクローズしないでメンテナンス・リリースの適用を開始すると発生します。



注:

Essbaseがサービスとして構成されていない場合、すべてのサービスを停止しても、Essbaseサーバーはクローズしません。

解決策: (メンテナンス・リリースはMiddlewareホーム・ディレクトリ内のすべてのコンポーネントに影響するため)すべてのEPM Systemプロセスを停止し、Essbaseサーバーが停止していることを確認してから、メンテナンス・リリースを再度適用します。

さらに、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPMシステム製品のメンテナンス・リリース・インストールの実行に関する項に示された、前提条件が満たされていることを確認してください。

EssbaseおよびProvider Servicesのアップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

Essbaseステージング・ツール

問題: 64ビットLinuxシステムで、Essbaseステージング・ツールが起動せずエラー・メッセージが表示されます。メッセージはこれらのいずれかになる可能性があります:

- EssbaseでFusionユーティリティ関数を初期化できません。エラー[%s]
- エラー1030803

これらのエラーは、64ビット・バージョンのlibaioパッケージがインストールされていない場合に発生します。

解決策: Essbaseをインストールしたり、Essbaseステージング・ツールを実行する前に、64ビット・バージョンのlibaioパッケージ、バージョン0.3.105-2以降を同じマシンにインストールしてください。

役割の更新

問題: Essbaseインスタンスをアップグレードする際に、そのインスタンスのEssbaseの役割が更新されません。

この問題は、Shared Servicesデータをインポートする前にEssbaseインスタンスをアップグレードした場合に発生します。

解決策: ネイティブ・ディレクトリの更新ユーティリティを実行して、プロビジョニング情報を更新します。手順については、アップグレード対象リリースのOracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイドのネイティブ・ディレクトリの更新ユーティリティの使用方法に関する項を参照してください。

Essbase Studioデータベースの構成タスク

問題: リリース11.1.1.3からEssbase Studioをアップグレードする際、データベースの構成タスクが失敗し、一貫性のないオブジェクトに関するメッセージがEssbase Studioのアップグレード・ログ・ファイルに追加されます。例:

原因: com.hyperion.cp.cplutil.scripts.export_import.exceptions.ExportException:
カタログのオブジェクトに一貫性がありません。次の形式のオブジェクトを確認してください: /'Drill Through Reports'/'Supplier', object id : @44#0#101#0@.

このエラーは、データ・ソースの接続名が変更されたために、ドリルスルー・レポートに一貫性がない場合に発生します。

解決策: 次の手順を行います:



注:

リリース11.1.1.3のリリース環境が実行中で、Essbase Studioカタログのアップグレードが成功するまで使用可能であることを確認してください。

- これらの処理のいずれかを行って、すべてのドリルスルー・レポートの不整合を修正してください。
 - リリース11.1.1.3環境で、データ・ソース接続を元の名前に変更します。
 - 無効なドリルスルー・レポートを、ドリルスルー・レポート・エディタの「レポート・コンテンツ」タブで新しい列の値を指定することにより更新します。

新しいフィルタも提供できます。
 - 無効なドリルスルー・レポートを11.1.1.3環境から削除して、アップグレード済のEssbase Studio環境で再作成します。
- EPM Systemコンフィグレータを再起動して、データベースの構成タスクを再度実行してください。

MaxLからのログイン

問題: 一部のAIX 5.3システムで、これらのエラー・メッセージがMaxLからのログイン中に表示される場合があります:

```
MAXL> login essexer password;  
  
WARNING - 1040152 - Failed to load ZT library.  
WARNING - 1040156 - SSL initialization failed with error code [1040152]..  
OK/INFO - 1051034 - Logging in user [essexer].  
OK/INFO - 1051035 - Last login on Monday, February 07, 2011 2:57:58 PM.  
OK/INFO - 1241001 - Logged in to Essbase.
```

解決策: カーネル拡張機能の更新をAIX 5.3システムに適用します:

- http://www.oracle.com/technology/software/products/database/oracle11g/111060_aixsoft.htmlからrootpre_aix.zipをダウンロードします。
- rootとしてログインします。
- rootpre.shを実行します。

アップグレード前のセキュリティ・ファイルのバックアップ

旧リリースからこのリリースのEssbaseにアップグレードする場合、セキュリティ・ファイルがアップグレードされる前に、旧リリースのセキュリティ・ファイルのバックアップが作成されます。セキュリティ・ファイルのバックアップ、Essbase.Bak_preUpgradeはARBORPATH/binにあります。Essbaseセキュリティの最新の状態を定期的にバックアップす

るEssbase_timestamp.bakとは異なり、このアップグレード前のバックアップ・ファイルはそのまま保持され、さらなる操作によって更新されません。

Essbaseクラスタへの接続

問題: クラスタ名を使用して(たとえば、MAXL> login admin password EssbaseCluster-1と入力して) Essbaseクラスタに接続できません。

解決策: 次のいずれかの措置を取ります:

- 使用するURLが次のいずれかのフォーマットに従っていることを確認します:
 - `http(s)://host:port/aps/Essbase?ClusterName=cluster`
 - `http(s)://host:port/aps/Essbase?ClusterName=cluster&SecureMode=<yes|no>` (セキュア・プロトコルでEssbaseに接続)
- クラスタ名のみを使用してEssbaseクラスタに接続するために、構成ファイルを変更して、URL内のクラスタ名を解決するProvider Servicesサーバーを指定します。Provider Servicesサーバーは、次の構成ファイルで指定します:
 - サーバー間の通信の場合 – `essbase.cfg`

次のフォーマットを使用します:

```
ApsResolver http(s)://host:port/aps
```

サーバー名の上にセミコロン(;)を使用すると、`essbase.cfg`で複数のProvider Servicesサーバーを指定できます。

- クライアントとサーバー間の通信の場合 – `essbase.properties`

次のフォーマットを使用します:

```
ApsResolver=http(s)://host:port/aps
```



注:

Essbase CAPIを使用するツールやアプリケーション(MAXL、Esscmd、Planningなど)の場合、ApsResolver設定はクライアント側の`essbase.cfg`に指定する必要があります。

Essbase JAPIを使用するツールやアプリケーション(Provider Services、Essbase Studioなど)の場合、ApsResolver設定はクライアント側の`essbase.properties`に指定する必要があります。

Essbaseサーバーの起動

問題: メンテナンス・リリースを適用した後で、Essbaseが起動しません。

この問題は、メンテナンス・リリースを適用する前にすべてのプロセスを停止しない場合に発生します。

解決策: `EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install/installTool-install1DDD-MM.DD.YYYY-TIME.log`ファイルを確認します。一部のファイルがインストールおよび構成中にロックされていたことを示す「プロセスは別のプロセスで使用されているため、ファイルにアクセスできません」などのメッセージがログ・ファイルに含まれている場合は、Essbaseを再インストールします。

問題: `essbase.cfg`またはプラットフォームの共有ライブラリ・パスで `JVMMODULELOCATION` を適切に設定していない場合、次のエラー・メッセージが表示されます:

JVMのロードに失敗しました[jvm.d11]。シングル・サインオンの初期化に失敗しました

解決策: `essbase.cfg`をテキスト・エディタで開き、適切なJVMを指定するよう編集します。

問題: 「GCInit()の実行に失敗しました」というエラー・メッセージが表示されます。このメッセージは、`ESSBASEPATH`のロケール・ディレクトリが見つからないか、ファイルがロケール・ディレクトリで欠落している場合に表示されます。

解決策: `hyperionenv.doc` (UNIX)または`setEssbaseEnv.cmd` (Windows)で`ESSBASEPATH`を確認します:

- Windows - コマンド・ラインに`echo %ESSBASEPATH`と入力します。
- UNIX - コンソール・ウィンドウで`> echo $ESSBASEPATH`と入力します。

`ESSBASEPATH`がないか、正しくない場合は、正しい`ESSBASEPATH`を定義します。



注:

`ESSBASEPATH`には、`essbase.exe`ではなく、Windowsの場合は`startEssbase.bat`を、UNIXの場合は`startEssbase.sh`を使用してください。

問題: Essbaseが「スタート」メニューから起動しません。

解決策: コマンド・ラインからEssbaseを起動します。Essbaseをコマンド・ラインから起動すると詳しいエラー・メッセージが表示され、トラブルシューティングに役立ちます。たとえば、欠落しているファイルやアクセスできないファイルなどのメッセージが表示されます。

LinuxのEssbaseの起動

問題: LinuxマシンでEssbaseを起動すると、次のエラー・メッセージのいずれかが作成されます:

```
error while loading shared libraries: libstdc++.so.5: cannot open shared object file: No such file or directory
```

```
error while loading shared libraries: libaio.so.1: cannot open shared object file: No such file or directory
```

```
Failed when initializing utility routines, error = [1008163]
```

解決策: libaioパッケージ・バージョン0.3.105-2以降をインストールします。

Essbaseのフェイルオーバーの問題

Essbaseのフェイルオーバーについてトラブルシューティングするには、OPMNおよびEssbaseのログで、関連するイベントのシーケンスの確立について確認します。たとえば、OPMNはEssbaseを起動したが、データベース認証に失敗したため、Essbaseがリリースを取得していないということがログからわかります。

OPMNのエラー・メッセージの詳細は、*Oracle Process Manager and Notification Server管理者ガイド*を参照してください。

クライアント-サーバーの接続

問題: Essbaseクライアント-サーバー接続を確立できません。

解決策: サーバーでpingコマンドを使用し、サーバーが実行されており、クライアント・コンピュータで参照可能かどうかを確認します。pingコマンドで問題がない場合、TELNETコマンドを試します。

- pingコマンドは成功してもTELNETコマンドが成功しない場合、サーバーのinetデーモンに問題がある可能性があります。
- pingコマンドが失敗する場合は、ルーティングまたはハードウェアに問題がある可能性があります。

OPMNの再起動

問題: 約20秒ごとにEssbaseで次のようなエラーが表示されます。これは、Oracle Process Manager and Notification Serverの再起動後、OPMNで**Essbase**にpingできないことを示します。

```
[Thu Mar 11 18:00:04 2010]Local/ESSBASE0///Info(1056704)
Received OPMN Ping Request
```

```
[Thu Mar 11 18:00:04 2010]Local/ESSBASE0///Info(1056705)
Sent the Response to OPMN Ping
```

解決策: Essbaseを閉じて再起動します。

起動: ポートの競合

問題: デフォルトのEssbaseポートが他のプロセスに割り当てられているため、Essbaseを起動できません。

解決策: Essbaseポートを使用している他のプロセスを停止し、Essbaseを起動します。その後、他のプロセスを再起動します。

Integration Services: OLAPメタデータ・カタログまたは外部データ・ソースへの接続

問題: OLAPメタデータ・カタログまたは外部データ・ソースに接続できません。

解決策:

- 正しいユーザー名とパスワードを使用していることを確認してください。

OLAPメタデータ・カタログに接続する場合は、OLAPメタデータ・カタログで表を作成したユーザーと同じユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。

あるユーザー名を使用してログインしているときOLAPメタデータ・カタログを作成した場合、このユーザー名に別名を作成するか(Microsoft SQL Serverの場合)、または表のシノニムを作成する(IBM DB2およびOracleの場合)場合を除き、別のユーザー名を使用してOLAPメタデータ・カタログの表にはアクセスできません。

- ユーザー名が、OLAPメタデータ・カタログおよびデータ・ソースの両方へのデータベース・レベルでのアクセスに必要な権限を持っていることを確認します。
- 必要なすべてのコンポーネントが稼働していることを確認してください。次のコンポーネントが必要です:
 - Oracle Essbase Integration Servicesサーバー
 - OLAPメタデータ・カタログおよびデータ・ソース・データベースを管理するデータベース・サーバー
 - OLAPメタデータ・カタログおよびデータ・ソースに対応したデータ・ソース・データベース・リスナー
- OLAPメタデータ・カタログおよびデータ・ソースが、Integration ServerコンピュータでODBCデータ・ソースとして構成されていることを確認してください。

Essbase Studioの起動

問題: OracleまたはSQL 2005を使用して、Essbase Studioを開始できません。

解決策: 次の項目を確認します:

- server.propertiesファイルの情報が正しいです。server.propertiesファイルはEPM_ORACLE_INSTANCE/BPMS/bpms1/binにあります。これらの設定の詳細は、『Oracle Essbase Studioユーザー・ガイド』を参照してください。
- Studio Catalogへの接続に使用されるユーザー名がStudio Catalogを操作するのに適切な権限を持っていません。ユーザーはデータベースの所有者である必要があります。
- 次の必要なコンポーネントが実行されています:
 - Oracle Essbase Studioサーバー
 - Studio Catalogを管理するデータベース・サーバー

Essbase Studioログの削除

問題: Essbase Studioのログが、大きなファイルを実行すると削除されます。

これは、ログ・ファイルのサイズがロギング構成ファイルで設定された上限を超過したときに発生します。

解決策: Oracle Essbase Studioロギング構成ファイルlogging.xmlで、maxFileSizeとmaxLogSizeの設定を上げます。構成ファイルはEPM_ORACLE_INSTANCE/BPMS/bpms1/binにあります。

7

Reporting and Analysis

この項の内容:

Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションの起動	127
Financial Reporting	127
Interactive Reporting Studio	128
Reporting Studio	129
Web Analysis	129

Reporting and Analysis Framework Java Webアプリケーションの起動

問題: Windows環境でReporting and Analysis Framework Java Webアプリケーション・サービスを起動できません。また、HyS9RaFramework-sysout.logファイルに「(アクセス拒否)::解凍するファイルのパスの文字列が長すぎるか、ファイルの上書きに失敗しました」というメッセージが表示されます。

解決策: HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Hyperion Solutions/RAFramework/HyS9RaFrameworkキーの-Dweblogic.j2ee.application.tmpDir JVMオプション設定を手動で編集してtempディレクトリへのパスを短くした後、サービスを再起動します。たとえば、設定をC:/Temp/usernameに変更します。

Financial Reporting

問題: 資金調達要約レポートからリンク・レポートを開けません。

解決策: リンク・レポートが動作するためには、EPM Systemコンフィグレータを使用して、Oracle Hyperion Financial Reportingコンポーネントの論理アドレスがWebサーバー・ポートと同じ(19000など)になるように、Financial Reportingを構成します。

▶ リンク・レポートを開くことができるように、既存のレポートを修正するには:

1. EPM Workspaceで、「ツール」、「関連コンテンツ・リンクの変更」の順に選択します。
2. リンク・レポートが含まれるレポートを選択します。
3. 「変更前の関連コンテンツ・サーバー名」に、以前のポートを使用してサーバー名を指定します(<http://localhost:8200>など)。
4. 「変更後の関連コンテンツ・サーバー名」に、新しいポートを使用してサーバー名を指定(<http://localhost:19000>など)してから、「OK」をクリックします。

リンクが更新され、リンク・レポートを開くことができるようになります。

Interactive Reporting Studio

サブトピック

- [Essbaseのロード・エラー](#)
- [Oracle Net接続の失敗](#)
- [Oracle Procedureの処理の失敗](#)
- [フォントが正しく表示されない](#)

Essbaseのロード・エラー

問題: Essbaseに接続すると、このエラー・メッセージが表示されます: `Essbase not loaded successfully`。

解決策: これらの環境変数が存在して、Essbaseの正しいインストール場所を参照することを確認してください:

- `ESSBASEPATH`
- Path (Windowsの場合)
- `SHLIB_PATH` (HP-UXの場合)

Oracle Net接続の失敗

問題: Oracle Netに接続しようとする、「SQL*Netが正しくロードされていません」というメッセージが表示されます。

解決策: これらの環境変数が存在し、Oracleの正しいインストール場所をポイントしていることを確認します:

- `ORACLE_HOME`
- Path (Windowsの場合)
- `LD_LIBRARY_PATH` (SolarisとLinuxの場合)
- `SHLIB_PATH` (HP-UXの場合)

Oracle Procedureの処理の失敗

問題: Oracle procedureとともにOracle Wire Protocol ODBCクライアントを処理すると、このエラー・メッセージが生成されます: `PLS-00306: wrong number or type of arguments in call to <procedure_name>`。

解決策

- Windows: ODBC Oracleワイヤー・プロトコル・ドライバのセットアップ・ボックスの「詳細設定」タブで、**Procedure**が結果を返しますを選択します。

フォントが正しく表示されない

問題: Oracle Hyperion Interactive ReportingドキュメントがUNIXプラットフォームのシンクライアントで参照されるときに、データが切り捨てられるか重複します。

解決策: set_common_env.shのFONT_PATH変数を確認し、再起動します。EPM_ORACLE_HOME/common/raframeworkrt/11.1.2.0/bin/set_common_env.shファイルには、bqyファイルで使用されているものと同じフォントが含まれている必要があります。

Reporting Studio

問題: Oracle Hyperion Financial Reporting Studioのログイン時に、ランタイム・エラーおよびActiveXエラーが連続して表示されます。

解決策: HRRunAnt.cmdを実行して再起動してからログインします。

Web Analysis

サブトピック

- [Web Analysisの起動](#)
- [SAP BWへの接続エラー](#)
- [BEx問合せが表示されない](#)

Web Analysisの起動

問題: Reporting and Analysis FrameworkおよびWeb Analysis Java Webアプリケーションを異なるマシンにインストールすると、Web Analysisを起動できません。

解決策: EPM Systemコンフィグレータを使用して、Oracle Hyperion Web Analysisを再構成します:

1. Reporting and Analysis Frameworkの「データベースの構成」タスクを選択します。
2. 「前に構成したデータベースに接続」を選択します。
3. Oracle Hyperion Reporting and Analysis Frameworkデータベースの詳細を指定します。

SAP BWへの接続エラー

問題: Oracle Hyperion Web Analysis Studioでデータ・ソースの作成中にSAP BWに接続すると、次のエラー・メッセージが生成されます: 使用可能なキューブのリストを取得できません。

解決策: SAP JCoをインストールして構成します。

BEx問合せが表示されない

問題: 新しいデータ・ソースの作成時に、BEx問合せが「使用可能なデータベース」ペインに表示されません。

解決策: SAPビジネス・エクスプローラで、外部から問合せにアクセスできるようにBEx問合せのプロパティを変更します。

8

Financial Performance Managementアプリケーション

この項の内容:

Financial Performance Managementアプリケーション・アップグレード	131
Planning	132
Financial Management	135
Financial Close ManagementおよびTax Governance	140
Account Reconciliation Management	155
Profitability and Cost Management	156
Disclosure Management	157

Financial Performance Managementアプリケーション・アップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

Financial Managementアプリケーション・アップグレード

問題: Financial Managementデータベースがロックされているために、アップグレードが失敗します。



注:

以前のアップグレード試行を途中で終了した場合は、データベースがロックされています。

解決策: EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/serverからHFM Application Upgrade_x64.exe (64ビットのシステム用)またはHFM Application Upgrade.exe (32ビットのシステム用)を実行してデータベース・ロックをオーバーライドし、データベースをアップグレードします。

次の問題がFinancial Managementのアップグレード中に発生した場合も、解決策は同じです。

問題: 前のリリースからのアプリケーションのアップグレードタスクが失敗し、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades/HFMAplicationUpgrade.logに詳細が記録されます。このログには次のようなメッセージが含まれています: 次のアプリケーションのデフォルトのクラスタ名の検出に失敗しました: application name。

問題:「旧リリースからのアプリケーションのアップグレード」タスクは成功したのに、アプリケーションをEPM Workspaceで開けず、次のメッセージがFinancial Managementのイベント・ログに記録されます: サーバー/クラスタが正しく構成されていません。クラスタまたはサーバーの接続を再構成してください。

解決策: EPM Workspaceを使用して手動でアプリケーションを再登録し、割り当てられているクラスタ名を訂正します。すべてのアプリケーションを登録した後、Foundation ServicesおよびWebサーバーを再起動します。

Planning

サブトピック

- [EPM WorkspaceにPlanningアプリケーションが表示されない](#)
- [PlanningおよびAdministration Services](#)
- [パフォーマンスの問題](#)
- [非英語環境でのPlanningの使用](#)
- [Business Rules](#)

EPM WorkspaceにPlanningアプリケーションが表示されない

問題: 以前のリリースからのアップグレード後、EPM WorkspaceにPlanningアプリケーションが表示されません。

解決策: クラシックPlanningアプリケーションの場合はクラシック・ウィザードから、Oracle Hyperion EPM ArchitectのPlanningアプリケーションの場合はPerformance Management Architectから、Shared Servicesにアプリケーションが登録されていることを確認します。

PlanningおよびAdministration Services

問題: Administration ServicesでPlanningアウトラインを展開できません。

解決策: デバッグ機能をオンにし、次の事項を確認します:

1. Oracle Essbase Administration ServicesでEssbaseアプリケーション(サンプル・アプリケーションなど)にアクセスできるかどうか。Essbaseアプリケーションにアクセスできない場合、問題はPlanningではなく、Essbaseです。
2. Essbaseのセキュリティと外部認証。

パフォーマンスの問題

- **問題:** Oracleデータベースを使用していて、データベース・リフレッシュのパフォーマンスを改善する必要があります。

解決策: OracleでCURSOR_SHARINGがEXACT (デフォルト設定)に設定されていることを確認します。

- **問題:** Planningのパフォーマンスを改善する必要があります。

解決策: 環境に合わせてWebLogicをチューニングするか、ヒープ・サイズを大きくします。たとえば、Javaでメモリが不足し、デフォルトでJavaに割り当てられる512MBより多くのメモリがサーバーにある場合、Javaで使用できる量を増やします。*Oracle Enterprise Performance Management Systemデプロイメント・オプション・ガイド*を参照してください。



注:

環境の評価については、コンサルタントに連絡することをお勧めします。

非英語環境でのPlanningの使用

問題: Red HatまたはOracle Enterprise Linux環境で、Planningと簡体字中国語を併用すると、ログオン画面が表示されません。

解決策: (LANG=zh_CN.utf8ではなく)LANG=zh_CN.GB18030を指定します。方法を選択します:

- Planningをインストールして構成する前に、OSシステム・ローカル変数(まだ設定していない場合)で指定する
- Planningをインストールして構成した後、setCustomParamsHyperionPlanning.shで指定する

この問題は、他の英語以外の言語でも発生することがあります。

Business Rules

Calculation ManagerへのBusiness Rulesの移行

問題: Calculation Managerへのビジネス・ルールの移行に失敗するか、ルール移行をやり直す場合に、Oracle Hyperion Business RulesエクスポートXMLファイルがありません。

解決策: 移行可能にするため、HBRExportユーティリティを使用して、Business Rules DBMSからXMLファイルにルールを抽出します:

1. MIDDLEWARE_HOME/upgrades/planning/lib/HBRServer.propertiesファイル(テンプレート)を編集してOracle Hyperion Business Rulesリポジトリを参照し、編集したファイルをPlanningインスタンス・ディレクトリにコピーします。
2. /F: パラメータとともに出力場所を指定して、ユーティリティを実行します。

構文:

```
HBRExport.cmd/F:output file name
```

3. Oracle Hyperion PlanningおよびCalculation Manager内の移行に使用できるように、出力ファイルをMIDDLEWARE_HOME/EPMData/planningにコピーします。

再移行ルール

問題: リポジトリのルールがすでに移行されていますが、再度移行する必要があります。

- すべてのアプリケーションのすべてのオブジェクトを再移行するには、全体のHSPSYS_HBR2CMGRMIGINFO表を削除します。



注意

Oracle Hyperion Calculation Managerに行われた変更は失われます。

- 他のオブジェクトへの変更を保持するには、再移行する必要があるオブジェクトの行のみ表から削除します。

オブジェクト・タイプID:

- 1 - ルール
- 2 - シーケンス
- 3 - 変数
- 5 - マクロ
- 17 - ショートカット

OBJECTTYPEID= 1 (ルール)を削除する場合、OBJECTTYPEID= 17 (ショートカット)も削除します。

Planningサーバーのシャット・ダウン・エラー

問題: Planningサーバーを停止すると、正常にシャット・ダウンせずに、次のメッセージのエラーが発生する可能性があります:

```
<HTTP> <BEA-101276> <web application(s)/HyperionPlanning still have non-replicated sessions after 0 minutes of initiating SUSPEND. Waiting for non-replicated sessions to finish.
```

解決策: 次の手順を行います:

1. WebLogic管理コンソールにログインし、Planningサーバー・インスタンスの「制御」タブで、シャットダウン中はセッションを無視オプションを有効にします。
2. Oracle Hyperion Planningサーバーを再起動します。

Financial Management

サブトピック

- [Financial Managementへのアクセス](#)
- [接続の問題](#)
- [インストールに必要な権限](#)
- [大きなデータまたはファイルのロード](#)
- [固定サーバーがユーザーのリダイレクトを試みる](#)
- [EnableServerLockingオプション](#)
- [JRF WebServices Asynchronousサービス](#)

EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/UtilitiesディレクトリのFinancial Managementログ・ビューアは、Financial Managementの問題のトラブルシューティングに役立ちます。

EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/loggingの次のODLロギング構成ファイルもFinancial Managementのインストールと構成の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

- [logging.xml.template](#) (Financial Managementコア)
- [InteropLogging.xml](#) (Financial Management interop)



ヒント:

InteropLogging.xmlで診断ロギングを有効にするには、14行目のERROR:1をTRACE:1に変更します。



注:

Shared Servicesのインストールまたは実行で問題が発生する場合や外部認証で問題が発生する場合は、[93ページのShared Services](#)を参照してください。

EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/hfmには、以下のFinancial Managementログ・ファイルが含まれます:

- [EPMWindowsConfig.log](#) - Financial Management固有の構成
- [hfm.odl.log](#) (Financial Managementコア)
- [HsvEventLog.log](#) (Financial Managementコア)
- [InteropJava.log](#) (Financial Management interop)

エラー・ログの詳細は、[19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」](#)を参照してください。

Financial Managementへのアクセス

サブトピック

- [EPM WorkspaceからFinancial Managementへのアクセスの失敗](#)
- [Financial Managementへのログイン](#)

EPM WorkspaceからFinancial Managementへのアクセスの失敗

問題: Financial Managementにアクセスできません。

解決策: 次の手順を行います:

1. EPM Workspaceへのアクセスをテストするには、次のURLを使用します。ここで、**webserver**はEPM Workspace Webサーバーを実行しているマシンのホスト名、**webport**はWebサーバーのポート(デフォルトでは19000)、**hfmserver**はFinancial Management Webコンポーネントを実行しているマシンのホスト名、**hfmport**はFinancial Managementが使用するWebサーバーのポート(デフォルトでは80)です:

URL	予測される結果	結果が異なる場合の確認項目
<code>http://web_server:port/workspace/</code>	EPM Workspaceダッシュボード画面が表示され、新しいブラウザ・ウィンドウにログイン・ページが開く。	<ul style="list-style-type: none">• EPM Workspace Webサーバーが指定されたポートで実行されている。• EPM Workspace Java Webアプリケーションが実行されている。• Webサーバー構成ファイルが、正しいホスト名とポートをポイントしている。
<code>http://hfmserver:hfmport/hfm/</code>	「hfm」とのみ記載されたページが表示される。	<ul style="list-style-type: none">• Financial Management Webサーバーが実行されている。• Webサーバー構成ファイルが、Financial Management Webサーバーの正しいホスト名とポートをポイントしている。
<code>http://webserver:webport/hfm/</code>	「hfm」とのみ記載されたページが表示される。	Financial Management Webサーバーが実行されている。

Webサーバーの構成の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』の新規デプロイメントでのEPM System製品の構成に関する項を参照してください。

2. 手順1で解決できなかった場合は、EPM Workspaceプロキシ・サーバー・プラグインが構成されていることを確認します。構成されている場合は、Financial Managementに直接アクセスできるかどうかをテストします。

Financial Managementへのログイン

問題: Financial Managementにログインできません。

解決策: 次のアイテムを確認します:

- Financial Managementがインストールされ、構成されている。
- IISが開始し、Financial Managementの仮想ディレクトリが作成されている。
- IISの認証設定を確認する。セキュリティ・ポリシーに応じて、匿名認証またはWeb認証を使用できます。

▶ 認証方法を確認するには:

1. IISを開始し、「既定の Web サイト」を展開します。
2. Web認証のフォルダ(たとえば、Webの場合はFinancial Managementフォルダ)を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
3. 「ディレクトリ セキュリティ」を選択します。
4. 匿名アクセスまたはWeb認証が正しく構成されていることを確認します。

接続の問題

サブトピック

- [コンピュータの再起動後の失敗](#)
- [データベースへの接続](#)
- [SQLサーバーへの接続](#)

コンピュータの再起動後の失敗

問題: コンピュータの再起動後、Financial Managementインストールが失敗します。

解決策: Windowsでリモート・プロシージャ・コール・サービスを確認します。

1. Windowsのコントロール・パネルを開き、「サービス」を選択します。
2. 「Remote Procedure Call (RPC) Locator」が「手動」に設定されていることを確認します。
3. 「Remote Procedure Call」サービスを選択して「開始」をクリックし、コンピュータを再起動します。

データベースへの接続

問題: Financial Managementデータベースへの接続が失敗します。

解決策:

1. データベース・サーバーが稼働していることを確認します。
2. データベース・サーバーが稼働している場合、EPM SystemコンフィグレータでFinancial Managementの「データベース構成」パネルに移動し、データベース・サーバー名、ユーザー名、パスワードおよびデータベース名が正しいことを確認します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。
3. データベース・サーバーが稼働していて、構成情報が正しいにもかかわらず、データベース接続が失敗する場合は、Oracleデータベース・クライアントを再インストールします。

SQLサーバーへの接続

- **問題:** SQL Serverに接続できないか、次のようなエラー・メッセージが表示されます: SQL Server: プロバイダの初期化中にエラーが発生したため接続テストに失敗しました。クライアントは接続を確立できません。

• 解決策:

- Microsoft SQL Server認証ではなくWindows認証が使用されている可能性があります。SQL Server認証の使用をお勧めします。138ページのMicrosoft SQL Server認証設定の確認を参照してください。
- TCP/IPではなく、名前付きパイプを使用してデータベースに接続するためにMicrosoft SQL Serverのデフォルト設定が使用されている可能性があります。TCP/IPによる接続が必要です。138ページのTCP/IPを使用したSQL Server接続の確立を参照してください。

TCP/IPを使用したSQL Server接続の確立

Microsoft SQL Server 2005または2008を使用する場合、データベースへのTCP/IP接続はデフォルトで無効になります。EPM Systemコンフィグレータを実行する前に、これらの接続を有効にする必要があります。

▶ TCP/IPを使用したSQL Server接続を確立するには:

1. 「スタート」、「設定」、「コントロール パネル」の順に選択します。
2. 「管理ツール」を選択し、「データ ソース (ODBC)」をダブルクリックします。
3. 「追加」をクリックします。
4. ドライバのリストで「SQL Server」を強調表示し、「完了」をクリックします。
5. 接続するSQL Serverのデータ・ソース名、説明およびデータ・サーバー名を入力し、「次へ」をクリックします。
6. 認証オプションとして「ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う」を選択します。
7. 「クライアントの設定」をクリックして、「TCP/IP」を選択し(選択されていない場合)、「OK」をクリックします。
8. 「SQL Serverへの接続」でログインIDおよびパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
9. デフォルトのデータベースをFinancial Managementデータベースに変更します。
10. 「次へ」をクリックし、「完了」をクリックします。
11. 「データ ソースのテスト」をクリックします。
12. 成功のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックし、もう一度「OK」をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
13. 「OK」をクリックして「ODBC アドミニストレータ」ダイアログ・ボックスを閉じます。

Microsoft SQL Server認証設定の確認

▶ Microsoft SQL Server認証設定を確認するには:

1. 「スタート」、「プログラム」、「Microsoft SQL Server」、「Enterprise Manager」の順に選択します。
2. Microsoft SQL Serverのリストを展開します。
3. データベース・サーバー名を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
4. 「セキュリティ」を選択します。
5. 認証オプションとしてSQL ServerとWindowsが選択されていることを確認します。
6. 「OK」をクリックします。

インストールに必要な権限

問題: Financial Managementを、インストールおよび構成できません。

解決策: Financial Managementをインストールするためのローカル管理者権限があることを確認します。

大きなデータまたはファイルのロード

問題: 大きなデータまたはファイルのロードの実行時にエラー・メッセージが表示されます。

解決策: クラシック管理を使用していてプロキシ・エラーが発生した場合は、Workspaceのタイムアウト設定を大きくします。

固定サーバーがユーザーのリダイレクトを試みる

問題: Windowsアプリケーション・ログで数分ごとに次のイベントが記録されます:

ソース(HyperionFinancialManagement)のイベントID(0): 固定サーバーがサーバーへのユーザーのリダイレクトを試みました! 戻りコード=-2147220919。

戻りコードは常に同じで、アプリケーション・サーバー名のみが変更されます。

解決策: サインオンしたトークンが無効になった場合、この問題が発生します。解決するには、次の手順を実行してください:

- 各WebサーバーおよびFinancial Management Win32クライアント・マシンに、次のレジストリ設定を追加します:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Hyperion Solutions/Hyperion Financial Management/Client/Clusters/machine name
```

EnableServerLockingオプション

問題: Financial Managementを複数のアプリケーション・サーバーと設定した後、EnableServerLockingオプションが使用不可です。

EPM Systemコンフィグレータは、自動的にEnableServerLockingオプションを有効にしません。そのため、複数のFinancial Managementアプリケーション・サーバーを使用している場合、データ同期は300秒後に実行されず、HsvEventLog.logには"Multi-server is not ON"と記録されます。

解決策: Windowsレジストリを更新してオプションを手動で使用可能にします。:

- 次のキーを探します:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE/SOFTWARE/Hyperion Solutions/Hyperion Financial Management/Server
```

- キーに次のパラメータを追加します:

```
"EnableServerLocking"=dword:00000001
```

JRF WebServices Asynchronousサービス

問題: このエラー・メッセージは、Financial Managementをデプロイする際に返されます:

不足のテンプレートをインストールしてください: Oracle JRF WebServices Asynchronousサービス。

解決策: JRF WebServices Asynchronousサービスは、Financial ManagementをFinancial Close Managementとともに使用するために必要です。Financial Close Managementを使用していないか、インストールしていない場合、EPM SystemコンフィグuratorでFinancial Managementの「アプリケーション・サーバーへのデプロイ」タスクを選択する必要はありません。これにより、エラー・メッセージが返される可能性があります。Financial Managementの機能には影響がありません。間違えてFinancial Managementで「アプリケーション・サーバーへのデプロイ」を選択した場合、エラー・メッセージを無視しても構いません。

Financial Close ManagementおよびTax Governance

サブトピック

- [Financial Close Managementの一般的なトラブルシューティングのヒント](#)
- [OWSMロギングの有効化](#)
- [管理対象サーバーのメモリー不足エラー](#)
- [SOAサーバー・ログ内のHumanWorkflowエンジンのエラー](#)
- [Financial Close Managementのインストールおよび構成の問題](#)
- [使用できないBeanの警告が繰り返される](#)
- [Financial Close Managementスケジュールの実行の問題](#)
- [WebLogicおよびLogging Last Resource \(LLR\)データソース](#)

Financial Close Managementの一般的なトラブルシューティングのヒント

Financial Close Managementのインストールと構成の問題をトラブルシューティングする場合、次のログを確認します(問題を解決するために役立ちます)。テクニカル・サポートへのお問合せの際も、問題に関する情報が含まれたMIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysystem/servers/FinancialClose0/logsのログを使用できます:

- WebLogic管理サーバー
 - AdminServer.log
 - AdminServer-diagnostic.log
- SOA
 - soa_server1.log
 - soa_server1-diagnostic.log
- Financial Close Management: FinancialClose.log
- Foundation Services: FoundationServices0.log

[19ページの第3章「EPM Systemログの使用方法」](#)を参照してください。

Financial Close Management検証ツールを実行して、Financial Close Managementのコンポーネントが正しくデプロイおよび構成していることを確認します。手順は、『*Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド*』のFinancial Close Managementのデプロイメントの確認に関する項を参照してください。

問題がEPM Workspaceに関連するかどうかを確認するには、リンク(<http://host:port/fcc/faces/oracle/apps/epm/fcc/ui/page/FCCDashboard.jspx>)を使用してEPM Workspaceを介さずにFinancial Close Managementに直接ログオンします。Financial Close Managementのデフォルト・ポートは8700です。

詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のFinancial Close Management構成後のタスクに関する項を参照してください。

OWSMロギングの有効化

▶ OWSMロギングを使用可能にするには:

1. Enterprise Managerコンソールにログオンします。
2. **Weblogic**ドメイン - domain nameを展開します。
3. 「**soa_server1 - Logs - Logs Configuration**」を右クリックします。
4. 右ペインで、検索フィールドにoracle.wsmと入力して、検索を開始します。
5. ロガーのロギング・レベルをTRACE:32 (FINEST)に変更して、「適用」をクリックします。
6. Financial Close Management管理対象サーバーで、[141ページのステップ 3](#)から [141ページのステップ 5](#)を繰り返します。

管理対象サーバーのメモリー不足エラー

問題: Financial Close Management管理対象サーバーで次のエラーが発生します:

```
java.lang.OutOfMemoryError: PermGen space
```

解決策: 次の手順を行います:

1. PermGen設定を300M程度まで小さくします。必要に応じて300Mの設定を増やしますが、通常512Mより下の設定で十分です。
2. 最大ヒープ・サイズを大きくするには、XMX設定を増やします。本番環境では、1024Mの設定をお勧めします。

SOAサーバー・ログ内のHumanWorkflowエンジンのエラー

問題: SOAサーバー・ログのHumanWorkflowエンジンに関するエラーを確認します。例外は、oracle.ods.virtualization.serviceへの参照を示しています。例外は、リソースの割当てエラーまたは接続プール関連のエラーを示しています。これらのエラーは、LibOVDの接続プールが一杯で、接続の新規の要求を受け入れていないために発生する可能性があります。

解決策: 次の手順に従い、外部認証者用に接続プールを増やします:

1. DOMAIN_HOME/config/fmwconfig/ovd/defaultに移動します。
2. adapters_os.xmlファイルをバックアップします。

3. adapters_os.xmlを開き、外部LDAPプロバイダに対応するXMLフラグメントを特定します。
4. <maxPoolSize>10</maxPoolSize>を100に編集し、ファイルを保存します。
5. ドメイン内のすべてのサーバーを再起動します。これは、ドメイン・レベルの変更です。

Financial Close Managementのインストールおよび構成の問題

サブトピック

- Financial Close Managementサーバーのタイムアウト
- WebLogicのタイムアウト
- Webサービスを使用できない
- Financial Close Managementの起動順序
- EPM WorkspaceからのFinancial Close Managementの起動
- Financial Close Management構成中のSOAサーバーへのデプロイメント
- Financial Close Managementの電子メールの受信不能
- 電子メール通知の言語設定
- Financial Close Managementユーザー・プロビジョニング
- 電子メールからのログオン・アクセス
- ドメインの構成

Financial Close Managementサーバーのタイムアウト

問題: テンプレートにタスク・セットをインポートしようとする、インポートがフリーズするか、テンプレート内にタスク・セットが重複して作成されます。FinancialClose.logファイルに次のエラー・メッセージが記録されます:

```
ExecuteThread: '2' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-tuning)' has been
busy for "623" seconds working on the request "weblogic.servlet.internal.Servlet
RequestImpl
```

FinancialClose.logファイルに次のトレース・メッセージも記録されます:

```
Thread-64 "[STUCK] ExecuteThread: '2' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-
tuning)'" <alive, suspended, priority=1, DAEMON>
oracle.jbo.server.ViewObjectImpl.getApplyAllViewCriterias(ViewObjectImpl.java:8043)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.getWhereClauseParamsFromVcVars(ViewRowSetImpl.
java:4588)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.getParameters(ViewRowSetImpl.java:5906)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.getRowFilter(ViewRowSetImpl.java:625)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.execute(ViewRowSetImpl.java:1008)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.executeQueryForMasters(ViewRowSetImpl.java:1291)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.executeQueryForMode(ViewRowSetImpl.java:1221)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.executeQuery(ViewRowSetImpl.java:1213)
oracle.jbo.server.ViewObjectImpl.executeQuery(ViewObjectImpl.java:6097)
^-- Holding lock: oracle.jbo.JboSyncLock@376adc6[thin lock]
^-- Holding lock: oracle.jbo.JboSyncLock@376adc6[thin lock]
oracle.apps.epm.fcc.model.applicationModule.scheduling.TaskScheduling$TaskCritical
Path._loadPredecessors(TaskScheduling.java:1462)
```

解決策: 3つの設定を変更し、Financial Close Managementサーバーのタイムアウト設定を大きくします。

1. WebLogic管理サーバー・コンソールから、「domain name」、「環境」、「サーバー」の順に選択します。
2. 右側のパネルで、**FinancialClose0**を選択します。
3. 「構成」タブで次の操作を実行します:
 - a. 「チューニング」サブタブで、「スタック・スレッド最大時間」の値を大きくします。
 - b. 「オーバーロード」サブタブで、「スタック・スレッド最大時間」の値を大きくします。
4. 「プロトコル」タブで、「完了メッセージ・タイムアウト」の値を大きくします。

WebLogicのタイムアウト

問題: FinancialClose.logファイルに次のエラー・メッセージがあります:

```
weblogic.transaction.internal.TimedOutException: トランザクションはxx秒後にタイムアウトしました
```

解決策: WebLogic管理コンソールを使用して、JTAタイムアウトの設定を大きくします:

1. `http://host name:7001/console`にログオンします。
2. 「ドメイン構造」、「サービス」、「JTA」ページの順に選択します。
3. **JTA**タブで、「タイムアウト」の設定をデフォルト値の300よりも大きい値に変更します。
4. 「保存」をクリックします。
5. 「変更のアクティブ化」をクリックします。

Webサービスを使用できない

問題: SOA Suiteサーバーが、異なるマシンにあるWebサービスを呼び出すことができず、このエラーが記録されます:

```
oracle.wsm.security.SecurityException: WSM-00060 : タイム・スタンプの検証でエラーが発生しました
```

解決策: 両方のマシンで時間を確認し、マシン間の違いが5分より短くなるように一方のマシンの時間を再設定します。

このエラーの詳細を見るには、OWSMロギングを有効にします。141ページのOWSMロギングの有効化を参照してください。

詳細は、『Oracle® Fusion Middleware Webサービスのためのセキュリティおよび管理者ガイド』(http://download.oracle.com/docs/cd/E12839_01/web.1111/b32511/diagnosing.htm#CHDIDCHA)の第15章「診断の問題」を参照してください。

Financial Close Managementの起動順序

問題: サービスとサーバーが間違った順序で起動されたため、メディエータが無効です。または、Financial Management統合が機能しません。

解決策: サービスの起動タイプを「手動」に変更し、サービスおよびサーバーを、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』で指定されている順に起動します。



注意

Financial Close Managementを構成するためにSOAサーバーを起動した場合、それを停止してからOracle Enterprise Performance Management Systemサービスを開始してください。Financial Managementは、統合のためにコンポジットを設定できるように、SOAの起動時に実行されている必要があります。

EPM WorkspaceからのFinancial Close Managementの起動

問題: EPM Workspaceの「ナビゲート」メニューで、Financial Close Managementアプリケーションが\${Close Manager}と表示されています。\${CloseManager}をクリックすると、次のエラーが記録されます:

モジュールの構成が無効か、見つかりません

必要なアプリケーション・モジュールfcc.calendarが構成されていません。管理者にお問い合わせください。

解決策: Financial Close Management Java Webアプリケーションを起動します:

1. WebLogic管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)にログインします。
2. 「ドメイン構造」パネルで、「デプロイメント」をクリックします。
3. **FinancialClose**アプリケーションがアクティブかどうかを確認します。
4. **FinancialClose**アプリケーションの状態がアクティブでない場合、「開始」をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択することにより、アプリケーションを起動します。
5. Financial Close Managementの起動に失敗する場合、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FinancialClose0/logs/FinancialClose0.logで原因を確認します。

Financial Close Management構成中のSOAサーバーへのデプロイメント

問題: RCU構成ウィザードの「サマリー」セクションに次のエラー・メッセージが表示されます:

ORA-01450 キーが最大長を超えました

解決策: DB_BLOCK_SIZEの設定を大きくします。

問題: SOAのログに、列の欠落または存在しない表またはビューに関するエラー・メッセージが含まれています。これらのエラーは、RCUによって生成されたSOAINFRAデータベース・スキーマが、インストールされているSOA Suiteサーバーのバージョンと互換性がないことを示しています。

解決策: 互換性のあるバージョンのRCUおよびSOA Suiteをインストールしたことを確認します。



ヒント:

Oracle(R) E-Delivery (<http://edelivery.oracle.com/>)のOracle Enterprise Performance Management Systemメディア・パックからRepository Creation Utility (RCU)とSOA Suiteをダウンロードし、インストールすることをお勧めします。メディア・パックには正しいバージョンのRCUとSOA Suiteが含まれています。

SOA SuiteとRCUのバージョンを比較するには、次のフォルダのversion.propertiesファイルを確認します:

- RCU - rcuHome/rcu/integration/soainfra
- Oracle SOA Suite — MIDDLEWARE_HOME/Oracle_SOA1/rcu/integration/soainfra

Financial Close Managementの電子メールの受信不能

問題: 電子メール・ドライバが正しい情報で構成されていることを確認した後、Financial Close Managementからテスト用電子メールまたは電子メールを受信できません。

解決策: 次の手順を行います:

1. Enterprise Manager(http://WebLogic_Admin_Host:WebLogic_Admin_Port/em)に移動して、Web Logic管理サーバーとしてログインします。
2. 「ユーザー・メッセージング・サービス」フォルダを展開し、「**usermessagingdriver-email(soa_server1)**」を右クリックして「電子メール・ドライバ・プロパティ」を選択します。
3. 共通構成セクションの「送信者アドレス」およびデフォルトの送信者アドレスフィールドにアドレスが含まれていないことを確認します。

電子メール通知の言語設定

問題: ユーザーは、SOAサーバーで指定されたデフォルト言語とは異なる言語で電子メール通知を受信する必要があります。

解決策: アイデンティティ・ストアでユーザーの言語プリファレンスを指定します。たとえば、LDAPベースのアイデンティティ・ストアの場合:

1. アイデンティティ・ストアに接続します。
2. ユーザー・エントリに移動します。
3. preferredLanguage属性を追加または設定します。

Financial Close Managementユーザー・プロビジョニング

問題: Financial Close ManagementがShared Servicesに表示されないため、ユーザーにFinancial Close Managementの役割をプロビジョニングできません。

解決策: この問題は、Financial Close ManagementのShared Servicesへの登録が失敗したことを示しています。Financial Close Managementを強制的にShared Servicesに再登録するには:

1. financialclose_1_config.xmlファイルで次の文字列を検索します: hubRegistration。

financialclose_1_config.xmlファイルはEPM_ORACLE_INSTANCE/config/foundation/11.1.2.0/product/financialclose/11.1.2.0にあります。

MIDDLEWARE_HOME

2. 次の行を置換します:

```
<property name="hubRegistration">Configured</property>
```

次の行で:

```
<property name="hubRegistration">Pending</property>
```

3. EPM Systemコンフィグレータを再実行し、Financial Close Managementの最上位ノードのみを選択します。

電子メールからのログオン・アクセス

問題: MSADの構成後、スケジュールを起動し、タスクを実行できますが、電子メール・メッセージ内の「**タスク・アクション**」リンクからログオンできません。

解決策: MSADセキュリティ・プロバイダに指定されている送信者フィルタがユーザー名に正しい属性を使用していることを確認します(たとえば、(&(sAMAccountName=%u)(objectclass=user))。)

ドメインの構成

問題: Financial Close Management Java WebアプリケーションをOracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemコンフィグレータから既存のドメインを拡張することによってデプロイしようとすると、次のエラー・メッセージが返されます:

EPMCFG-10072: "<domain path>"ドメインの指定された管理ユーザー・パスワードが誤っています。ドメイン構成を確認して、正しいユーザー・パスワードを指定してください。

解決策: domain/servers/AdminServerの下にsecurityフォルダを追加し、boot.propertiesファイルをsecurityフォルダ内に追加します。

boot.propertiesファイルの例:

username=weblogic (クリア・テキストのWebLogic管理ユーザー名)

password=welcome1 (クリア・テキストのWebLogic管理パスワード)

使用できないBeanの警告が繰り返される

問題: メンテナンス・リリースを適用すると、SOAサーバー・ログ内で次の警告が永久に繰り返されます:

<警告><oracle.wsm.resources.policyaccess><WSM-06217><デフォルト・コンテキストのoracle.wsm.policymanager.accessor.BeanAccessorリポジトリ・アクセサの構成に、リモート・リポジトリのインタフェースoracle.wsm.policymanager.IDocumentManager Beanのインスタンスを使用できませんでした。>。

解決策: wsm-pmアプリケーションのすべてのターゲットがmds-owsmデータソースのターゲットでもあることを確認します。

1. hostname:7001/consoleにログオンします。
2. 左側のパネルで「デプロイメント」をクリックし、wsm-pmアプリケーションについて表示されたターゲットを確認します。
3. 「データ・ソース」をクリックし、mds-owsmのターゲットを確認します。
4. mds-owsmデータソースについてまだ表示されていないwsm-pmアプリケーション・ターゲットがあれば、それを追加します。

Financial Close Managementスケジュールの実行の問題

サブトピック

- [電子メール設定の確認](#)
- [無効なXID](#)
- [接続リソースの割当てエラー](#)
- [スケジュールのステータス](#)

電子メール設定の確認



注:

SOA電子メールの設定の後にOracle Fusion Middleware PS3へアップグレードする場合、設定が従前どおり正しいことを確認してください。

問題: 電子メール通知の受信について確認する必要があります。

解決策: この手順を使用して、電子メール通知の受信設定が正しく行われていることを確認します:

1. Enterprise Managerで、「SOA」フォルダを展開します。
2. **soa-infra (soa_server1)**を右クリックして、サービス・エンジン、ヒューマン・ワークフロー、通知管理、テスト通知の送信の順にクリックします。
3. 送信先の電子メール・アドレスを入力し、チャンネルとしての電子メールを選択します。テスト・メッセージを入力して「送信」をクリックします。

設定が正しい場合は、テスト・メッセージの電子メールを受信します。

無効なXID

問題: SOAサーバーからデータベースへの接続を試みると、次のエラー・メッセージが表示されます:

XID が無効です。start()がリソース'[connection pool]'で失敗しました

このエラーは、XAドライバを使用するJDBCデータ・ソースで発生します。

解決策: データ・ソースのXAトランザクション・タイムアウト設定を変更します:

1. WebLogic管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)で、「サービス」、「JDBC」、「データ・ソース」、「SOADatasource」、「トランザクション」の順に選択します。
2. 「XAトランザクション・タイムアウトの設定」を選択します。
3. XAトランザクションのタイムアウトを0にを設定します。

接続リソースの割当てエラー

問題: Financial Close Managementのログに次のエラー・メッセージが含まれています:

```
java.sql.SQLException: JNDI URL 'jdbc/data source'を介してデータソースを取得できませんでした。weblogic.jdbc.extensions.PoolDisabledSQLException: weblogic.common.resourcepool.ResourceDisabledException: プールdata sourceは中断しています。リソースをアプリケーションに割り当てられません..
```

このメッセージは、指定したデータ・ソースに対する接続プールで使用できる最大接続数を超えたことを示します。

解決策: 接続プールの容量を増やします:

1. WebLogic管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)で、「サービス」、「JDBC」、「データ・ソース」の順に選択します。
2. データ・ソースを選択し、「接続プール」、「最大容量」の順に選択します。
3. データ・ソース設定を編集して、容量を増やします。

financialclose_datasourceの推奨設定値は150ですが、インストール要件に応じて他の数値を使用することもできます。

スケジュールのステータス

この項に記載されている問題はすべて、タスクが想定どおりに起動されていないことを表します。

問題: タスクの開始や発行に失敗します。SOA診断ログに次のエラーが表示されます。これは、SOAサーバーがMSADサーバーに接続できないことを示しています:

```
[soa_server1] [ERROR] [OVD-60143] [oracle.ods.virtualization.engine.backend.jndi.MSAD.BackendJNDI] [tid: [ACTIVE].ExecuteThread: '14' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-tuning)'] [userId: cfndmr] [ecid: 0000J5qkW1R4epYVLqESOA1EBZ6^0003dU,
```

```
1:23453] [APP: soa-infra] [#MSAD] Unable to create connection to ldap://[ldapcml.
XXXX.ad]:389 as CN=XXXXX,OU=ServiceAccounts,DC=XXXX,DC=ad.[[ javax.naming.Naming
Exception: No LDAP connection available to process request for DN: CN=XXXXX,OU=Service
Accounts,DC=XXXXX,DC=ad
```

解決策: LibOVDアダプタ構成を変更して、AD LDAPアダプタの接続プールを100に増やします:

1. SOA Oracleホーム・ディレクトリに移動します(たとえばMIDDLEWARE_HOME/Oracle_SOA1/common/bin)。
2. `wlst.sh` (UNIX)または`wlst.cmd` (Windows)を実行します。
3. `connect()`コマンドを使用してWebLogic管理サーバーに接続します。
4. 次のコマンドを入力します:

```
modifyLDAPAdapter(adapterName='MSAD', attribute='MaxPoolSize', value=100)
```

5. WebLogic管理サーバーと、SOAアプリケーションが実行されている管理対象サーバーを停止してから再起動し、新しい接続プール設定を有効にします。



注:

`wlst`コマンドが失敗した場合は、Weblogic管理サーバー上の次のファイルを手動で編集して、MSADアダプタのMaxPoolSizeを100に増やします:

```
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/ovd/
default/adapters.os.xml
```

WebLogic管理サーバーと、SOAアプリケーションが実行されている管理対象サーバーを停止してから再起動し、新しい接続プール設定を有効にします。

問題: スケジュールのステータスを「オープン」に設定しても、ステータスは「保留中」のまま変わらないか、あるいは「保留中」に戻ります。

解決策: スケジュールのステータスが「保留中」に戻るということは、SOAサーバーへのメイン編成コンポジットの作成およびデプロイ時にエラーが発生したことを示しています。次の手順に従って、エラーを特定して解決します:

1. MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/soa_server1/Logs/soa_server1-diagnostic.logで、ステータスが元に戻った時点でのSOAサーバーの例外の有無を確認します。たとえば、SOAサーバーのメモリー不足などの例外があります。
2. MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FinancialManagement0/Logs/FinancialClose.logで、Financial Close Management管理対象サーバーで発生したエラーを確認します。



注:

MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/FinancialClose0のlogging.xmlを編集してレベルをTRACE:32に変更すると、より詳細なデバッグ情報が得られるロギング・レベルに上げることができます。

3. FinancialClose.logに次のNullPointerExceptionがある場合、データベースにログオンし、FCC_COMPOSITE_TEMPLATESのTEMPLATE_CONTENT列が移入されていることを確認します:

```
メソッド: fcc.model.applicationModule.IntegrationTypeManager.handleIntTypeMediator()  
[line:470]の起動後にfcc.model.applicationModule.bpel.CompositeGenerator.generate  
CompositeArtifacts() [line:120]で例外NullPointerExceptionが発生しました
```

4. SOA管理対象サーバーとWebLogic管理コンソール・サーバーの両方が稼働中であることを確認します。

次のようなエラー・メッセージは、SOA管理対象サーバーが実行されていないことを示します:

```
[2010-07-27T14:14:25.094-04:00] [FinancialClose0] [ERROR] [] [oracle.  
apps.epm.fcc.model]  
[tid: 23] [userId: admin] [ecid: 0000IcL7CiR1BhMLUM5Eic1CJPkU0000um,0] [SRC_CLASS:  
oracle.apps.epm.fcc.model.applicationModule.bpel.CompositeDeployer] [APP:  
FinancialClose] [SRC_METHOD: m_executeCommand] Can't find resource for bundle  
java.util.PropertyResourceBundle, key Failed deploying the composite[[  
java.net.ConnectException: Connection refused: connect  
at java.net.PlainSocketImpl.socketConnect(Native Method)  
at java.net.PlainSocketImpl.doConnect(PlainSocketImpl.java:333)  
at java.net.PlainSocketImpl.connectToAddress(PlainSocketImpl.java:195)
```

次のようなエラー・メッセージは、WebLogic管理コンソール・サーバーが実行されていないことを示します:

```
[2010-07-23T16:56:47.266-04:00] [FinancialClose0] [ERROR] [] [oracle.  
apps.epm.fcc.model]  
[tid: 15] [userId: admin] [ecid: 0000Ic160D^2FSYVLqaQOA1CIS1300006t,0] [SRC_CLASS:  
oracle.apps.epm.fcc.model.applicationModule.SOAServerManager] [APP: FinancialClose]  
[SRC_METHOD: _initJMXConnector] [[  
java.io.IOException  
at  
weblogic.management.remote.common.ClientProviderBase.makeConnection(ClientProvider  
Base.j  
ava:195)  
at  
weblogic.management.remote.common.ClientProviderBase.newJMXConnector(ClientProvider  
Base.  
java:83)  
at  
javax.management.remote.JMXConnectorFactory.newJMXConnector(JMXConnectorFactory.  
java:  
338)
```

問題: スケジュールを「オープン」ステータスに設定した後、タスクが起動しません。

解決策: スケジュールを「オープン」ステータスに設定した後、起動時間が過去で、先行タスクがないタスクのステータスはオープン実行中に変更されるはずです。システムが正しく構成されていることを確認します。

データ・ソースが正しく構成されていてタスクが起動しない場合、次の手順に従います:

1. Enterprise Managerコンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/em>)にログインします。
2. 左側で、「SOA」、「soa-infra (soa_server1)」の順に展開します。
3. 右側のダッシュボードの「デプロイ済コンポジット」リストで「MainOrchXXXComposite」(表の最上部)をクリックします。これは、直前に開かれたスケジュールのコンポジットです。

- MainOrchxxxCompositeが作成されていない場合、`epmsys_registry.bat view FINANCIAL_CLOSE_PRODUCT/LOGICAL_WEB_APP/FINANCIAL_CLOSE_WEB_APP/APP_SERVER`を実行してadminHostおよびadminPortプロパティが存在するかどうかを調べます。

adminHostおよびadminPortプロパティが存在しない場合、Financial Close Managementは正しいAPP_SERVERコンポーネント(**WebLogic 10 (APP_SERVER)**)にリンクされていません。レジストリにはAPP_SERVERコンポーネントのインスタンスが2つ存在する必要があります。両方のAPP_SERVERコンポーネントのIDをメモしておき、次のコマンドを実行して問題を解決します:

- a. `epmsys_registry.bat removelink # Financial Close Management Product ID # Wrong APP_SEVER Component ID`
 - b. `epmsys_registry.bat createlink # Financial Close Management Product ID # Correct APP_SEVER Component ID`
- インスタンスの数が0の場合、イベントの構成時にエラーが発生した可能性があるため、EDN設定を確認します:
 - a. SOAサーバーがMS SQL Serverを使用している場合は、次の手順でEDN設定を確認します:
 - Oracle Enterprise Managerコンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/em>)にログインし、イベントがEDN-JMSモードに設定されていることを確認します。
 - WebLogic管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)にログインし、次の状況に該当していることを確認します:
 - # EDNDataSourceおよびEDNLocalTxDataSource JDBCデータ・ソースが削除されています。
 - # EDN-JMS外部JNDIプロバイダが適切に設定されています。
 - b. SOAサーバーがOracle Databaseを使用している場合は、WebLogic管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)にログインし、EDNDataSourceおよびEDNLocalTxDataSourceデータ・ソースのターゲットがFinancial Close Management管理対象サーバーとSOAサーバーの両方になっていることを確認します。



ヒント:

Oracle Databaseを使用している場合、SOAサーバーに発行されたイベントはすべて、<http://SOA server host:8001/soa-infra/events/edn-db-log>で確認できます。

- メイン編成コンポジットのインスタンスの数が1以上で、メイン編成コンポジットに他の問題がない場合、「**FCCTaskExecutionComposite**」をクリックします。これは、スケジュール内の各タスクを実行するコンポジットです。ダッシュボードで、タスク実行コンポジットの最新の失敗と拒否されたメッセージを確認します。



ヒント:

WL_LLRR_FINANCIALCLOSE0表のRECORDSTR列の幅が4000であることを確認します。

- MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/soa_server1/Logs/soa_server1-diagnostic.logで、スケジュールのステータスが「オープン」に設定されたときのSOAサーバーでの例外を確認します。

ビジネス・イベントが正しく発行されなかった、SOAデータ・ソースが中断していたなどの例外が、SOA診断ログに含まれている可能性があります。

- SOAログの一般的なエラーには次のようなものがあります:

○原因: java.security.cert.CertificateExpiredException: 日時: 8月26日(木) 17:37:01 EDT 2010 at sun.security.x509.CertificateValidity.valid(CertificateValidity.java:256) at sun.security.x509.X509CertImpl.checkValidity(X509CertImpl.java:570) at sun.security.x509.X509CertImpl.checkValidity(X509CertImpl.java:543) at oracle.wsm.security.jps.WsmKeyStore.getJavaCertificate(WsmKeyStore.java:505)

このエラーは、キーストアの有効期限が切れていることを示します。キーストアを再作成して、正しいOracle Fusion Middleware configフォルダにコピーします。手順については、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

○[ecid: 0000IghXWnOcknYVLqNM8A1CZoZd0000DK,0:1:0x5f5e458:3:100000862] [APP: soa-infra] <BaseCubeSessionBean:: log error> Bean "cube delivery"起動中のエラー: 例外はCollaxa Cubeにより処理されません。[[未処理の例外がCollaxa Cubeシステムでスローされました; 報告された例外は次のとおりです: "ORABPEL-00000 例外はCollaxa Cubeシステムにより処理されません。未処理の例外がCollaxa Cubeシステムでスローされました; 報告された例外は次のとおりです: "ローカル例外スタック: 例外[EclipseLink-4002] (Eclipse Persistence Services - 1.2.0.v20091016-r5565): org.eclipse.persistence.exceptions.DatabaseException 内部例外: java.sql.SQLException: 内部エラー: XAConnectionを取得できません.weblogic.common.resourcepool.ResourceDeadException: 0:weblogic.common.ResourceException: リスナーが次のエラーで接続を拒否しました: ORA-12516, TNS:リスナーはプロトコル・スタックが一致する使用可能なハンドラを検出できませんでした。at weblogic.common.resourcepool.ResourcePoolImpl.reserveResourceInternal(ResourcePoolImpl.java:436) at weblogic.common.resourcepool.ResourcePoolImpl.reserveResource(ResourcePoolImpl.java:332) at weblogic.jdbc.common.internal.ConnectionPool.reserve(ConnectionPool.java:433) at weblogic.jdbc.common.internal.ConnectionPool.reserve(ConnectionPool.java:316) at weblogic.jdbc.common.internal.ConnectionPoolManager.reserve(ConnectionPoolManager.java:93)

このエラーは、データベース・サーバーがロードを処理できないことを示します。データベースのPROCESSESパラメータの値を大きくしてください。

- FabricInvocationException[[javax.xml.ws.soap.SOAPFaultException: トランザクションが31秒後にタイムアウトしました。

このエラーは、データベース・サーバーがロードを処理できず、SOAからのコールがタイムアウトしたことを示します。このWebLogic ServerドメインのJTA構成を大きくしてください: WebLogic管理サーバー・コンソールから、「**JTA**」タブに移動し、「**タイムアウト**」の値を大きくします。

- ORABPEL-10509 ユーザーが見つかりません。ユーザー"#error:noapi#"が構成"jazn.com"で見つかりません。

このエラーの最も有力な原因は、Financial Close ManagementがShared ServicesからのユーザーIDの取得に失敗したことです。WebLogic管理コンソールのJDBCデータ・ソースEPMSysRegistryで、ユーザーIDを取得するだけのコール数を処理できるほど接続プールが大きいことを確認します。接続プール・サイズの要件は場合によって異なりますが、クローズ処理で同時に開始されるクローズ・タスクの数よりも接続プールを大きくするようにします。たとえば、50のクローズ・タスクが同時に開始される場合、接続プールのサイズは50よりも大きくします。

- Caused by: com.oracle.bpel.client.BPELFault: faultName: {{http://schemas.oracle.com/bpel/extension}remoteFault}messageType: {{http://schemas.oracle.com/bpel/extension}RuntimeFaultMessage}

parts: {{

summary=<summary>oracle.fabric.common.FabricInvocationException: Unable to access the following endpoint(s): http://<hostname>:<port>>/FCC-DataModel-context-root/SOAAMService</summary>

,detail=<detail>Unable to access the following endpoint(s): http://<hostname>:<port>>/FCC-DataModel-context-root/SOAAMService</detail> ,code=<code>null</code>

WebLogicドメイン内のすべてのサーバーに正しいキーストアと資格証明ストア・ファイルがあることを確認します。このエラーは、通常、キーストアの設定が不正な場合に発生します。

エラーが解決されない場合は、OWSMロギングを有効にして、エラーの詳細を確認します。 [141ページのOWSMロギングの有効化](#)を参照してください。

- 次のエラー:

parseADFConfigurationMDS-01330でMDSConfigurationException発生: MDS構成ドキュメントをロードできません。

MDS-01329: 要素"persistence-config"をロードできません

MDS-01370:metadata-store-usage "OWSM_TargetRepos"のMetadataStore構成が無効です。

MDS-00922: 接続マネージャ"oracle.mds.internal.persistence.db.JNDIConnectionManager Impl"をインスタンス化できません。

MDS-00929: 名前"jdbc/mds/owsm"をJNDIで参照できません。'jdbc.mds.owsm'の参照中にサブコンテキスト'mds'が検出できません。解決された'jdbc'

WebLogic管理コンソールで、wsm-pmのターゲットがSOA管理対象サーバーおよびFoundation Services管理対象サーバーであることを確認します。

また、JDBCデータ・ソースmds-owsmのターゲットがAdminServer、SOA管理対象サーバーおよびOracle Hyperion Foundation Services管理対象サーバーであることを確認します。

- ポリシー参照URIが無効です。

ブラウザで、`http://SOA server host:SOA port/wsm-pm/validator` (たとえば、`http://localhost:8001/wsm-pm/validator`)を開き、OWSM構成が正しいことを確認します。OWSM構成が正しい場合、メッセージPolicy Manager Status: Operationalが、サポートされているセキュリティ・ポリシーのリストとともに表示されます。

ポリシー・マネージャーのステータスがoperationalでない場合、WebLogic管理コンソールの設定を確認します。一般的なOWSMの構成エラーには、アプリケーションwsm-pmが複数のターゲットにデプロイされ、JDBCデータ・ソースmds-owsmを正しくターゲットとしていないことが含まれます。アプリケーションwsm-pmは、SOA管理対象サーバーのみをターゲットとする必要があります。

- `java.sql.SQLException: Unexpected exception while enlisting XAConnection java.sql.SQLException: XA error: XAResource.XAER_NOTA start() failed on resource 'SOADatasource_EPMSystem': XAER_NOTA : The XID is not valid.`

XAドライバを使用するJDBCデータ・ソースの場合、WebLogic管理コンソールを使用して、XAトランザクションのタイムアウトが有効で、XAトランザクションのタイムアウトが0に設定されていることを確認します。

問題: タスクが「エラー」ステータスに変更されています。

解決策: Financial Close Managementにログオンし、「履歴」タブをクリックします。「履歴」タブの行に、詳細なエラー・メッセージが表示されます。

WebLogicおよびLogging Last Resource (LLR)データソース

Microsoft SQL Serverを使用している場合、WebLogic and Logging Last Resource (LLR)データソースに関連する既知の問題があります。エラーは、LLRにより使用される表で行の挿入または更新が行われると発生します。この問題を回避するには、DBAがLLR表を削除して、列サイズを拡大してLLR表を作成しなおす必要があります。



ヒント:

この手順は、Oracle Hyperion Financial Close Managementの管理対象サーバーの名前が、デフォルトのFinancialClose0以外である場合のみ必要です。http://download.oracle.com/docs/cd/E13222_01/wls/docs92/jta/llr.htmlを参照してください。

使用環境の必要に応じて、WebLogic属性(Follow Referrals)を設定します。WebLogicがMSADによりユーザー・プリンシパルを導出するように構成されている場合、この設定はMSADの設定を反映している必要があります。

- MSADが参照に従うように構成されている場合、属性はWebLogicで有効になる必要があります。
- MSADが参照に従うように構成されていない場合、属性はWebLogicで無効になる必要があります。

Follow Referralsは、デフォルトでは有効です。

「Referrals in the Active Directory Authentication Provider」(http://docs.oracle.com/cd/E17904_01/web.1111/e13707/atn.htm#BABFHHGE)を参照してください。

Account Reconciliation Management

ディメンションまたはプロファイルの表示

問題: Account Reconciliation ManagementディメンションまたはプロファイルがFDMEEから表示されません。

解決策: wlsConfigARM.bat スクリプト(Linuxの場合はwlsConfigARM.sh)を実行します:

1. FDMEEサービスとWebLogic管理サーバーが実行中であることを確認します。
2. EPM_ORACLE_HOME/EPMSysstem11R1/products/FinancialDataQuality/binの下のwls-ARM.propertiesを開きます。
3. ユーザー固有のWebLogicのuserName、passwordおよびadminServerURLを変更し、ファイルを保存します。
4. コマンドライン・プロンプトを開きます。
5. LinuxおよびWindowsの両方で、EPM_ORACLE_HOMEが環境変数として設定されていることを確認してください。
6. ディレクトリをEPM_ORACLE_HOME/EPMSysstem11R1/products/FinancialDataQuality/binに変更します。
7. 同じコマンドライン・プロンプトから、wlsConfigARM.bat (Linuxの場合はwlsConfigARM.sh)を実行します。
8. スクリプトが正常に実行されたことを確認してから、FDMEEサービスとWebLogic管理サーバーを再起動します。

ソースの初期化

問題: FDMEEからのソースの初期化が失敗します。

解決策:

- FDMEEシステムの設定を確認して、エージェントおよびリポジトリ情報が正しいことを確認します。
- ODIトポロジのソースの物理スキーマ設定を確認します:
 - 「接続のテスト」をクリックして、物理ソース・データ・サーバーから物理接続をテストします。
 - 物理スキーマ定義から、有効なスキーマが「スキーマ」メニューから選択されていることを確認します

StuckThreadMaxエラー

問題: Account Reconciliation Managementが「構成された時間(StuckThreadMaxTime)」を示すメッセージでタイムアウトします。

解決策: 次の手順に従って、「スタック・スレッド最大時間」設定の値を大きくします:

1. WebLogicコンソールにログオンします。
2. 「環境」、「サーバー」の順に選択して、「スタック・スレッド最大時間」設定の値を大きくする管理対象サーバーの名前をクリックします。
3. 「構成」、「チューニング」の順に選択します。
4. 必要に応じて、「スタック・スレッド最大時間」および「スタック・スレッド・タイマー間隔」設定を編集します。



ヒント:

詳細は、「スタック・スレッド最大時間」の右側の「詳細情報」をクリックできます。

ODIシナリオ

問題: Oracle Data Integrator(ODI)シナリオが起動しますが、手順が実行されません。

この条件は、表のロックの問題を示す場合があります。

解決策: FDMEEを再起動します。問題が解決しない場合、ODIマスター・リポジトリのデータベースを再起動します。

Profitability and Cost Management

Profitability and Cost Management接続タイプを使用した問題の解決

デフォルトで、Profitability and Cost ManagementはEssbaseへの接続に埋込みモードを使用します。Provider Servicesを使用している場合、Provider ServicesモードはOracle Essbaseキューブのデプロイ中に多くのTCPポートを使用します。この状況が原因で、Profitability and Cost Managementのログ・ファイルにネットワーク・エラーが表示される場合があります。

接続タイプの埋込みモードへの変更

Oracle Hyperion Provider Services接続タイプの使用時にネットワーク・エラーが発生する場合、接続タイプを埋込みモードに切り替え、キューブを再デプロイしてください。

- ▶ 接続タイプを埋込みモードに設定するには:

1. Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementで、「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。
2. 「モデルの要約」画面で、「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。
3. 「Essbase接続情報」の下で、「接続タイプ」ドロップダウン・リストから「埋込み」を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

Disclosure Management

問題: Microsoft WordおよびExcelでOracle Hyperion Disclosure Managementアドインを使用できません。

この問題は、Microsoft Officeのインストール時にMicrosoft WordおよびExcelに対して「**.NETプログラミング サポート**」を選択していない場合に発生します。

解決策: Microsoft Officeに必要なプライマリ相互運用機能アセンブリ(PIA)がある場合は、Windowsの「コントロール パネル」を開いて、WordおよびExcelの設定を変更します:

1. インストールされているプログラムのリストから「Microsoft Office」を選択し、「変更」をクリックします。
2. 「機能の追加/削除」を選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「インストール オプション」パネルで:
 - a. 「**Microsoft Office Excel**」をダブルクリックし、「**.NETプログラミング サポート**」の左側にある矢印をクリックして、「マイ コンピュータから実行」を選択します。
 - b. 「**Microsoft Office Word**」をダブルクリックし、「**.NETプログラミング サポート**」の左側にある矢印をクリックして、「マイ コンピュータから実行」を選択します。
 - c. 「続行」をクリックします。

PIAがない場合は、Microsoft Webサイトへのリンクの1つを使用して、使用しているMicrosoft OfficeバージョンにPIAをインストールします:

- Office 2003: <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=3c9a983a-ac14-4125-8ba0-d36d67e0f4ad>
- Office 2007: <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=59DAEBAA-BED4-4282-A28C-B864D8BFA513>

9

データ管理

この項の内容:

FDM	159
FDMEE	162
Data Relationship Management	163

FDM

サブトピック

- FDMアップグレード
- Shared Servicesへの登録
- Financial Managementの構成
- Oracleクライアント/プロバイダ・データベースの接続
- データベース・ユーザーIDまたはパスワード
- ユーザー認証
- 一括挿入
- Active-Xコンポーネントのエラー
- アプリケーション作成時のアクセス・エラー
- 64ビットWindowsでの新規FDMアプリケーションの作成の失敗

FDMアップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

問題: 旧リリースからFDMをアップグレードする際、旧リリースのアプリケーション・データを保持する必要があります。

解決策: スキーマ更新ユーティリティを使用してアプリケーションをアップグレードします。新しい場所にデータを複製した場合、アプリケーションを追加するように求められます。追加した各アプリケーションについて、複製したFDMデータ・フォルダとデータベース情報を指定します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』のアプリケーションのアップグレードに関する項を参照してください。

Shared Servicesへの登録

問題: Shared ServicesへのFDMの登録が失敗し、構成ログ・ファイルに次のエラーが表示されます:

```
com.hyperion.cis.config.CmsRegistrationUtil, ERROR, Authentication failed:
com.hyperion.interop.lib.OperationFailedException: Unable to Authenticate. Unable to
Authenticate
```

解決策: FDMとShared Servicesサーバーの日時を同期化します。

Shared Servicesの登録処理はSSOトークンを使用し、認証の許可に正確な日時スタンプを必要とします。たとえば、FDMとShared Servicesサーバーの日付が1日違うと(タイムゾーンの違いは除く)、Shared Servicesは古くなったCSSトークンを拒否するため、認証が失敗します。

Financial Managementの構成

問題: 次のエラー・メッセージが表示されます: サーバー/クラスタが正しく構成されていません。クラスタまたはサーバーの接続を再構成してください。

解決策: FDMアプリケーション・サーバーで登録されているFinancial Managementクラスタを参照するようにWorkbenchのマシン・プロファイルを更新します。プロファイルでは、ターゲット・システム・サーバーまたはクラスタの設定がOracle Hyperion Financial Managementの設定と一致する必要があります。一致しない場合、通信できません。

Oracleクライアント/プロバイダ・データベースの接続

問題: 「ORA-12154: TNS; サービス名を解決できませんでした。」というエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 未解決のOracleの問題を修正し、tnsnames.oraでOracleサービス名を解決できることを確認します。



注:

tnsnames.oraのすべての値では、大文字と小文字が識別されます。

データベース・ユーザーIDまたはパスワード

問題: FDMにログオンすると、「ORA-12154: TNS; サービス名を解決できませんでした」というエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次の手順を行います:

1. UDLファイルを作成し、データベース接続の詳細を入力して接続をテストし、マシンがデータベース・サーバーと通信できることを確認します。
2. FDMデータベースとしてOracleを使用している場合は、Oracle Provider for OLE DBを含んだWindows Interfacesを持つOracleクライアントが、FDMアプリケーション・サーバー、およびWorkbenchクライアントを経由してFDMにアクセスするすべてのサーバーにインストールされていることを確認します。

ユーザー認証

問題: マップ、ステージの検証、ステージのエクスポートまたは表の制御時に、「ユーザーを認証できませんでした」というエラー・メッセージが表示されます。

解決策: アプリケーションの統合設定を修正します。

▶ 統合設定を修正するには:

1. Workbenchを起動します。
2. 「アダプタ」タブで、「ターゲット・システム・アダプタ」を展開します。
3. システム全体のアダプタとして設定されているか、FDMの場所に割り当てられている**HFMアダプタ**を展開します。
4. マシン・プロファイルを開きます。
5. グローバルIDが存在する場合は、ユーザーのパスワードが正しいことを確認します。
6. ユーザーがターゲット・システム・アプリケーションとアプリケーション・メタデータへのアクセスに必要なセキュリティレベルを持っていることを確認します。

一括挿入

問題: 次のようなエラー・メッセージが表示されます: ファイル'`//servername/shared foldername/application foldername/Inbox/filename.fmt`'を開けないため、一括挿入できませんでした。オペレーティング・システム・エラー・コード5(見つからないエラー)

解決策: 次の手順を行います:

1. SQL Serverを確認して、MSSQLServerサービスを実行しているユーザーを確認します。ユーザー・アカウントがローカルである場合、これをドメインに変更し、ユーザーに読取り共有権限を与え、アプリケーション・フォルダ'`//servername/shared foldername/application foldername`'へのNTFSを読み取ります。
2. SQL Server Enterprise Managerを起動し、データベースを作成したユーザーに一括挿入の管理者の役割が与えられていることを確認します。

Active-Xコンポーネントのエラー

問題: ActiveXコンポーネントがオブジェクトを作成できないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次の条件が満たされていることを確認します:

- FDMアプリケーション・パス'`//servername/fdmshare/fdmappname`'の権限を変更しました。
- Microsoft ExcelがFDM Java Webアプリケーション層にインストールされています。FDMサーバーは、スキーマの更新、仕訳、マルチロード、テンプレート、グリッドのエクスポートなどの多くの機能でExcelを必要とします。

アプリケーション作成時のアクセス・エラー

問題: ワークベンチ・クライアントを使用してFDMアプリケーションを作成しようとする時、「パス/ファイル・アクセス・エラー」というメッセージが表示されます。

解決策: FDMDataフォルダを更新し、FDMサービスのアカウントIDにフル・コントロールを割り当てます。

64ビットWindowsでの新規FDMアプリケーションの作成の失敗

問題: FDMワークベンチWin32クライアントを使用して新しいアプリケーションを作成する際、「エラー: ログインにはデータベース・ユーザーIDとパスワードが必要です!」というエラーが返されます。

このエラーは、データベース構成ページに表示される情報が正しくないか無効になった場合に返されます。このエラー・メッセージは、32ビットのOracle Database Clientが64ビットのWindowsマシンにインストールされていないときにも返される場合があります。

解決策: 64ビットのWindowsでOracleソフトウェアを使用する場合:

1. 32ビットのOracle Database Clientを64ビット・マシンにインストールします。
2. 32ビットのクライアントを使用して再構成してから、サーバーを再起動します。

適切なデータベース・プロバイダには(a) ワークベンチWin32クライアント・マシンにインストールされているOracle Provider for OLE DBと、(b) Microsoft OLE DB Provider for SQL Serverがあります。

Oracle Hyperion Financial Data Quality Managementがワークベンチ・クライアントを介して正常にデータベースに接続するためには、これらのプロバイダがユーザーのシステム上に存在する必要があります。64ビットWindowsでは、32ビットおよび64ビットのOracleソフトウェアが個別にインストールされて個別に使用されます。64ビットのOracleソフトウェアは、32ビットのOracleソフトウェアがインストールされているかどうかを認識しません。両方とも64ビットWindowsプラットフォームにインストールされている場合は、個別に動作します。

FDME

サブトピック

- [データ・ロード・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なガイドライン](#)
- [データ・ルールにアクセスできない](#)
- [FDMEがEPM Workspaceで使用できない](#)

データ・ロード・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なガイドライン

データ・ロード・プロセスをトラブルシューティングするには:

「プロセスの詳細」ページから開始します。**Show log**リンクには、データ・ロードの手順の詳細が示されます。「システム設定」で「ログ・レベル」を設定できます。1から5の順に詳細になります。**ODIセッションID**リンクをクリックすると、ODIセッション・ログがXML形式で提供されます。

データ・ルールにアクセスできない

問題: リリース11.1.1.3で実行されなかったデータ・ルールは、このリリースへのアップグレード後にアクセスできません。

この問題は、アップグレード中にシナリオ・ディメンションのデフォルト値を指定しなかった場合に発生します。

解決策: アクセスできないルールを再作成します。

FDMEEがEPM Workspaceで使用できない

問題: FDMEEとWebLogicが異なるマシンにある分散環境では、FDMEEがEPM Workspaceで使用できません。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceで、「ナビゲート」、「管理」、「データ管理」の順に選択すると、メニューには $\${ERPI}$ と表示されます。

この問題は、以下のいずれかの条件下で発生します:

- aif.earファイルがFDMEEサーバーにコピーされません。
- aif.earファイルが、当該環境のWebLogicサーバー上に存在しません。

aif.earファイルは、WebLogicと同じマシンになければなりません。

解決策: Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise EditionをWebLogic管理サーバー・マシンにインストールして、Java Webアプリケーションを再デプロイします。

Data Relationship Management

サブトピック

- [Webクライアントへのアクセス](#)
- [初期化の失敗](#)
- [JVM作成エラー](#)
- [無効なクラスパス・ルート](#)
- [Data Relationship Managementサーバーの起動](#)
- [アップグレード時のエラー・メッセージ](#)

Webクライアントへのアクセス

問題: Windows 2008 64ビット・プラットフォームにData Relationship Managementをインストールした後、Webクライアントにアクセスしようとすると次のエラーが発生します:

HTTP Error 500.19 - Internal Server Error The requested page cannot be accessed because the related configuration data for the page is invalid.

解決策: IIS構成ファイル(C:/Windows/System32/inetsrv/config/applicationHost.config)で、以下のセクションにある2か所のDenyをAllowに置換します。

```
<configuration>
<configSections>
  <sectionGroup name="system.webServer">
    <section name="handlers" overrideModeDefault="
```

```
Deny
" />
  <name="modules" allowDefinition="MachineToApplication"
  overrideModeDefault="
Deny
" />
```

初期化の失敗

問題:「AuthMode」システム・プリファレンスが「混在」または「CSS」に設定されている場合、Data Relationship Managementが初期化に失敗したというメッセージが表示されます。

解決策: 次の条件が満たされていることを確認します:

- CSSブリッジ・ホスト・フィールドで指定されたホストと通信できるようにファイアウォール・ソフトウェアが構成されています。
- JVMパスが、C:/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/JRE/Sun/1.6.0/bin/server/jvm.d11などの有効なJVM DLLに設定されています。
- DRMコンソールの「CSS」タブの「**Oracle**インスタンス」フィールドがC:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1などの有効なOracleインスタンスに設定されています。
- 「クラス・パス」タブに、次のような必須JARファイルが含まれています:
 - C:/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/products/DataRelationshipManagement/server/jar/awbutil.jar
 - C:/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/products/DataRelationshipManagement/server/jar/cassecurity.jar
 - C:/Oracle/Middleware/EPMSys11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_j2se.jar
 - C:/Oracle/Middleware/wlserver_10.3/server/lib/wlsqserver.jar
- データベースがShared Servicesインスタンス用に実行されています。
- CSSが有効なホスト・マシンでOracle DRMサーバー・プロセス・サービスが実行されています。
- CSS Bridgeホストが実行中です。
- CSS Bridgeサービスが実行中です。

JVM作成エラー

問題:「JVMを作成できません」というエラーが表示されます。

解決策:

- CSSを使用可能にし、サービスを再起動します。
 1. 「Common Security Services」ページの「**CSSブリッジの使用可能**」をチェックします。
 2. サービスを再起動します。
- Javaパスが正しいことを確認します。
- Oracle Hyperion Shared Servicesがローカルにインストールされていることを確認します。

無効なクラスパス・ルート

問題: イベント・ログに無効なクラスパス・ルートのエラーが含まれています。

解決策: サーバーを再起動します。

Data Relationship Managementサーバーの起動

問題: Oracle Data Relationship Managementサーバーの起動に失敗します。

解決策:

- クラスパスまたはシステム・パスを変更した場合、コンピュータを再起動します。
- 認証モードを内部に変更し、サーバーを再起動します。正常に起動した場合、問題はCSSに関連していることを示しています。
- イベント・ログのエラー・メッセージを確認します。

アップグレード時のエラー・メッセージ

問題: アップグレード中に次のエラー・メッセージが表示されます: 次のエラーが発生し、“Service Oracle Hyperion Data Relationship Management”のインストールに失敗しました: “システム・エラー。コード: 1073。指定されたサービスはすでに存在します。”

解決策: このメッセージを無視し、「OK」をクリックして、アップグレードを完了します。

